香川縣史

第貳篇

特70
67

特70
67

香川縣史第二篇目次

第一項　陵墓

崇德天皇陵1　神櫛王墓2　日向王墓3　行方親王墓4　狹留雛王墓5　鷲住王墓6　鷲住王々子秋津根王墓7　手置帆負命墓8　白河天皇奉祀所9　寛平法皇奉祀所10　仁德天皇奉祀所11　一

第二項　人物

勤王

僧月照及信海1　松平左近2　長谷川宗右衛門同速水3　松崎澁右衛門4　日柳燕石5　土肥大作6　土肥七助7　小橋安藏木內順次小橋友之輔8　田岡小輔9　阿比安太郎10　藤川三溪11　七七

學士

岡田臣牛養1　讃岐公永直2　佐伯直豐雄3　刈田首安雄及氏雄今雄4　凡直春宗5　讃岐朝臣高作及時雄6　阿刀大足7　雨森三哲8　中村彦三郎9　後藤彌兵衛10　三田傳左衛門11　柴野彦輔12　高尾千右衛門13　梶原九郎右衛門14　中山城山15　渡邊半八　二〇

16 畿村半右衛門17 加藤俊次18 中主膳19 友部新八郎20 友安良介21 尾池享平22 藤澤昌藏23 富家五十鈴24 秋山伊豆25 中村興三26 山田勝次27 片山直造28 中村正藏29 松岡調30

高僧

弘法大師1 眞雅僧正2 眞然僧正3 寶慧僧正4 法眼和尚位道昌5 傳燈大師6 智證大師7 聖寶僧正8 覺明上人9 贈僧正宥範10 觀賢僧正11 悲曉法師12 聖一國師13 智泉大德14 海印寺道雄僧正15 增吽僧正16 岐陽禪師17 天圭長老18 德巖禪師19 竹林上人20 綾洲和尚21 三七

孝子

丸部臣明麿1 七五郎2 官藏3 新藏4 政右衛門5 現七6 利八7 山喜8 五一

烈女

弟橘姫1 里也2 井上通3 初女4 五六

名士

多之助1 筑輪野鹿2 久保太郎右衛門3 平賀源內4 勝田精兵衛5 村上彦三郎6 六〇

向山周慶7 久米榮左衛門8 長町竹石9 中條勝次郎10 川崎舍竹郎11 中桐文炳12 奈良專二13 長谷川佐太郎14 神保直吉15 大久保諶之丞16 七三

循吏

西岡與兵衛1 壺井六五郎2 筧速水3 木村亘4 尾崎理左衛門5 大塚八郎左衛門6 七八

武勇

三谷弥七1 池內孫五郎高敎及主殿助高晴2 植松四郎3 眞部五郎祐主4 曲垣平九郎5 宥遍6 奥村無我7 八二

良工

高篠三郎大夫1 紀太理兵衛2 熊見周吉3 玉楮象谷及藤川黑齋4 八四

第三項　名勝古跡

大川郡　八四

馬宿1 黑羽城2 西光寺3 海藏庵4 引田城5 萬生寺6 積善坊7 森權平墓8 安戸池9 柚麿明神10 白鳥神社11 千光寺12 三本松町13 寶光寺14 正行寺15 若宮八幡神社

16 興田寺 17 虎丸城 18 大水主神社 19 温室 20 磐田八幡宮 21 釋王寺 22 脇屋義治墓 23
雨瀧城 24 八幡神社 25 八劍大明神 26 大槨城 27 茶臼山城 28 西敎寺 29 阿弥陀寺 30 布
勢神社 31 大鏡彦神社 32 德勝寺 33 國弘城 34 石田城 35 小倉寺 36 寶藏院 37 宇佐神社
38 八幡池 39 長尾寺 40 飛揚瀑布 41 畫寢城 42 大窪寺 43 願興寺 44 圓光寺 45 鶴羽神社 46
津田町 47 松原 48 寶相寺 49 神前神社 50 男山神社 51 神前城 52 志多張神社 53 長福寺
54 鴨部神社 55 佛穴 56 志度町 57 靈芝寺 58 志度寺 59 蜑屋敷趾 60 眞覺寺 61 東林寺 62
多和神社 63

木田郡

波ヶ淵 1 眞行寺 2 鎌倉塚 3 和爾賀波神社 4 宗壽院 5 專修寺 6 淨土寺 7 細川清
氏墓 8 鰐河神社 9 白山神社 10 諏訪神社 11 山大寺 12 平木城 13 法泉寺 14 天野神社
15 始覺寺 16 八幡神社 17 池戸城 18 西德寺 19 常滿寺 20 妙德寺 21 蓮城寺 22 常光寺 23
長覺寺 24 福住寺 25 雷八幡神社 26 八幡神社 27 二本杉 28 小簑瀧 29 熊野神社 30 藤尾
八幡神社 31 神內城 32 專福寺 33 八幡神社 34 戸田城 35 信光寺 36 剱方寺 37 十河城 38
稱念寺 39 十河一存同存保墓 40 饗宇神社 41 田井城 42 源勝寺 43 松宇神社 44 池田城
45 合子八幡神社 46 大麻山城 47 三谷城 48 三谷兵庫頭墓 49 石舟 50 八幡神社 51 加麻

良神社 52 蓮勝寺 53 眞樂寺 54 清水神社 55 由良山城 56 拜師神社 57 岩田神社 58 正大
寺 59 鹿島神社 60 長專寺 61 八幡神社 62 八幡神社 63 石清水神社 64 諏訪神社 65 龍王山
66 長塚 67 歡掛松 68 喜岡城 69 喜岡寺 70 延命寺 71 妙覺寺 72 總門跡 73 射落島 74 佐藤嗣
信墓 75 大夫黑墓 76 萊切地藏 77 薙刀井戸 78 瓜生岡 79 幡羅城 80 源氏峯 81 田井城 82 六
萬寺 83 白羽神社 84 八栗城 85 松井神社 86 八栗山 87 數珠掛孫兵衛墓 88 八栗寺 89 願成
寺 90 庵治城 91 專休寺 92 櫻八幡神社 93 遠見山 94 觀音崎 95 延長寺 96 祈石 97 駒立石
98 屋島神社 99 八幡神社 100 屋島山 101 屋島寺 102 屋島城 103 箕彦神社 104 相引川 105 赤牛
崎 106 地藏寺 107 鵜羽神社 108 菊王墓 109 佐藤嗣信墓 110 大砂子 111 春日神社 112 加滿利神
社 113 熊野神社 114 菩立寺 115 八坂神社 116 神內清定墓 117 神內城 118 向城 119 蛭子社 120

小豆郡

土庄町 1 加藤清正贈品 2 余島 3 富岡神社 4 銚子瀑 5 亀山神社 6 北條時賴贈品
7 鐸姫ヲ祭ルノ趾 8 內海灣 9 片桐且元贈品 10 神懸山 11 石門 12 星城 13 他浦信胤
墓 14 內海神社 15 田中綏猷墓 16 葺田神社 17 仙崖瀑 18 鳴瀑 19 小江港 20 伊喜末神社
21 洞雲山 22 碁石山 23 觀音寺 24 古江庵 25 堀越庵 26 田浦庵 27 向庵 28 常光寺 29 庚申
堂 30 芦浦庵 31 馬木堂 32 岡ノ坊 33 榮光寺 34 清瀧山 35 大師堂 36 極樂寺 37 一谷庵 38

東山庵39 上藥師40 下藥師41 清見寺42 峯ノ庵43 本堂44 安養寺45 誓願寺46 阿弥陀寺47 櫻ノ庵48 蒲野庵49 風穴庵50 正法寺51 祈願寺52 愛染寺53 長勝寺54 不動堂55 保壽寺56 釋迦堂57 明王寺58 光明寺59 地藏堂60 保安寺61 藥師堂62 瀧水寺63 淨土寺64 湯舟庵65 地藏寺66 多聞寺67 栂尾庵68 毘沙門堂69 萬願寺70 藥師堂71 觀音堂72 寶幢坊73 本覺寺74 寶生院75 觀音堂76 行者堂77 淨源坊78 西光寺79 天神山庵80 藤ノ庵81 江洞庵82 小瀧庵83 大木戸庵84 觀音堂85 光明庵86 阿弥陀堂87 釋迦堂88 松林寺89 藥師堂90 長勝寺91 阿弥陀堂92 瀧湖寺93 觀音堂94 圓滿寺95 大聖寺96 金剛寺97 歡喜寺98 雲石庵99 藥師堂100 觀音寺101 四門瀧102 吉田庵103 福田庵104 雲海寺105 神宮寺106 當濱庵107 岩谷庵108 橘庵109

香川郡

一四七

石清尾八幡宮1 龜山2 行泉寺3 克軍寺4 龜石5 西方寺6 靈源寺7 稻荷神社8 槻本神社9 栗林公園10 上村城11 中村城12 多賀神社13 佐藤城14 鹿ノ井15 光臨寺16 西法寺17 鶴尾神社18 紫雲山19 室山城20 觀興寺21 高善寺22 一宮城23 田村神社24 花ノ井25 袂井定水井26 大寶院27 成合神社28 櫻木神社29 法恩寺30 來光寺31 佛生山町32 法然寺33 滕宮34 百相神社35 石清水八幡神社36 淺野八幡神社37 船岡山38 岡上神社39 晴明屋敷40 細川頼之墓41 立善寺42 川東神社43 天尾神社44 箭造城45 廣田46 祈雨神社47 百々淵48 蛍洞神社49 最明寺50 鳥居城51 平尾神社52 專光寺53 西谷八幡神社54 天野神社55 八幡神社56 岩部八幡神社57 内場城58 好廣城59 盡江鏡泉60 鎧石61 白人神社62 天福寺63 右馬頭館蹟64 冠纓神社65 由佐城66 妙光寺67 利劍寺68 天目一神社69 池内城70 藤原盛兼墓71 諏訪神社72 長福寺73 敎圓寺74 大龍院75 八幡神社76 敎法寺77 圓座村78 正華寺79 廣幡神社80 本堯寺81 天滿神社82 中間ノ梅83 六妻山84 川部八幡神社85 檀紙86 辨天神社87 中間城88 弦打山89 岩田神社90 飯田神社91 大葬神社92 根香山93 佐料城94 藥師寺95 勝賀山96 藤尾城97 芝山98 宇佐神社99 香西寺100 萬德寺101 國清寺102 根香寺103 鎭西ヶ崎104 生島105

高松市

一七三

高松市1 高松城2 高松港3 王子社4 愛宕社5 見性寺6 弘憲寺7 日妙寺8 蓮華寺9 吉祥寺10 眞行寺11 常福寺12 法泉寺13 東光寺14 大本寺15 福生寺16 地藏寺17 正覺寺18 德成寺19 善昌寺20 本典寺21 妙朝寺22 淨願寺23 龜井24 藤森神社25 福善寺26 極樂寺27 本覺寺28 安養寺29 興正寺別院30 勝法寺31 德法寺32 西福寺33 願船坊34 無量壽院35 高善寺36 覺善寺37 深妙寺38 清光寺39 華下天滿宮40 中野天滿宮

41 大護寺42 寶相寺43 廣昌寺44 聰德院45

綾歌郡

一八二

萬燈寺1 國分寺2 法華寺3 鷲山城4 鷲峯寺5 春日神社6 宇佐八幡神社7 福家城8 長然寺9 八幡神社10 梶川神社11 五社宮神社12 北宮八幡神社13 長樂寺14 瀧宮天滿神社15 瀧宮踊16 有岡天滿神社17 八幡神社18 羽床城19 本法寺20 福宮神社21 長柄神社22 法專寺23 法華寺24 伊賀城25 後藤城26 椎尾八幡神社27 曲木神社28 善福寺29 西時寺30 山熊神社31 圓勝寺32 大川山33 長善寺34 長光寺35 大谷城36 長尾城37 炭所城38 三島神社39 鳩峯神社40 金山神社41 八幡神社42 大井神社43 尊光寺44 超勝寺45 金丸城46 東光寺47 春日神社48 飯神社49 岡田神社50 宇閑神社51 西覺寺52 椎尾城53 日本神社54 飯山55 三谷神社56 三谷寺57 極樂寺58 八幡神社59 萬福寺60 專立寺61 福成寺62 讃岐國廳跡63 國分石64 木丸殿跡65 城山神社66 新宮八幡宮67 加茂神社68 鴨神社69 松山館跡70 綾織塚71 正蓮寺72 遍照院73 白峯寺74 烟宮75 神谷神社76 高屋神社77 高屋城78 梅宮八幡神社79 雲井御所跡80 藥師院81 惣社神社82 寶性院83 西庄城84 白峰神社85 高照院86 坂出町87 宇多津町88 宇多津城89 宇夫階神社90 聖通寺91 鄉照寺92 圓通寺93 多聞寺94 本妙寺95 聖德院96 西光寺97 南隆寺98 田潮八幡神社99 細川頼之手栽松100

仲多度郡

二〇〇

光善寺1 金倉寺2 西福寺3 興北城4 源正寺5 興正寺別院6 安樂寺7 垂水神社8 圓淨寺9 眞樂寺10 玄龍寺11 諏訪神社12 菅原神社13 吉井神社14 神野神社15 濃池16 白鳥神社17 大山神社18 春日神社19 氏神社20 尾溜神社21 藤尾神社22 山戸神社23 三所神社24 加茂神社25 鵜神社26 西光寺27 藤目城28 琴平町29 金刀比羅宮30 清塚31 琴平公園32 大麻神社33 善通寺町34 善通寺35 木熊神社36 景政神社37 八幡神社38 雲氣神社39 多度津町40 多聞院41 多度津城42 道隆寺43 海岸寺44 熊手八幡神社45 圓光院46 牛額寺47 人面石48 鹽飽諸島49 觀音寺50

丸龜市

二一二

丸龜市1 丸龜城2 會下天滿神社3 玄要寺4 寶津寺5 瑞覺院6 宗泉寺7 妙法寺8 藥師院9 淨通寺10 善龍寺11 正玄寺12 本行寺13 圓光寺14 專念寺15 威德寺16 修善寺17 定福寺18 大善院19 眞光寺20 九品院21

三豐郡

二一五

加茂神社1 八幡神社2 不動護國寺3 吉祥院4 普門院5 金光寺6 平石7 仁尾城

8 八幡神社 9 稲荷神社 10 三崎神社 11 託間城 12 圓明寺 13 超圓寺 14 大見城 15 天霧城 16 彌谷寺 17 花立碑 18 廐城 19 大水上神社 20 御手洗神社 21 勝間城 22 高津神社 23 石塔 24 首山觀音堂 25 忌部古趾 26 法華寺 27 熊岡八幡神社 28 不動瀑 29 高良神社 30 本山寺 31 財田城 32 光顯寺 33 天滿神社 34 宗運寺 35 鉾八幡神社 36 萬福寺 37 寶光寺 38 正善寺 39 善敎寺 40 伊舍那院 41 雨ノ宮神社 42 天神社 43 菅生神社 44 大興寺 45 龍神社 46 黑島神社 47 大通寺 48 加茂神社 49 植田松 50 柏祇神社 51 荒魂神社 52 加廐良神社 53 立專社 54 西蓮寺 55 古塚二 56 高尾神社 57 觀音寺町 58 觀音寺 59 琴彈神社 60 一夜庵 61 琴彈公園 62 浴日館 63 觀音寺城 64 古塚 65 粟井神社 66 雲邊山 67 瀧宮神社 68 法泉寺 69 井上神社 70 萩原寺 71 山田神社 72 八幡神社 73 八幡神社 74 國祐寺 75 豐濱町 76 八幡神社 77

陵

崇德天皇御陵

長寛二年八月二十六日上皇阿野郡甲知皷岡（綾歌郡原中村）木丸殿ニ崩セラレシカ同年九月十八日戌時白峯山上ニ荼毘シ奉リ即御陵ヲ此所ニ營メリ敷地五反六畝八歩ナリ茲ニ其形狀ヲ述レハ樹木鬱蒼トシテ天地自ラ蕭條タリ其中ニ御陵アリ外部ハ繞ラスニ木柵ヲ以シ內部ハ石ノ玉垣ヲ以テ之ヲ圍ミ前面ニ石礎アリ粟石五十九段切石二十三段其上ニ石造燈籠三對石塔一對アリ此石塔ハ文治年間源頼朝ノ奉納スル所ナリ上皇崩御ノ當時遠江國ニ住セル僧章實ナルモノ曩ニ玉座近ク奉仕セシ者ナリシカ崩御ノ事ヲ聞キ直ニ當國ニ來リ皷岡ノ行宮ヲ請ヒ得テ御陵ノ傍ニ移シ御廟ヲ創建シ頓證菩提ヲ吊ヒ奉リシカハ即此御廟ヲ頓證寺ト稱シ奉レリ年所ヲ經テ後小松天皇宸筆頓證寺三大字ノ扁額ヲ御奉納アリ今之ヲ白峯寺ニ秘藏ス但御廟門ハ六條判官爲義鎭西八郎爲朝父子ノ像ヲ左右ニ安置シ以テ御廟ヲ守護シ奉レリ

仁安三年秋八月西行法師行脚シテ此山ニ登リ陵廟ノ頽敗スルヲ見テ笈ヲ橘樹ニ

倚セ石頭ニ踞シ和歌ヲ咏ス

磨かれし玉の臺を鏡深き野邊に移して見るぞかなしき

寶暦十三年仲秋高松藩主松平頼恭山陵ニ謁シ詩アリ

一從仙蹕出京畿遺廟陰森鎖翠微雜書玉牀餘感慨至今金榜有光輝乾坤終古山長在松檜多風雲不歸字内幸逢垂拱日千年祭祀荅天威

墓

神櫛王御墓

景行天皇第十九ノ皇子神櫛王當國ノ國造ニ任セラレ其薨セラルヽヤ三木郡木田郡本庄體村ニ葬リ奉ル土人之ヲ王墓又ハ大墓ト稱シ二個ノ石ニ星辰ノ象ヲ刻スルモノ大政維新以前ニ在テハ寒烟蔓草ノ間ニ屹立シ行路ノ人モ俯リ奉リ耕耘ノ人モ穢シ奉レハ神靈ノ安ンス可カラサルヲ憂ヘ明治三年九月高松藩知事松平頼聰神祇官ニ稟申シテ之ヲ修理シ石碑ヲ其前ニ建立ス

大國之國造小國之國造者處々爾持分居氏朝廷乃御垣奉仕氏枯野之小船不輕職爾在郡理故掛麻久毛畏伎　天皇賀御子等哀毛封賜氏玉藻吉吾讃岐國國造乃祖神櫛王者經向之日代宮爾治天下斯　天皇命能御子爾那毛坐郡流如此氏玉匣三木郡武例郷爾在郡理瑛能經年隨爾還去氏退紅能不有狀爾斯母成去而雖有其地哀王墓登叙言祁流恐哉如此在空數凡那良奴地能如此氏在本波手引之絲乃甚毛惶久甚毛慨伎事爾夜毛不有是以御執之梓乃眞弓思起氏如此那母奉治郡流故自今者行路人毛不奉侮住居邑人毛不奉穢王能御靈毛如何爾宇流波志美思須良本登其事山哀樹實乃一件此石面爾書誌須爾那毛

高松藩知事松平頼聰謹撰

御墓所在ノ山周圍二百九十三間七分高前四間二分後二間八分堤二百五坪九合二勺堀百六十坪二合鳥居高一間七分幅一間五分木石燈籠各一對　御墓高一間六分玉垣ヲ以テ之ヲ繞ラシ木柵ヲ以テ其前面ヲ護セリ石碣切石三十七段トス

日向王御墓

綾歌郡府中村字前谷上所ニ古墳アリ土人ノ口碑ニ依レハ日向王ノ御墓ト云フ王ハ狹留靈王六世ノ孫ナリ

行方親王御墓

綾歌郡飯野村大字東分字山下ニアリ土人之ヲ行方親王ノ御墓ト云フ

狭留靈王御墓

綾歌郡法勲寺村大字下法軍寺字西尾及同郡陶村字狭王ノ両所共ニ同御墓ト土人傳説セシモ孰レカ是ナルヤ未タ判明セス

鷲住王御墓及同王々子秋津根王御墓

綾歌郡坂本村大字西坂元字山越ニアリシヲ土人鷲住王ノ御墓ト稱シ同村大字東坂元字秋常ニアリシヲ同王々子秋津根王ノ御墓ト稱ス

手置帆負命墓

三豊郡笠田村大字竹田字產土神社ニアリ

白河天皇奉祀所

香川郡宮脇村字宮脇ニアリ隨願寺記ニ白河法皇詔勅アリテ此寺ヲ興隆セラレシヲ以テ大治四年法皇崩御ノ後主僧覺道奏請シテ奉祀所ヲ香川郡笑原郷中村ニ築キ歳時ニ薦饗ストアリ即是ナリ

寛平法皇奉祀所

翁媼夜話并ニ古老ノ口碑ニ依レハ朱雀天皇承平中勅シテ寛平法皇假陵ヲ香川郡坂田郷萬願村（今鷲田村ニ屬ス）室山ニ築キ觀興寺觀賢僧正ノ墓ト相接ス（今栗林公園背後ノ山上ニ二三ノ古墳アリ蓋之ナランカ）同七年七月十九日法皇御忌六月十一日僧正十七年忌ヲ兼ネ勅使ヲ派遣セラル是時勅使ノ宿泊セラレシ地ヲ後勅使村ト稱ス（勅使村ハ明治二十三年ノ改正ニ依リ今鷲田村ノ大字トナレリ）

仁德天皇奉祀所

大川郡松尾村茶臼山ニアリ土人ノ口碑ニ依レハ往古本村ハ難波郷ト稱ス此奉祀所アルヲ以テナラン蓋村民天皇ノ遺德ヲ追慕シ之ヲ築キシナラン

香川縣史第二篇人物

勤王

僧月照及信海

月照ハ忍向又忍海又忍鎧ト稱ス文化十年多度郡（仲多度郡）吉原村ニ生ル家世貧農ニシテ、祖父ヲ八藏ト云フ八藏二男アリ兄ヲ鼎齋ト稱シ弟ヲ藏海ト稱ス八藏常ニ佛ヲ信ス是ヲ以テ二子ヲ捨テ僧ト爲ス鼎齋ハ雄飩高見島（仲多度郡高見島村）理正院及備中ノ諸寺ニ轉住ス後故アリ還俗シテ二男ヲ擧ク長ハ月照ニシテ季ハ信海ナリ月照幼名ヲ久丸ト呼フ弟信海ト共ニ捨身シ其季父ナル多度郡碑殿村（今仲多度郡吉原村ニ屬ス）遍照院牛頭密寺住僧藏海ノ法弟ト爲ル藏海京都清水寺ニ轉住スルニ及ヒ月照信海ト共ニ高野山ニ登リケルカ月照ハ藏海ノ後住トナレリ時ニ月照年二十餘ナリ當時德川幕府措置宜シキヲ失レ皇室ヲ輕侮スル愈甚シ月照慷慨禁スルコト能ハス寺ヲ信海ニ讓リ諸國ヲ跋渉シ時勢ヲ洞察ス安政二年二月始テ關白近衛忠熙ニ謁シ歌道ノ門葉ニ托シ常ニ伺候ス同三年十一月眞言阿字ヲ書寫シ之ヲ孝明天皇ニ奉リ斷食シテ龍體ノ安全邦家ノ泰平外敵ノ退散ヲ祈ル尋テ內勅ヲ奉シ信海ト共ニ金剛峯寺ニ祈願シ感書ヲ賜ハル

ニ至ル此事ノ天下志士ニ傳フルヤ梅田源次郎頼三樹三郎等日夕往來互ニ時事ヲ痛論ス是ヲ以テ幕吏之ヲ忌ムコト日一日ヨリ甚シ同五年八月老中間部下總守上京シ所司代酒井若狭守等ト議シ勤王ノ諸有志ヲ捕縛シ之ヲ關東ニ送致ス是ニ於テ禍累將ニ月照ニ及ハントスルモ潛伏スル所無ク乃チ近衛忠熙ノ松平修理大夫齊彬（隆摩藩主島津氏時幕府姓ヲ賜ヒ松平氏ト稱ス）ニ致ス所ノ書翰ヲ懷ニシ西郷吉之助（隆盛）有村俊齋（海江田信義）僕重助ト共ニ薩摩ニ避ケントス乃チ月照ハ瑤瓊院鍍水ト變名シ修驗者ニ扮シ同年九月十一日京都ヲ發シ大阪ヨリ赤馬關ニ航シ二筑ノ間ヲ經テ千辛萬苦シテ薩摩ニ入ル時恰モ修理大夫齊彬ノ逝去スルニ會シ幕吏追捕太タ急ナリ依テ西郷吉之助ト相謀リ日向ニ赴クト稱シ福岡藩平野次郎（月照ノ筑前ナル次郎ト偕ノ約ナ藩ヒ次郎ハ肥後岳男藩外ト變名シ之ニ隨行ス）ト共ニ舟ヲ發シ寒ヲ舟中ニ開キ爛醉朗吟セシカ月照若ふへき限は知らし不知火のつくしにつくす人の情にト吟シツヽ又歌出來タリトテ墨斗ヲ取出シ歌ヲ懷紙ニ記シ西郷ニ示シ未タテニハモ整ハス如何ト云ニ西郷披キ見テイカサマニモト云タルノミニテ其儘之ヲ懷中ニ納メシカ頓テ西郷ハ舷ニ出テシカハ續ヒテ月照モ出立テ遂ニ西郷ト相抱キ海ニ投ス次郎等大ニ驚キ舟人ヲ促シ引上ケシメントスルモ搜索ニ時ヲ移セシニ稍アリテ二人ノ屍ハ波上ニ浮タレハ漸ク舟中ニ引上ケシモ西郷ハ蘇生シ（西郷傷中ノ夾袋ヨリ月照辭世ノ和歌二首出ツルト云フ）月照ハ終ニ甦ラサリキ實ニ安政五年十一月十六日夜ナリ後明治二十四年十二月十七日月照ニ正四位ヲ贈ラル信海亦夙ニ皇朝ノ式微佛法ノ衰運ヲ憂ヘ粉骨碎身寧日ナカリシカ幕吏ノ嫌疑ニ觸レ免ルヘカサルヲ知リ和歌ヲ詠シテ曰ク眞心を盡さん時と思ふには憂に逢ふ身そ嬉しかりける安政六年正月五日京都西町奉行所ニ幽囚セラレ同年二月二十三日江戸ニ檻送セラル幕吏酷法ヲ以テ之ヲ責ムルモ其人ト爲リ豪爽ナレハ百折撓マス時政ノ非ヲ舉ケ却テ幕吏ヲ詰レハ幕吏亦其堅節ヲ好ミスト云フ同年三月十八日獄中ニ死ス明治二十四年十二月十七日從四位ヲ贈ラル

編者云世人月照上人桑梓ノ地ヲ以テ或ハ大阪ト爲スモノアルモ前本縣知事荒川義太郎上人眞蹟ノ扁額ヲ藏ス其款ノ文字ニ依リ桑梓ノ地ハ本縣タルコトヲ證セリト聞キ今ノ知事小野田元熙ヲ介シ其扁額及其款文ノ臨摸ヲ請フ荒川氏副フルニ左ノ手記ヲ以テス即之ヲ茲ニ錄シ明證ト爲スト云フ

此扁洛東清水寺住僧月照所書也。款曰。我生於嵐谷鷄足之間。又曰。號泥鷄。按讃岐國仲多度郡吉原村。即爲月照桑梓之地。其村隣于彌谷。又有寺號雞足山。彌谷岩谷國音相近故有此款也。月照尊王事跡載野史冊。特證款文之所基耳

松平左近

左近名ハ頼誠金岳ト號ス高松藩主松平頼儀第三子ナリ二兄皆夭スルモ故アツテ家ヲ嗣カス幼ニシテ江戸ヨリ高松ニ移リ後香川郡宮脇村ニ隱居レ以テ世ヲ避ク天性沈毅宏量ニシテ文武ノ才アリ特ニ佛典ニ精シ夙ニ宗藩水戸齊昭ノ風ヲ慕ヒ尊王ノ志甚厚シ天保十年京師ニ上リ皇居ノ衰頽ヲ目擊シ慨歎措ク能ハス爾來窮ニ四方ノ志士ト交リ皇威ヲ挽回セントス元治慶應ノ際故アリ京師ニ上リシカ孝明天皇其忠誠ヲ嘉シ給ヒ大納言坊城俊克ニ内詔アリ中啓三柄ヲ賜フ左近亦俊克ニ依リ短刀（俗來國作）ヲ献シ以テ天恩ヲ奉謝ス平常勤王論者藩士長谷川宗右衛門等ヲ延テ時事ヲ論究シ又日柳燕石ノ徒ト聲息ヲ通シ志士ノ幕吏ヲ避クルモノヲ庇蔭ス即中山侍從忠光長州藩士高杉晋作桂小五郎等ノ潛ニ我藩ニ入ルヤ皆左近ノ庇蔭ヲ受クト云フ文久三年五月十五日孝明天皇内勅ヲ高松藩主松平頼聰ニ傳ヘ一藩ノ軍事ニ參與セシム明治元年八月病テ沒ス

長谷川宗右衛門同速水

宗右衛門名ハ秀驥字邦傑峻阜ト號ス高松藩ノ世臣ニシテ文武ヲ兼修シ皆造詣スル所アリ朋冠天下ヲ游歷シ交ヲ四方ノ志士ニ締フ嚴名昌山藤田東湖會澤正志梁川星巖頼三樹梅田雲濱等ト斷金ノ交アリ幕府政ヲ失スルニ及ンテ皇室ノ衰頽ヲ慨シ大ニ爲ス所アラントス是ヨリ先キ水戸齊昭幕府ノ嫌疑ヲ受ケ幽閉セラルヽヤ固ヨリ其知遇ヲ厚クスルヲ以テ幕府ニ上書シ其寃ヲ訴フ事解クルノ後齊昭之ヲ德トシ義榮ノ二大字ヲ書シ之ヲ賜フ依テ其讀書ノ處ヲ義榮館ト號ス嘉永六年米艦ノ浦賀ニ來リシヨリ天下漸ク騷然タリ乃チ海防策ヲ草シ水戸齊昭ニ献シ又三條實萬ニ依リ乙夜ノ覽ニ供スト云フ後故アリ亡命シテ江戸ニ在リ幕吏ノ追捕頗ル急ナリ其子速水亦國事ニ奔走ス宗右衛門縛ニ就クニ及ンテ速水亦捕フ所トナリ俱ニ江戸ノ獄ニ繫カル後父子高松ノ獄ニ移サレシカ速水ハ病テ獄中ニ死ス文久二年十一月天朝ヨリ宗右衛門ヲ解獄スヘキ内旨ヲ高松藩ニ傳ヘラレ再ヒ天日ヲ見ルコトヲ得タリ是ニ於テ朝恩ノ辱キヲ感シ自用ノ印章ニ天恩脫獄ノ四字ヲ刻スト云フ元治元年七月長藩ノ禁闕ヲ犯スヤ藩命ヲ銜ミ大阪ニ赴キ老臣ノ大阪ニ在ル者ト謀議シ直ニ京師ニ入リ薩藩岩下佐次右衛門ト相往來氣脈ヲ通スルヲ約シ高松ニ歸ル慶應元年致仕シテ長門ニ至リ高杉晋作ト時事ヲ談論シ計策ヲ齎シテ歸ル明治元年正月伏見ノ役高松藩主ノ天譴ヲ受クルヤ京師ニ入リ太政官ニ就キ哀情ヲ陳シ寛典ヲ乞フ時故アリ再ヒ之ヲ獄ニ下ス同二年又朝旨ヲ以テ囚獄ヲ解カル愈益天恩ノ辱キニ感ス同三年九月病ヲ得テ將ニ沒セントスルヤ家人ニ謂テ曰我生前皇居ヲ拜シ後地ニ入ラント

乃チ病ヲ强テ舟ニ上ル播州洋ニ到リ終ニ沒ス享年七十同三十一年朝旨勤王ノ事蹟ヲ嘉シ正四位ヲ贈ラル同三十六年速水亦從五位ヲ贈ラル

松崎澁右衛門

澁右衛門名ハ佐敏遠齋ト號ス高松藩ノ世臣ナリ嘉永六年米艦ノ浦賀ニ闖入スルヤ藩主松平頼胤幕命ヲ以テ芝ノ濱殿ヲ警衛ス澁右衛門扈從シ大ニ盡ス所アリ文久元年世子松平頼聰ノ封ヲ嗣クヤ深ク國事ヲ憂ヘ澁右衛門ニ命シ京攝ノ間ニ奔走セシム是時高松藩宗家水戸藩ト隙アリ澁右衛門間ニ居リ之ヲ和解ス其京師ニ在ルヤ水戸藩武田耕雲齋ト常ニ尊攘ノ事ヲ謀リ以テ大ニ爲ス所アラントス元治元年四月藩主入洛ス澁右衛門之ニ扈從シ尼子水因筑瑛諸藩ノ志士ト相謀リ大ニ其間ニ周旋ス同年七月長藩ノ禁闕ヲ犯スヤ藩主本國寺ニ館ス澁右衛門知友水戸藩齋藤佐次右衛門ト謀リ長藩ヲシテ兵ヲ解カンコトヲ勸誘スルモ聞カス是時藩主兵ヲ率ヒ支族松平大膳ト共ニ禁闕ヲ警衛ス澁右衛門殿タリ時龍駕將ニ難ヲ叡山ニ避ケ給ハントスルノ議紛紜ノ間ニ起リシニ澁右衛門ノ建議ニ依リ更ニ高松藩ノ兵ヲ以テ禁內ヲ守護シ並ニ神器ヲ奉衛スヘキノ命ヲ賜フ爾後藩論一變シ澁右衛門ヲ獄ニ下ス明治元年六月朝命ヲ以テ獄ヲ脫ス十二月再ヒ藩政ニ參與シ尋テ執政タリ二年八月那珂郡

潮濱池ノ工事ヲ督シ之ヲ完成ス同年九月同藩異論者ノ爲メ刺レテ死ス同三十一年正四位ヲ贈ラル

日柳燕石

燕石名ハ政章字ハ士煥燕石ハ其號ナリ又別ニ柳東ト號ス那珂郡仲多度郡板井村ニ生ル故草薙ヲ氏トス父ニ至リ日柳ト改ム小字ハ長次郎後赤松劍吾ト改稱ス維新ノ後京師ニ入リ又日柳耕吉ト改ム初叔父石崎某ニ從ヒ後三井雪航ニ就キ經史詩文ヲ學フ人ト爲リ氣節ヲ貴ヒ然諾ヲ重ンス人ノ緩急ニ赴ク已ノ死生ヲ顧ミス常ニ壯夫ヲ養ヒ自ヲ其棟梁ト爲リ攘藩ヲ事トス蓋其跡ヲ晦スナリ米艦ノ浦賀ニ來リシヨリ海內漸ク騷擾ス是ニ於テ切齒扼腕シテ曰ク皇室陵夷幕府驕肆外夷其隙ニ乘ス是志士身ヲ殺シ仁ヲ爲スノ秋ナリ萬延元年三月水藩十七士ノ井伊大老ヲ櫻田門外ニ刺シ尋テ安藤閣老亦刺客ニ坂下門ニ遇フヤ是ヨリ佐幕開港尊王攘夷ノ說兩々相軋リ天下愈鼎沸ス是時ニ當テ尊攘ノ志士桂小五郎谷潛藏吉田寅次郎日下部伊三次伊藤俊輔井上聞多西郷吉之助小松帶刀大久保市藏等ト東西奔走沈謀潛略スル所アリ其後谷潛藏桂小五郎品川弥次郎等其藩ノ容レサル所トナリ來テ燕石ニ倚ル是ヲ以テ幕府ノ嫌疑ヲ受ケ高松藩ノ獄ニ下リ幽囚四年ナルモ敢テ其操ヲ變セス獄中ニ在テ常ニ

時事ヲ痛論ス皇運中興ニ際シ囹圄ヲ脫スルコトヲ得タリ明治元年五月京師ニ入ルヤ朝廷優詔ヲ以テ天杯ヲ賜フ乃チ徵士木戸孝允ト共ニ命ヲ受ケ鎭西ニ赴ク當時北越ノ賊軍勢最猖獗ナレハ大將軍仁和王勅ヲ奉シ之ヲ討ツ乃チ其記室ト爲リ同年六月京師ヲ發シ越後國柏崎驛ニ滯陣ス同年八月病テ陣中ニ沒ス享年五十二絕命ノ詩アリ曰ク歸旗已移新潟東。病失一枕臥秋風。朝來嗽口遙相拜。只祷吾王早立功（編者云起句聲律ヲ失スルノ本亦如此）仁和王之ヲ憫ミ謚ヲ賜ヒ大櫻定居彦ト云フ著ス所六決記皇國千字文春象樓詩鈔象山竹枝等アリ同二十四年九月靖國神社ニ合祀セラレ同三十六年正五位ヲ贈ラル

土肥大作

大作幼名ハ猪太郎諱ハ實光字ハ孟輝詩香又甲山ト號ス丸龜藩士ナリ天保八年九月生ル天性濶達ニシテ大ニ氣節アリ夙ニ藩主京極朗徹ニ識ラル初藩學正明館ニ學ヒ後江戸ニ至リ羽倉外記ニ從遊シ轉シテ昌平黌ニ學フ居常皇政ノ衰頽ト藩政ノ擧ラサルコトヲ嘗慨ス安政六年藩ニ歸ル後弟七助ト議シ兄弟內外ニ在テ國事ニ盡サンコトヲ誓ヒ七助ヲシテ藩ヲ脫シ交リヲ天下ノ志士ニ結ハシメ自ラモ亦屢京坂ニ往來シ長土二藩ノ傑士ト交際最モ深シ且藩主ノ內冒ヲ以テ當時ノ形勢ヲ密報シ藩論

ヲ振起スル等大ニ盡ス所アリ元治元年六月長藩ノ內使丸龜ニ來リ謀ル所アリ本藩其應答ニ難ム藩主大作ヲシテ應接セシメ其勞ヲ賞シ物ヲ賜フ慶應二年六月豫州松山幕府征長監軍ノ營ニ使ス蓋幕府本藩ニ命シ緩急事ニ從ハシメン爲メ命ヲ彼地ニ待タシムルナリ七月本藩ニ復命ス同年九月藩命アリ藩士高林小十郎ノ家ニ幽囚ス其草莽ノ志士ト交通スルヲ以テ幕府ノ嫌疑ヲ恐レ然ルナリ明治元年正月大政維新ニ會シ其幽囚ヲ解キ高松藩征討ノ參謀員ニ補ス同年四月藩士某議シテ曰ク方今天下多事各藩合縱連衡ノ勢アリ本藩ノ微弱ナル交ヲ土州ニ結ヒ依テ山內侯ノ庶子某ヲ養ヒ藩主ノ嗣子トナサント內約殆ント成ル大作京師ニ在リ此擧ヲ聞キ嘆シテ曰ク嗚呼我死期已至矣ト直ニ土佐藩邸ニ至リ其藩人某ニ會シ其內約ノ成否ヲ糺シ且告テ曰ク我藩主未タ世子ナシト雖モ同宗ニ二姪アリ況ヤ我藩大祖以降三十餘世未タ嘗テ他ノ血脈ヲ混セス然ルニ今內約アラントハ若シ强テ之ヲ遂ケントセハ決死之ヲ拒マントス願クハ我衷情ヲ藩侯ニ聞セヨト而テ單身丸龜ニ歸リ反覆辨論其辭氣慨然人皆之ニ服ス後山內侯賜ヲ大作ニ賜ヒ慰諭シテ其議遂ニ止ム同年六月十五日朝命アリ雇士ヲ以テ三河縣判事ニ任セラル同二年五月三河縣廢セラレ待命中ニアリシヲ丸龜藩知事京極朗徹ノ請ヒヲ諾シ藩ニ歸ル同年十月同藩權大參事ニ任ス

同四年四月民部省六等出仕ニ補セラル同年五月丸龜縣側設事務視察ノ爲メ民部省出仕ヲ以テ本藩ニ出張ス曩ニ藩知事ノ建議ニ依リ各藩ニ先チ置縣ノ令アルヲ以テナリ同年七月同縣士族黨ヲ結ヒ藩政ノ改革自已ノ不利タル大作ノ專恣ニ出ルト爲シ夜ニ乘シ大作ノ寓居ヲ襲フ乃チ門生等ト之ヲ門內ニ防キ數名ヲ殺傷ス同年八月縣治ノ準備略備ハルヲ以テ其六日東京ニ復命ス同年十一月三日飯野縣參事ニ任ス五年正月新治縣參事ニ轉任ス同年五月二十四日夜半屠腹シテ沒ス絕命ノ時ニ曰ク盡棺論定矣此言吾嘗聞精神猶未盡題句問諸君蓋深ク時事ニ感スル所アッテ然ルナラン享年三十六ト云フ

土肥七助

七助ハ大作ノ同母弟ニシテ諱ハ寶忠初榮造又正治ト稱スト人ト爲リ剛膽ニシテ頗ル武枝ニ長ス文久二年丸龜ノ市上ニアッテ故アリ同藩士關野寬藏ヲ一刀ニ斃シ直ニ監察署ニ到テ之ヲ聞ス其擧動沉着一藩之ヲ稱ス同三年七月藩ヲ脫シ京攝間ニ奔ル同年八月三條卿以下七卿ニ從ヒ長藩ニ入リ又翌ニ京阪間ニ出テ四方ノ有志ニ交リ尊王倒幕ノ策ヲ講シ且天下ノ形勢ヲ偵知シ本藩ニ通報スルヲ任トス元治元年長藩ノ志士ト謀リ因備二侯ニ說キ爲ス所アラントセシモ果サスシテ止ム同年六月京師木屋町池田屋ニ大ニ同志ヲ會シ各自ノ擔任ヲ部署ス幕府新撰組ノ偵知スル所トナリ其堀川ノ寓居ヲ圍マル激戰奮鬪漸ク脫スルヲ得テ關東ニ赴キ東國ノ形勢ヲ察シ且同志ヲ得テ西歸セントス途ニ長藩ノ同志久坂寺島等戰敗レ已ニ死スト聞キ潛ニ大阪ニ到リ大作ニ會シ相携テ丸龜ニ歸リ慈母ニ告別シ又長藩ニ入ル慶應元年七卿ノ筑前ニ徙ルヲ送ル三條卿其志ヲ好シ和歌ヲ咏シ之ヲ賜フ爾來三年維新ニ際シ終ニ其所在ヲ失シ終フル所ヲ知ラス

小橋安藏木內順二小橋友之輔

安藏幼名ハ友輔後安藏ト改ム諱ハ以文字ハ伯友香水ト号ス香川郡圓座村ノ人ナリ性豪放ニシテ時事ニ通曉シ常ニ大義名分ヲ明ニスルヲ以テ自ラ任ス嘉永以降天下騷然此時ニ當テ朔ニ皇室ノ式微ヲ憂ヘ子弟ヲ鼓舞シ親戚ヲ奬勵シ自ヲ資產ヲ拋チ力ヲ國家ニ竭シ將ニ大ニ爲ス所アラントス文久三年八月大和行幸ノ議アリ越後人長谷川某ト與ニ之ニ赴カントス事齟齬シ高松藩ノ嫌疑ニ觸レ獄ニ下ルモ歲餘ニシテ免サル元治元年甲子次男友之輔京師堺町門ニ戰死ス慶應元年又高松藩ノ嫌疑ヲ受ケ再ヒ獄ニ繫カル明治元年正月官軍高松ニ入ル此時幽囚ヲ解カル同二年六月俸十口ヲ給シ高松藩ノ士籍ニ列ス九月松崎澁右衛門横死ノ事アルヤ又獄ニ下ルモ彈

正臺令シテ之ヲ免サシム爾後晴耕雨讀以テ老ヲ養ヒシカ同五年六月病テ沒ス享年六十五

木内順二名ハ倫字ハ仲和龍山ト号ス小橋安藏ノ弟ニシテ出テ木内氏ヲ嗣ク幼ヨリ學ヲ好ミ壯ナルニ及ンテ專ラ著書ニ志ス然レモ居常王室ノ衰頽ヲ憂ヘ時ヲ待チ機ヲ測リ之カ恢復ヲ圖ラント欲シ子弟ヲ敎育スル必ス先ヲ本分ヲ知ラシメ大ニ勤王ノ大義ヲ皷舞ス明治維新前諸國正義ノ士起ルヤ陰ニ親戚故舊ヲ奬勵シ以テ之レニ赴カシメ陽ニ著書ニ從事シ操ヲ田畝ノ間ニ守リ以テ一世ヲ終フ著ス所龍山没餘撃攘錄尊攘餘韵天安世記賞眞亭叢書增補古歷便覽江門百官年表諸侯系表和漢帝王年表列侯治名錄柴文鈔時文鈔畧臺閣文鈔時賢文鈔大東郡邑考賞眞亭雜記近世紹運錄雖肋瑣話龍山文章龍山吟草今世紀畧等アリ慶應三年十一月沒ス享年五十八

小橋友之輔諱ハ以義安藏ノ次男ナリ安政三年江戸ニ遊ヒ叔父小橋橘陰及藤森弘庵ニ就キ敎ヲ受ク文久元年ノ夏父ノ命ニ依リ南歸シ勤王ノ大義ヲ唱ヘ力ヲ國家ニ竭シ各地ニ奔走ス同三年長谷川强庵ニ隨ヒ阿州祖谷ノ土寨ヲ說ク爾後京師騷然七卿長門ニ奔ルニ隨ヒ終ニ長州ニ留リ招賢閣ニ入ル元治元年七月京師堺町門ニ戰死ス時年十九維新ノ初官殉難者ノ墳墓ヲ洛東靈山ニ建テ其遺骨ヲ改葬スト云フ

田岡小輔

小輔諱ハ甕字ハ夢弼凌雲ト號ス丸龜藩士ナリ天性學ヲ好ミ夙ニ業ヲ吉良鶴仙ニ受ケ後江戸ニ赴キ安井息軒ノ門ニ游ヒ交リヲ當時ノ諸名士ニ結フ歸國ノ後尊攘ノ論起ルニ際シ草莽ノ志士ト交通スルヲ以テ幕府ノ嫌疑ヲ恐レ本藩之ヲ幽囚ス明治元年大政維新ニ會シ其幽囚ヲ解キ之ヲ擢用ス是ニ於テ京坂間ニ奔走シ勤王ノ有志ト謀リ大ニ盡ス所アリ其功ヲ以テ官祿ヲ增進ス既ニシテ藩學明倫館ノ助教ト爲ル廢藩ノ後私塾ヲ開キ後進ヲ敎育ス同十八年六月二十二日病テ沒ス享年五十三

阿比野安太郎

安太郎諱ハ善信文化九年鵜足郡宇多津村（現歐那宇多津町）ニ生ル世々鄉士クリ夙ニ學ヲ好ミ長スルニ及ンテ武技ヲ能クス尊攘ノ說起ルニ及ヒ窃ニ四國九州及京阪間ニ往來シ同志ヲ糾合シテ爲ス所アラントス已ニシテ賣藥ヲ製造シ各地ノ浪士ヲ招聚シ其行商ニ扮シ之ヲ派遣シテ天下ノ英傑ニ締交セシム終ニ高松藩ノ覺ル所トナリ庶人ニ下シ藩外ニ放逐セラル是ニ於テ阿波ニ流寓スル三年偶高松藩士長谷川宗右衛門ノ分蹤救護ニ依リ國ニ歸ルコトヲ得ルモ猶同郡福江村里正ノ家ニ監禁セラル然レモ終始勤王ノ志ヲ屈セス後免サレテ我家ニ歸リ旅舍ヲ業トシ陰ニ諸國有志ノ士ヲ寓

宿セシメ猶計畫スル所アリシカ終ニ病ニ罹リ志ヲ齎シテ沒ス時文久元年九月ナリ享年四十九

藤川三溪

三溪名ハ忠狄字ハ伯孝求馬ト稱シ後能登ト改ム三溪ハ其號ナリ又一時三溪ヲ以テ通稱トス幼ヨリ氣慨アリ儒醫ヲ以テ鳴ル文久以降大ニ勤王ノ說ヲ唱ヘ日柳燕石小橋安藏等ト氣脉ヲ通シ四方慷慨ノ士ト相往來ス遂ニ吏議ニ觸レ獄ニ繫カル獄中夙夜著書ニ從事スト云フ大政維新ニ及テ獄ヲ出テ官軍ニ從ヒ奥羽ノ間ニ跋涉ス後修史局御用係ト爲ル三溪人ト爲リ言大ニシテ志亦大ナレハ其爲ス所自ラ大ナリ晚年ニ及ンテ力ヲ水產ニ用ヒ捕鯨ノ事業ヲ企圖ス文政元年山田郡（木田郡）三谷村ニ生レ明治二十四年七月大阪ニ沒ス享年七十四著ス所春秋大義及維新實記二百卷等アリ

學士

岡田臣牛養

佐婆部牛養ハ寒川郡（大川郡）ノ人ニシテ其先ハ紀田鳥宿禰ニ出ツ孫米多臣ナル者周防國ヨリ當國ニ移住シ佐婆部首ヲ以テ姓トス數世ヲ歷テ牛養ニ至リ性學ヲ好ミ幼ニシテ大學ニ游ヒ才學優長ナリ桓武天皇ノ時選ハレテ大學博士ト爲リ外從五位下ニ叙ス延曆十年請フテ姓岡田臣ヲ賜フ

讚岐公永直

永直ハ寒川郡ノ人ナリ其先神櫛王ニ出ツ幼ヨリ好テ律令ヲ讀ム弘仁六年明法得業生ニ補セラレ天長七年ノ春明法博士ト爲ル其年ノ夏右少史ト爲リ尋テ左少史ト爲ル明年勘解由判官ヲ兼ヌ承和元年外從五位下ヲ授ケ大判事ニ補セラル同三年姓朝臣ヲ賜ヒ右京職ニ隸シ出雲權介ヲ兼ネ遷テ阿波權椽ヲ兼ヌ嘉祥元年刑部少輔和氣齋ノ大不敬ヲ犯シ伊豆ニ竄セラルヽヤ永直亦之レニ坐シテ佐渡ニ流サル文德天皇ノ祚ヲ賤マルヽニ及ヒ殊恩ヲ以テ赦サレ本官ニ復ス齊衡三年老テ骸骨ヲ乞フ再三ニシテ許サレ家ニ歸休ス天安二年勅シテ家ニ在リ律令ヲ生徒ニ授ケシム當時以テ榮トス貞觀四年八月十七日卒ス享年八十長子時人父ノ業ヲ襲フ改テ和氣ノ朝臣ヲ賜フ

佐伯直豐雄

豐雄ハ多度郡（仲多度郡）ノ人ナリ幼ヨリ大學ニ入リ臨池ノ技ヲ習熟シ書博士ニ任ス貞觀三年奏請シテ曰ク吾祖大伴連公日本武尊ニ隨ヒ東國ヲ平定シ讚岐國多度郡ヲ賜ヒ允恭天皇ノ時始テ國造ニ任ス其後年ヲ經テ孝德天皇ノ時國造ノ號ヲ廢セラルヽヤ

同姓正雄等ニ姓宿禰ヲ賜ヒ京兆ニ貫ス吾田公ノ門未タ恩典ニ預ルコトヲ得ス幸ニシテ之ヲ賜ハンコトヲ時正三位中納言兼民部卿大伴宿禰善男家記ヲ檢シ父子九人ニ姓宿禰ヲ賜ヒ左京職ニ隷ス

刈田首安雄及氏雄今雄

安雄ハ武内宿禰ノ裔ニシテ家世刈田郡（豊山郡ノ古稱今ノ三豊郡ニ屬ス）戸主タリ安雄ニ至リ學ヲ好ミ大學ニ遊ン兄弟三人志ヲ同フシテ切磋琢磨シ遂ニ其業ヲ卒フ貞觀元年安雄從六位上ニ叙シ直講トナル其弟氏雄散位從七位上ニ叙シ其弟今雄從八位上ニ叙ス同四年秋八月釋奠ノ後安雄周易ヲ講ス同九年姓紀朝臣ヲ賜ヒ兄弟三人更テ右京ニ貫ス後貞觀格ヲ撰フヤ安雄與テ力アリ同十二年助教ト爲リ仁和二年五月卒ス年六十八

凡直春宗

春宗ハ大内郡（大川郡）ノ人ナリ大學ニ遊ヒ讃岐朝臣永直ニ從ヒ法律ヲ受ク元慶中擢ラレテ右少史明法博士ニ任ス仁和元年改テ右京三條坊ニ貫ス

讃岐朝臣高作及時雄

高作ハ寒川郡（大川郡）ノ人ニシテ性學ヲ好ミ其族時雄ト與ニ大學ニ遊ヒ父永直ニ從フテ法律ヲ學フ貞觀ノ初高作ハ散位從五位上ニ叙セラレ時雄ハ右大史正六位上ニ拜ス貞觀四年同族時人ト與ニ姓和氣朝臣ヲ賜フ

阿刀大足

大足ハ那珂郡（仲多度郡）ノ人ナリ博學秀才撰ハレテ伊豫親王ノ文學ト爲リ三千石ノ采ヲ綾郡（綾歌郡）加茂ノ郷ニ食ム葛木一言主ノ祠ヲ其家ノ傍ニ建テ以テ鎮守トス加茂庄大明神是ナリ

編者云阿刀大足ノ後猶世々學士アルヘキモ更ニ聞ユルナキモノハ蓋佛教隆盛且戰亂相繼クヲ以テ文學ノ柄ハ浮屠氏ノ掌握ニ歸スルニ至ル是ヲ以テ當國ニ於テモ寥々トシテ聞ユルナキ所以ナラン

雨森三哲

三哲諱ハ明卿字ハ子哲天水ト號ス幼ヨリ穎悟ニシテ學ヲ好ム元祿九年四月高松藩主第二世松平頼常擢ンテ、月俸ヲ給シ江戸邸ニ居ラシム第三世松平頼豊ニ至リ寵遇特ニ厚シ移テ高松ニ居ラシメ以テ侍讀ト爲シ隔歳ノ東覲必ス之ニ扈從セシム終ニ祿ヲ加ヘ宅ヲ給シ高松ニ土着セシム是ニ於テ苟モ學ヲ好ムモノ其風采ヲ仰カサルナシ是ヨリ先キ頼常講堂ヲ創建シ十河順安根本彌右衛門及三哲ヲシテ更々經傳ヲ講説セシム後十河順安官ヲ失ヒ根本彌右衛門世ヲ終フルニ至リ一時講堂ヲ閉鎖ス

晩年頼豊角觝ヲ好ミ講堂ヲ以テ一時力士ノ寓舍ニ充ツ三哲久シク講堂ノ塾内ニ居住セシカ將ニ江戸ニ赴カントシ一詩ヲ賦シテ曰ク翠樽此宅久閑遊明月清風共一樓我去長松應有恨鶴曾棲處棲鵠後再ヒ高松ニ歸リ享保七年六月病テ沒ス享年五十六

中村彦三郎

彦三郎諱ハ文輔字ハ文輔君山ト號ス効ニシテ業ヲ宮村某ニ受ク群兒中ニ在テ既ニ頭角ヲ見ス弱冠筮ヲ江戸ニ負ヒ林正獻ノ門ニ遊ヒ銳意勤學諸侯交辟スモ意ヲ進仕ニ絶ツ一日親ノ病ヲ以テ歸省ス藩主松平頼桓時ニ高松ニ在リ召シテ經筵ニ侍講セシム無幾シテ江戸ニ抵ル頼桓亦東覲シ終ニ擢テ儒學ニ補ス彦三郎亦親ノ老エルヲ以テ命ヲ奉シ祿仕ス其仕フルヤ忠誠果毅嘗テ藩主ノ宴ニ侍ス藩主酒杯ヲ彦三郎ニ抛チ與フ彦三郎色ヲ正フシテ曰ク君臣ヲ使フニ禮ヲ以テス臣君ニ事ツルニ忠ヲ以テスト其杯ヲ執テ之ヲ藩主ノ前ニ擲ツ藩主乃チ其杯ヲ執リ君臣ヲ使フニ禮ヲ以テスルノ杯ヲ賜フト云ヒケレハ彦三郎頓首シ臣君ニ事ツルノ御杯ヲ拜戴スト云フ其强直率ネ如此シ常ニ藩主ノ駕ニ從ヒ東西ニ往來スル殆ント寧歳ナシ曾テ命ヲ受ケ京師ニ遊ヒ速水房常ニ從ヒ古禮ヲ講究シ歳餘ニシテ其奥ヲ究ム本藩記錄所ヲ置クニ當リ總裁ノ事ヲ管シ藩士ノ世系譜數十卷ヲ輯ス傍ラ本朝ノ禮樂刑政官位職員等歷朝ノ沿革ヲ合攷シ數十卷ヲ著シ名ケテ通志ト云フ又神武天皇ヨリ後小松天皇ニ至ル通史ヲ編纂セシカ未タ其稿ヲ脫セスシテ病テ沒ス享年六十三實ニ寶暦十三年七月ナリ

後藤彌兵衛

彌兵衛諱ハ世鈞字ハ守中芝山ト號シ別ニ竹風ト號ス性謙和ニシテ警機神ノ如ク應對明敏風度遠邁ニシテ逸凡ノ風アリ高松藩主松平頼恭其穎悟ナルヲ聞キ資ヲ投シ學ニ就カシメ終ニ學テ以テ用トス彌兵衛亦其知遇ニ感シ鞠躬報ヲ圖リ終始怠ラス曾テ藩學講道館ヲ創建スル其規畫皆之ヲ草定ス延享寶暦ノ間一再韓使ノ僚屬ニ接伴ス彼等每ニ其才鋒ニ服スト云フ學和漢ヲ兼ネ著ス所五經標註元明史略和漢年鑑職原鈔考證宮詞百首等アリ其四書五經訓點所謂後藤點ナル者大ニ世ニ行ハル年十八ニシテ江戸ノ國學ニ入リ林大學頭正憲ノ門ニ遊ヒ三十三ニシテ始テ高松藩ニ仕ヘ六十ニシテ致仕シ後二年病テ歿ス實ニ天明二年四月三日ナリ門下有名ノ士頗ル多シ

三田傳左衛門

傳左衛門諱義勝蘭室ト號ス丸龜藩士三田宗壽ノ三子ナリ元祿十四年ヲ以テ生ル幼

ヨリ學ヲ好ミ夙ニ頭角ヲ見スハ其母井上氏（源氏女史）ノ教訓ニ依レリ同藩三田勝富ノ養フ所ト爲ル弱冠跡部光海ニ從ヒ國典ヲ學ヒ室鳩巣ニ從ヒ經史ヲ受ク後家ヲ義弟ニ讓リ閑退スルコト二年再擢ラレテ儒學教授兼侍讀トナル職ニ在ル四十餘年晉テ韓人ト詩賦ヲ唱酬スル前後三回韓人毎ニ其才學ヲ嘆賞スト云フ安永六年七月十九日病テ沒ス享年七十七著ス所南山興廢記守成筆錄才志論養子訓等アリ

柴野彦輔

彦輔諱ハ邦彦栗山ト號ス三木郡（木田郡）本磯村八栗山下ニ生レ高松藩ノ儒員後藤芝山ニ學フ芝山賞シテ吾門ノ顏子ト云ヘリ夙ニ京師ニ寓シ經學文章ヲ以テ生徒ニ教授シ其名大ニ聞ユ阿波藩主蜂須賀氏ニ聘セラレ其藩學ヲ振興ス天明八年正月幕府德川氏ニ召サレ昌平黌ノ教授トナリ大ニ學政ヲ整理ス寛政中松平定信ノ老中ト爲ルヤ拔擢シテ待問儒員トシ天下ノ學政ヲ整理スルコトヲ掌ラシム首トシテ定信ニ建議シ異學ノ禁令ヲ發ス且定信カ皇室ニ奉スル勤王ノ美蹟大内ノ造營皇陵ノ修理等多クハ其建策ニ出ツト云フ其畝火山ノ陵ヲ拜スル詩アリ曰ク遺陵纔向里民求半死孤松數畝丘非有聖神開帝統誰教品庶脫夷流宸王像設專金閣藤相墳塋層玉樓百代本支麗不億幾人來此一回頭以テ其抱負ヲ見ルヘシ是ニ於テ後藤芝山ノ蒸陶大ニ光輝ヲ發揚ス文化四年十二月病テ歿ス享年七十二著ス所國鑑聖賢像圖考賓治格言冠服考證栗山文集等アリ

高尾千右衛門

千右衛門諱ハ氏規字ハ子塵其父氏陳高松藩ニ仕ヘ小吏タリ千右衛門ハ其三子ニシテ後ヲ受ク少フシテ頗ル學ヲ好ム從游スルモノ多シ安永四年藩學ノ教授トナリ寛政二年小寄合トナリ同八年小納戸ニ遷リ文化八年使番ニ班ス同十三年公子ノ師トナリ文政二年病テ沒ス資性寛厚人ヲ敎テ倦ムコトナシ其敎ヲ鄉邑ニ敷クヤ人々其號ニ服シ能ク人ヲ德化ス晉テ某郡里正ノ家ニ居民ヲ聚メ庶內相讓ルノ章ヲ講ス時田ヲ爭フ者アリ之ヲ聞テ頗ニ其爭ヲ止ム又嘗テ大內郡（大川郡）馬宿村（今相生村ニ屬ス）ニ至ル兄弟相爭フ者アリ年ヲ累テ決セス千右衛門諭スニ孝友ノ道ヲ以テス兄弟感悟シ遂ニ相親睦ス其德ノ人ヲ化スル如此ト云フ

梶原九郎右衛門

九郎右衛門諱ハ景惇字ハ復初藍渠ト號ス高松ノ豪商ナリ博聞强識學和漢ニ旁通ス晉テ私ニ帝王編年ノ一國史ヲ草ス都テ一百五十卷其南北両朝ノ正偏ヲ定ムル一ニ水史ニ據ルモ典故ヲ列載スル水史ノ闕ヲ補フニ足ルモノ多シ高松藩主松平頼恕修

史ノ舉アルニ會シ之ヲ賴恕ニ献ス賴恕ノ他日歷朝要紀ヲ編輯スルモ此書ニ原クト云フ藩其志ヲ賞シ之ヲ士籍ニ列ス天保五年病テ沒ス享年七十三

中山城山

城山諱ハ勝應字ハ伯應城山ハ其號ナリ香川郡横井村（池村）四ニ生ル夙ニ該圃ノ學風ヲ嗣キ寛政十一年帷ヲ高松ニ下シ大ニ後進ヲ敎導ス學和漢ヲ兼ネ又佛乘ニ精シ其門人藤澤昌藏名最モ顯ル著書七十餘部唯全體史ノ一部僅ニ世ニ行ハル其書風土ノ沿革人物ノ事蹟等類ヲ列ネ門ヲ立テ細大遺サス此功績以テ後世ニ垂ルヽニ足レリ天保八年四月二十三日沒ス享年七十五其子諱ハ驩字ハ士驩鵞山ト號スルモノアリ夙ニ出藍ノ譽レアルモ苗ニシテ秀ヲス文化十二年七月沒ス享年二十七

渡邊半八

半八諱ハ浩字ハ以直柳齋ト號ス丸龜藩士渡邊包雅ノ義子ナリ幼ニシテ學ヲ好ミ坐臥手ニ卷ヲ釋カス嗣冠稻葉默齋ニ從ヒ後中井竹山ノ門ニ遊フ其學洛閩ヲ宗トシ博ク諸子百家ノ書ニ涉レリ寛政六年八月藩學正明館ノ敎授兼侍講ト爲リ學政ヲ整理シ後進ヲ敎育ス晉ヲ擢ラレテ法官ト爲リ難獄ヲ理ムル少カラス一日擔屋村（仲多度郡六郷村）ノ一僧寺藏スル所ノ圖畫ヲ失フ其徒相攻訐シ連累數十人ニ及フ半八之カ爲メ其宗祖ノ定法ヲ以テ其曲直ヲ斷ス僧等驚服シテ云フ是吾輩亦諳スル能ハサル所ナリ何其詳悉ナルヤト其明敏此ノ如シ其他姦ヲ摘シ伏ヲ發スル少カラス是ヲ以テ職ニ在ルノ間獄壅滯ナシ致仕ノ後西讃諸邑ヲ巡リ生徒ヲ集メ經書ヲ講ス爾來閭里ノ子弟ニシテ書ヲ讀ムモノ多キハ其餘澤ナリト云フ文政七年十一月六日病テ沒ス享年六十二著ス所道體論アリ

嚴村半右衛門

半右衛門諱ハ秩字大稽南里ト號ス丸龜藩ノ世臣ナリ幼ニシテ中井竹山ニ從學シ神童ノ稱アリ後尾藤二洲ニ學フ其學洛閩ヲ主トシ藩學正明館ノ敎授ヨリ側儲者政事加談世子ノ傅等ニ歷仕ス天保十三年八月病テ沒ス享年五十九著ス所周易本義疏抄及質疑等アリ

加藤俊治

俊治諱ハ穀字ハ士戩梅崖ト號ス丸龜藩士ナリ幼ニシテ頴悟業ヲ渡邊半八ニ受ク文化元年江戸ニ赴キ尾藤二洲古賀精里ニ從ヒ學業大ニ進ム擢ラレテ昌平黌ノ舍長ト爲リ聲譽大ニ傳播ス同十年國ニ歸リ父ノ蔭ヲ以テ祿ヲ襲ヒ藩主ノ東覲ニ扈從スル殆ント虛歲ナシ後側儲者ト爲リ藩政ニ參與シ頗ル功績アリ天保六年世子ノ傅ト爲

ル同八年二月藩主幕命ヲ受ケ天使日野公ヲ饗ス公夙ニ俊治ノ名ヲ聞ケルヤ因テ其詩ヲ觀ンコトヲ求ム乃チ律詩二首ヲ書シ之ヲ献ス人以テ榮トス弘化元年致仕シ同二年十月二十七日沒ス享年六十三著ス所南雲紀搜芳錄巡封陽秋及文集等アリ

中主膳

主膳諱ハ豹字文蔚滑泉ト號ス丸龜藩士勝村昌方ノ第三子ナリ夙ニ業ヲ渡邊半八ニ受ケ後尾藤古賀ノ両博士ニ從ヒ勤學六年擢ラレテ昌平黌ノ舍長ト爲ル既ニシテ國ニ歸ル子弟來リ學ノ者多シ會マ同藩士中氏嗣ナシ藩主命シテ其後ヲ嗣カシム因テ中氏ヲ冒ス文化十年馬廻ト爲リ正明館ノ助教ヲ兼ヌ文政九年表儒者トナリ同十二年俸祿ヲ加賜ス同十三年側儒者ト爲リ弘化四年正月十八日病テ沒ス享年六十五著ス所論語集說及詩文集等アリ

友部新八郎

新八郎諱ハ方升老後新安ト稱シ鳴舍ト號ス高松藩士久助方考ノ子ナリ天性温厚幼ヨリ學ヲ好ミ專ラ心ヲ國學ニ用ヒ劇職ニ在ルモ暇アレハ手卷ヲ釋カス初木村千之助ニ從ヒ和歌ヲ學ヒ後藤井高尙ヲ師トス從學スルモノ多シ嘉永七年十月二十日病テ歿ス享年六十八著ス所二季大祓祝詞補釋朝日櫻歌意考百人一首淺香山弘道館記考海防根源記雨夜物語正釋日抄續日抄神道百談等アリ

友安良介

良介諱ハ盛彬字ハ子文楢舍ト稱シ三冬ト號ス香川郡山佐村ニ生ル幼時菊池高洲ニ學フ十三歲ノ時嘗テ詩ヲ賦シテ曰ク高松山裏高松下十歲ト居臥白雲一瑟一琴吾意足笑看人事日紛々高洲之ヲ見テ其凡ナラサルヲ識ルト云フ後國學ヲ山田六郎及藤井高尙ニ學フ文政七年十月藩主ノ侍講ト爲リ又女公子ノ師トナル天保十二年四月類題集補闕六卷ヲ藩主ニ献ス松平頼恕ノ歷朝要紀ヲ撰シ雲井御所ヲ表彰スル等其啓沃スル所多シ嘗テ隣人ニ射ヲ學フ者アリ其人夜草把ヲ射ル良介ハ燈下ニ書ヲ讀ミケルカ隣人ノ射ヲ止ルヲ待テ暇ニ就ントシ隣人亦良介カ咿唔ノ聲ヲ止ルヲ待テ射ヲ止メントシ互ニ天明ニ至ルコト多シト又嘗テ藩主ニ扈シ江戸ニ在リ月ヲ隅田川ニ觀テ夜ノ深キヲ忘ル歸レハ邸門出入ノ限已ニ過ク有司之ヲ訴フ藩主試ニ問ハシメテ云ク月サ觀テ何ノ得ル所カ在ルト良介和歌數十首ヲ献ス乃チ門限ニ後ル、ヲ問ハサラシムト云フ文久二年十月十日歿ス享年七十五

尾池享平

享平諱ハ世璠字ハ玉民松濤ト號ス丸龜藩醫尾池桐陽ノ二子ナリ天才秀逸最モ作詩

ニ長ス少シテ官仕ヲ辭シ常ニ風月ニ吟哦シ以テ自ラ樂ム其人ニ接スルヤ溫厚篤實ニシテ君子ノ風アリ晩年中島棕隱ト唱和シ單ノ韻ヲ疊用シ七言律詩一百三十首ヲ賦ス當時名家相傳誦シテ之ヲ嘆美ス慶應三年九月二日歿ス享年七十八著ス所梅隱詩稿穀似集等アリ

藤澤昌藏

昌藏諱ハ甫字ハ元發東畝ト號ス香川郡安原村ノ人夙ニ中山城山ニ從ヒ護園ノ學ヲ受ク文政八年帷ヲ大阪ニ下ス從學ノ士太タ多シ諸侯ニアッテモ松平飛彈守（豊後岡藩主）松平遠江守（備後福山藩主）等東修ヲ門下ニ行ヘリ嘗テ原聖志ヲ著ハシ孔子ノ志四海ヲシテ一君タラシメ萬古之ヲ更ラサラシムルニ在ルコトヲ詳論シテ本邦ノ尊キコトヲ知ラシメ思問錄ヲ著ハシ孟子勤王ノ一事ハ亂倫ノ魁ニシテ孔子ノ志ト相背馳スルコトヲ論シ專ラ尊王奉公ヲ以テ學問ノ正脉トス高松藩擢テ、中士ト爲シ使番ニ班ス元治元年二月將軍德川家茂謁ヲ二條城ニ賜ヒ高松藩主ニ內諭シ幕府ノ儒員タラシメント欲スルモ議合ハサルヲ以テ病ニ托シ辭シテ大阪ニ歸ル其年十二月病テ卒ス享年七十一

富家五十鈴

五十鈴諱ハ高幹松浦ト號ス阿野郡（綾歌郡）林田村ニ生レ家世綾社神社ノ祠官タリ早歲學ヲ好ミ經史ヲ研究シ且力ヲ國書ニ用ヒ常ニ好ンテ和歌ヲ咏ス然シテ最臨池ノ學ヲ勉ム初吉田鶴仙ニ從ヒ既ニシテ古法帖ヲ學ヒ別ニ門戶ヲ開ク篆隸行草特ニ其長スル所ニシテ楷書ハ專ラ顏魯公ニ倣フト云フ古來祠官每年十月ハ必ス祭祀ニ事アラサルヲ例トス每ニ此月ヲ以テ白峯寺ニ入リ一閑室ヲ借リ日夜古法帖ヲ臨摸ス其刻苦精勵率ネ此ノ如シ遠近業ヲ受クルモノ數百十人其名大ニ擧ル性太タ飲酒ヲ嗜ミ談論ヲ善クス快醉ニ當テハ談聲屋ヲ撼セリ又嘗テ鄕人渡邊孝先ト謀リ敎學立本社ヲ創立シ文武ノ師ヲ聘シ子弟ヲ集メ其道ヲ敎授ス蓋讃國ニ鄕學アル之ヲ權與トス慶應元年病テ歿ス享年六十著ス所鳥跡譚アリ

秋山伊豆

伊豆諱ハ惟悳字ハ仲禮嚴山ト號ス那珂郡櫛梨村（仲多度郡櫛梨郷村）櫛梨神社ノ祠官タリ幼ヨリ和漢ノ學ヲ修ム曾テ賴山陽ノ門ニアリ日本外史稿本ヲ得テ之ヲ手寫ス後家ニ歸リ徒ニ授ク丸龜藩主京極高朗修史ノ志アリ之ヲ伊豆ニ囑ス伊豆拮据多年史料ヲ蒐集シ終ニ西讃府志六十卷ヲ編輯ス大手筆ト謂フヘシ其他著ス所讃岐神社考讃岐小史帝統蒙求續新論等アリ文久三年四月病テ歿ス享年五十七

中村興三

興三諱ハ尚輔後尚考ト改ム蘿舍ト號ス高松藩士中村惟考ノ第二子ナリ初武技ヲ以テ家門ヲ興サントト欲シ地位流槍術ヲ矢野東ニ學ヒ其秘奥ヲ究ムルヲ以テ家ヲ起セリ後友安良介ニ從ヒ國學ヲ學ヒ殊ニ語學ニ精シク作歌ニ妙ナリ明治二年五月小寄合ニ班シ皇學寮ノ教授ト爲リ同三年九月督學ヲ兼ヌ同十二年七月八日病テ歿ス享年七十一著ス所拾遺集遠鋭詞玉緒繻藻雅語摘要解蘿露蘿舍歌集等アリ

山田勝次

勝次諱ハ亥吉字ハ乙生梅村ト號ス晩ニ三聖庵主人ト號ス幼ニシテ才敏年十九父汝翼ノ業ヲ繼キ高松藩ノ儒員トナリ初中寄合ノ上ニ班シ累遷シテ足輕頭並ニ班ス久シク藩主ニ侍讀シ藩學ニ都督スル凡二十餘年故アリ職ヲ罷ム尋テ司郡事ト爲ルモ未タ一年ナラスシテ致仕ス少壯江戸ニ遊ヒ林祭酒ノ門ニ入ル後經義ヲ近藤篤山ニ問ヒ時學ヲ廣瀬淡窓ニ聞ク人ト爲リ廉介方正家人ト雖モ未タ嘗テ其情容ヲ見ス學問該博尤モ經義ニ精シク傍ラ詩及書ヲ善ス餘技繪事鐵筆ニ及フ性書畫ヲ好ムヲ以テ鑑識ヲ乞フモノ殷常ニ門庭ニ滿ツ其長崎ニ遊フヤ清人錢少虎王克三賀鏡湖徐雨亭等ト交リ又遙ニ平湖沉浪仙ト唱和シ時筒往來殆ント虛月ナシ明治十四年一月病テ歿ス享年六十六著ス所吾愛吾廬時鈔書體解要游筵小錄等アリ

片山直造

直造諱ハ達字ハ元章冲堂又六石ト號ス羽冠江戸昌平黌ニ游ヒ學業他ノ學生ヲ凌駕ス再游舍長ト爲ル既ニシテ高松ニ歸リ藩學ノ助教ト爲ル從游スルモノ多シ詩文皆長スト雖モ尤文章ニ名アリ明治維新ニ及ヒ擢ラレテ議事局判事ヨリ參政試補ニ轉ス舊友重野成齋藤野海南等東京ニ在テ文章ヲ以テ名アリ直造亦宜シク其間ニ伍シ右文ノ治ヲ助クヘキモ病痾ノ侵ス所ト爲リ終ニ志ヲ遂クルコト能ハス其昌平黌ニ在ルヤ一時鎖港攘夷ノ說ヲ主張スルモ人ト爲リ溫順ナルヲ以テ其圭角ヲ顯ハサス明治二十一年一月病テ歿ス享年七十三著ス所岳游漫錄六石亭時文鈔アリ

中村正藏

正藏諱ハ柔字ハ子楡醒軒ト號ス後三蕉ト改ム丸龜藩士中村弥門ノ五子ナリ三歲ニシテ父ヲ喪フ天質匪弱母兄其武事ニ任ヘサルヲ慮リ僧ト爲ス然レモ性讀書ヲ好ミ呪梵ヲ善ハス弱冠ノ比佛ヲ捨テ儒ニ歸シ龜井昭陽ノ門ニ寓スル少時去テ帆足愚亭ニ就キ留ル七年ニシテ國ニ歸ル嘉永二年擢テ儒員ニ擧ケラレ藩學正明館ノ副助教兼時文係ト爲ル安政元年藩事ヲ以テ江戸ニ赴キ事竣ルニ及ヒ藩主ニ請フテ昌平黌

ニ寓シ安積艮齋ノ門ニ出入スルコト三年藩ニ歸リ前職ニ復シ且藩主ノ侍講トナル文久三年更ニ世子ノ侍講ヲ兼ヌ明治二年正明館ノ教授ト爲ル同三年故アリテ藩學ヲ退ケラル同年官宣教係ヲ諸藩ニ徵ス本藩正職ヲ舉テ之ニ應ス同四年廢藩ノ令下ルニ及ヒ職ヲ解キ國ニ歸ル同五年學制ヲ頒布セラレシ以來小學校ノ教師トナル十餘年文部省物ヲ賜ヒ多年教育ノ功勞ヲ賞ス同二十一年八月職ヲ辭シ私塾ヲ開キ子弟ヲ教養ス同二十四年大日本教育會其偉績ヲ賞シ銀製ノ賞牌ヲ贈ラル同二十七年八月二十二日病ヲ發ス享年七十八著ス所三教小辨日本外史新論寓若費詩文鈔詠物百律三蕉詩稿北游詩草醒醉舍詩文鈔餘喘弄筆等アリ

松岡調

調幼名ハ春初實ハ高松藩士佐野術士ノ子ナリ天性學ヲ好ム友安良介ニ從ヒ皇典ノ學ヲ研究ス後出テ松岡氏ヲ繼キ多和神社ノ祠官タリ（大川郡志度町）明治維新神佛混淆ヲ廢セラルヽヤ高松藩ノ命ヲ奉シ同藩管內ノ各神社ヲ檢ス同藩皇學寮ヲ開設スルニ及ンテ命シテ督學トス明治五年正月事比羅宮廨宜ニ補セラレ同二十七年十月從八位ニ叙セラル同三十年九月國幣小社伊和神社宮司ニ補セラレ同三十一年三月從七位ニ叙セラル同三十五年一月國幣中社田村神社宮司ニ補セラレ同年十二月從六位ニ叙セラル調特ニ古典考證ノ學ニ精シク傍ラ繪畫ヲ能クシ且古器鑒識ノ明アリ是レヨリ先キ大古衣服考ヲ編輯シ東京大學ニ贈進ス明治十五年二月同大學ヨリ之ヲ學藝志林第十卷ニ掲載セシ旨ヲ達セラレ同卷三冊及金若干ヲ賜フ晩ニ多和文庫ヲ住宅內ニ創建シ古器物古文書ヲ蒐集スル頗ル多シ明治三十七年十二月病ヲ以テ歿ス著ス所古事記刪定古語拾遺刪定新撰姓氏錄刪定大神宮儀式帳刪定三部本記國土考讃岐國官社考證日月考齊明宣謠辨小乘涅槃論辨伊豫國官社考證陰名考皇國古字徵現存皇國古印譜等アリ

編者云高松藩儒員中ニ在テモ岡部拙齋十河順安根本彌右衛門菊池舍人岡井氷室同鹿洲同赤城青葉士弘岡平藏其他有名ナルモノ少カラサルモ其傳記ヲ詳ニスルヿヲ得ス或ハ松平家藏スル所ノ藩士世系等ニ就キ搜索セシモ唯其職務ノ任免俸祿ノ增減ヲ記載スルニ止リ一世ノ行事ヲ識ルニ由ナク陋耽搔痒ノ憾ナキ能ハス

高僧

弘法大師

大師諱ハ空海多度郡屏風浦（仲多度郡善通寺町）ノ人也父ヲ佐伯田公ト云フ母ノ胎內ニアル十二

月ニシテ寶龜五年六月十五日生ル歳甫テ十三才敏已ニ人ヲ超ス舅父阿刀大足ニ從ヒ書ヲ讀ミ文ヲ學フ歳十五頗ル頭角ヲ見ス十八大學ニ入ル一日沙門勤操ヲ見テ求聞持呪ヲ受ケ之ヲ修ル甚タ勤ム二十ニシテ薙髮ス延暦十四年東大寺ニ入リ戒ヲ受ク同二十三年入唐シ青龍寺惠果ニ從ヒ秘密敎ヲ受ケ研志一年其蘊奥ヲ究ム幾モ無クシテ其師遷化ス乃チ其碑文ヲ作ル彼土ノ人士感服セサルモノナシト云フ大同元年歸朝ス法ヲ修シ驗アリ諸宗ノ碩德能ク及フモノナシ是ヲ以テ嵯峨天皇大ニ之ヲ信セラレ弘仁元年禁内ニ眞言院ヲ造リ歳時法ヲ修シ怠ルコトナシ歳四十三紀伊國金剛峯寺ヲ開ク同十四年勅シテ東寺ヲ賜フ天長元年少僧都ニ任シ同四年大僧都ニ任ス承和二年三月三十一日金剛峰寺ニ遷化ス享年六十二延喜二十一年勅シテ弘法大師ト謚ヲ賜フ大師博學ニシテ才藻アリ當時ノ文士敢テ抗スル者ナシ書法ニアツテモ亦其妙ヲ得テ眼芝懷素ト名ヲ齊フシ草聖ト稱セラル

眞雅僧正

僧正諱ハ眞雅多度郡（仲多度郡）ノ人俗姓ハ佐伯贈大僧正空海ノ弟ナリ大同四年甫テ九歳京師ニ入リ兄ニ從テ密敎ヲ受ク十九ニシテ具足戒ヲ受ケ徽宗レテ禁内ニ侍シ三十七尋眞言ヲ師ス音響充然貫珠ノ如シ聽者感服セサルナシ嘉祥元年權律師ト爲リ轉テ律師ト爲ル同二年藤原良房ノ請ヒニ依リ染殿皇后ノ爲メニ尊勝法ヲ修シ皇子降誕シ玉フ是ヨリ寵遇甚タ厚シ仁壽三年少僧都ト爲リ齊衡三年大僧都ニ轉ス貞觀六年僧正ト爲ル是ヨリ先キ僧綱凡僧ト位階ヲ同フス眞雅奏請シテ法印大和尚ヲ以テ僧正階トシ法眼和尚位ヲ大少僧都階トシ法橋上人位ヲ律師階ト爲サントス是歳眞雅ニ法印大和尚ヲ授ケ錄シテ禁門ニ出入スルコトヲ聽ス元慶三年正月遷化ス享年七十九文徳十一年六月二日勅シテ法光大師ノ謚號ヲ賜フ

眞然僧正

僧正諱ハ眞然姓ハ佐伯多度郡（仲多度郡）ノ人ニシテ空海ノ從子ナリ空海ニ從テ密敎ヲ學ヒ灌頂ヲ眞雅ニ受ク承和三年入唐セントセシカ颶風ニ洋中ニ遇ヒ志ヲ果サスシテ歸ル貞觀十六年權律師ニ任ス元慶七年權少僧都ニ擢テラル空海ノ入定スルヤ眞然ニ遺命シテ曰ク吾滅スルノ後金剛峯寺ヲ以テ汝ニ付屬ス汝幸ニ努力營造セヨト是ヲ以テ眞然力ヲ竭シ之ヲ修ス寛平元年十月僧正ニ任シ同三年九月十一日寂ス享年八十八

實慧僧正

僧正諱ハ實慧姓ハ佐伯多度郡（仲多度郡）ノ人ナリ初南都大安寺泰基ニ從ヒ性相唯識ヲ學

ヒ大同ノ初メ空海ニ從ヒ密敎ヲ受ク天長四年河內ニ觀心寺ヲ建ツ同九年空海將ニ高野山ニ退隱セントスルニ當リ付スルニ東寺ヲ以テス承和元年勅シテ高雄山ニ秘法ヲ修セシム弘仁淳和兩上皇深ク崇尙セラレ特ニ本院ノ別當ニ補シ僧正ニ任セラル同三年勅シテ東寺ノ長者ニ補シ一宗ヲ總理セシム東寺ノ長者是ヲ始トス同十年奏シテ東寺灌頂院ニ於テ春秋結緣灌頂ヲ修ス晚年世務ノ紛雜ヲ厭ヒ河內ノ槍尾ニ隱レ同十四年十一月寂ス享年六十二蓋空海高足ノ第一ニシテ後世其德ヲ慕ヘリ安永三年八月十二日勅シテ道興大師ノ謚號ヲ賜フ

法眼和尙位道昌

和尙諱ハ道昌姓ハ秦氏香川郡ノ人ナリ幼ニシテ佛道ニ歸シ三論ノ經典ヲ學フ弘仁七年分試ヲ得テ東大寺ニ於テ具足戒ヲ受ケ又空海ニ從ヒ灌頂壇ニ登リ眞言法ヲ受ク天長七年御所佛名懺悔導師ヲ奉ス淳和天皇詔アリ帝王殺生ノ罪ト臣下殺生ノ罪ト孰レカ重キヤト和尙奏シテ曰ク帝王ハ重シ臣下ハ輕シ天皇更ニ其由ヲ問ヒ玉フ曰ク竊ニ御厨ヲ見ルニ一膳ヲ供スル每ニ數十ノ鮮鱗ヲ割クモ盡ムル所太タ少シ是ヲ以テ王者ハ重シ臣下ハ山河禁アリ弋釣ヲ縱ニシ鹿ヲ假令獲ル所アルモ口腹ニ飽カス故ニ輕シト天皇其言ヲ善トシ是ニ於テ游獵ノ事ヲ省キ山澤ノ禁ヲ緩フス天安三年興福寺維摩會ノ講師ト爲ル貞觀元年大極殿御齋會及藥師最勝會ノ講師ト爲ル蓋此三會ノ講師ト爲レハ僧ノ大業畢ルト云フ同六年權律師ト爲ル同十六年少僧都ト爲ル天長以來禁中佛名會及每月ノ法事必ス道昌ヲ以テ發演ノ首トス其法華經ヲ說ク六十年間一百七十座ト云フ同十七年二月九日寂ス享年七十八

傳燈大法師

大法師名ハ守龍多度郡（仲多度郡）ノ人俗姓ハ佐伯延曆二十四年得度シ法相ノ巨匠僧正ノ護命ニ從ヒ具足戒ヲ堅守シ修禪怠ルコト無シ能ク護法ヲ說キ佛法ノ道ヲ弘ム承和ノ初メ傳燈大法師ノ位ニ補シ元興寺ノ法務ト爲レリ同八年十二月寂ス享年五十八

智證大師

大師名ハ圓珍那珂郡木徳村（仲多度郡龍川村）ノ人ナリ父ヲ和氣宅成ト云フ母ハ佐伯氏即空海ノ甥ナリ家世豪富是ヲ以テ閭里之ヲ重ンス生レテ幾屹眼ニ重瞳アリテ頭角隆起ス幼ニシテ薙染シ叡山ニ登リ義眞法師ニ從ヒ菩薩戒ヲ受ク仁壽三年八月九日入唐兩都印及灌頂法ヲ受ク留學六年貞觀元年歸朝ス天台ニシテ密敎ヲ兼ヌルハ之ヲ始トス同十年大僧都ニ任シ延曆寺ノ座主ト爲リ再ヒ三井寺ヲ造ル寬平三年十月二十五日寂ス勅シテ智證大師ト謚ス

聖寶僧正

僧正諱ハ聖寶盧飽狹岑島（仲多度郡ノ人也）（與島村）年十六眞雅ニ從ヒ得度シ三論ヲ願曉及圓宗（共ニ元興寺ノ僧）ニ學ヒ唯識ヲ平仁ニ華嚴ヲ玄衆（平仁玄衆共ニ東大寺ノ僧）ニ受ク又眞然ニ謁シ密教ヲ學ヒ後源仁ニ從ヒ益其秘ヲ極ム僧正平生苦行ヲ好ミ名山靈區跋渉セサルナシ金峯ノ檢役小角以降攀躋セシモノナシ僧正之ヲ開キ修驗道ヲ中興ス爾後行者相繼テ攀ルモノ絶ヘス貞觀十六年山城國醍醐山ヲ開キ顯密二教ヲ講ス同十七年南都ニ東南院ヲ建テ三論宗ヲ弘メ丈六ノ佛像二十餘軀ヲ造リ以テ悲濟ヲ勤ム仁和二年勅シテ傳法阿闍梨位ヲ賜フ寛平二年眞觀寺ノ座主ト爲リ延喜二年僧正ニ任シ同九年醍醐山ヲ以テ勅願所トス是年六月寂ス享年七十八應德元年四月理源大師ノ諡號ヲ賜フ

覺明上人

上人名ハ長（傳記ニ四歌ノ人トアリ其郡村詳カナラス）父ヲ伊豫守藤原國明ト云フ上人九歲ニシテ京師ニ赴キ儒學ヲ學ヒ十九歲ニシテ出家シ源空上人ニ師事シ淨土教ヲ受ク源空示寂ノ後俊仍律師ニ就キ正觀ヲ學ヒ佛法禪師ニ就テ禪教ヲ傳フ然レトモ意ヲ淨土教ニ傾ケ專ラ之ヲ研究ス曾テ出雲路住心ナル者ヨリ諸行本願ノ義ヲ聞キ大ニ感服シ京師九品寺ニ住シ諸行本願ノ義ヲ主張シ九品派ト稱ス門下光覺山田郡（木田郡）西三谷ニ一寺ヲ開キ同地方ニ法化盛ナリト云フ

贈僧正宥範

宥範ハ那珂郡櫛梨村（仲多度郡象郷村）ニ生ル幼ニシテ新善光寺ニ入テ剃髮シ淨土教ヲ學ヒ次テ無量壽院勉道僧正ニ隨ヒ密教ヲ習熟ス永仁二年高野山ニ登リ更ニ下野國鵜足寺ニ賴尊學頭ヲ拜シテ法流ヲ受ケ又同國次寺ノ妙祥上人ニ謁シ從學スル前後九年大日經妙印鈔三十卷ヲ著ス嘉元三年無量壽院ノ法統ヲ嗣ク嘉曆年間妙祥門下ノ請ヲ以テ將ニ東游セントセシカ善通寺ノ衆徒寺門ノ頹廢ヲ慨歎シ其學德ニ倚賴シ中興ノ大業ヲ成就センコトヲ哀訴ス是ニ於テ善通寺ニ住シ經疏ノ講演ト寺門ノ興復トニ盡力シ殿堂厨庫悉ク宏壯ヲ極ムルニ至ル觀應三年七月朔日寂ス享年八十應安四年勅シテ僧正ヲ贈ラル

智泉大德

智泉ハ香川郡一宮村ノ人ニシテ空海ノ姪ナリ年甫テ九歲空海其異才ヲ愛シ携テ大安寺ノ勤操大德ニ托ス十六ニシテ剃髮シ戒ヲ空海ニ受ケ其入唐ニ隨從シ博ク文物ヲ視察シ歸朝ノ後河内ノ高貴寺ニ住ス橘皇后其德ヲ仰カレ密ニ大德ニ命シ祈念セシメシニ弘仁元年果シテ皇子降誕シ玉フ即仁明天皇是ナリ皇后深ク之ヲ嘉シ給ヒ

特ニ山城國相樂郡ニ一院ヲ建立シ報國院ト號ス大同三年十一月傳敎大師灌頂ヲ空海ニ受ケンカ爲メ書ヲ智泉ニ贈リ其紹介ヲ請フ同年十二月空海智泉ヲ擁シテ高雄ノ三綱司ト爲ス又一日艦艦天皇空海ニ法風ノ高弟ヲ下問セシル實惠果隣智泉等稍大法ノ旨ヲ得タリト奉答ス天長元年定額位ニ補セラル同二年高雄本院ニ寂ス享年三十七智泉ハ繪畫ニ精巧ニシテ常ニ空海ニ左右シ事業ヲ補佐シ其功少カラスト云フ

海印寺道雄僧正

僧正ハ多度郡（仲多度郡）ノ人ニシテ佐伯氏智證大師ノ伯父タリ天性聰敏ニシテ幼ヨリ老成ノ風アリ初メ法相ノ慈勝ニ投シ剃染シ唯識ノ奥旨ヲ究メ東大寺ノ正進律師ニ隨テ華嚴並ニ因明ヲ研キ遂ニ華嚴ノ正脉ヲ繼キ其第七世ノ祖ト爲ル後空海ニ從ヒ之ニ師事ス天長四年伊豫親王ノ追善ニ召サレ又延曆寺ノ落慶會ニ列シ律師ニ擢ンテラレ僧都ニ補セラル嘉祥三年七月十日勅シテ宿禰ノ姓ヲ讃岐國大勝少進從七位佐伯直正雄等ニ賜ヒ左京ニ住セシム是僧正並ニ實惠大德ノ本姓タルニ依リ特ニ之ヲ旌表シ玉ヘルナリ仁壽元年六月四日寂ス

觀賢僧正

僧正ハ秦氏ニシテ香東郡坂田村（香川郡豐田村）ノ人ナリ聖寶當國行化ノ時偶路傍ノ流水ヲ掬シ將ニ手ヲ洗ハントス傍ラニ兒童アリ云ク其水不淨ナリト聖寶曰ク諸法豈不淨アランヤ兒ノ曰ク若シ淨不淨ナクンハ何ソ手ヲ洗フヲ須ヒン聖寶其機智ニ感シ兒ノ面貌ヲ見ルニ聰明自カラ眉目ノ間ニ見ハタリ乃チ父母ニ請ヒ携テ歸ル是即觀賢僧正ナリ長スルニ及ンテ博聞强記顯密ノ奥ヲ究メ三論ノ精ヲ研ク寛平七年兩部ノ灌頂ヲ受ケ事敎二相ノ玄旨ヲ得テ遂ニ小野流ノ第二祖ト爲ル後洛西ニ般若寺ヲ創立シ大ニ密乘ヲ演フ屢南都興福寺維摩會ノ講師ト爲リ盛名南北ニ振フ昌泰三年御室仁和寺ヲ置シ延喜二年權律師ニ任セラレ同九年東寺ノ長者ニ補セラル同十年三月勅命ニ依リ弘法大師ノ正御影供ヲ始テ東寺ニ行フ同十四年偶大旱ス勅命ヲ奉シ雨ヲ神泉苑ニ祈ル是歲南都ノ東大寺ヲ兼掌ス是ヨリ先キ峯禪高野山ノ座主タリシカ職ヲ辭シ之ヲ僧正ニ讓ル東寺ノ長者高野山ノ座主ヲ兼ヌルコト是レヨリ始ル延長三年僧正ニ任セラレ同年六月寂ス享年七十三著ス所大日經疏抄等アリ

惠曉法師

法師ハ三野郡（三豊郡）ノ人幼ヨリ釋門ニ入リ叡山ノ行泉法師ニ就テ法華玄義ヲ學ヒ泉涌寺ノ明觀律師ニ隨テ律ヲ學ヒ又聖一國師ヲ師トシ禪ヲ修ムルコト八年各造詣スル所アリ文永三年渡宋シ瑞巖寺希叟禪師ニ面シ禪味ノ蘊奥ヲ探リ得テ歸朝ス正應

五年藤原某ノ請ニ應シ東福寺ニ住シ專ラ直指人心ノ教風ヲ宣揚セシカハ叢禪ノ徒躍ヲ接シテ至ル永仁五年十二月二十五日遷化ス享年七十五其臨終ノ偈ニ曰ク來也如是去也如是更問如何如是如是

聖一國師

國師名ハ圓爾三木郡（木田郡）白山山下ノ人（白山ハ下高岡村ニ屬ス）五歲ニシテ堯辨法師ニ從ヒ披剃シ修禪堅正ナリ嘉禎元年入宋シテ經山寺無準ニ學フ仁治二年歸朝シ同三年東福寺ヲ創立ス弘安三年十月十五日寂シ正和元年聖一國師ト謚號ス是ヲ東福寺ノ開山トス

增吽僧正

僧正諱ハ增吽字ハ龍德大內郡（大川郡）川ノ人其父安藝盛正嗣ナキヲ憂ヘ西村（西村）水ノ天神ニ祈請セシニ母一夜神光ノ虛空ヨリ來テ胎內ヲ照スト夢ミ後懷妊セシカ十二月ニシテ生ル其母ノ胎內ヲ離ルヽヤ自ラ七步シテ空ヲ仰キ吽ト唱フルモノ三聲衆皆之ヲ異トス時貞治五年三月五日ナリ僧正幼ニシテ常ニ佛天ノ像ヲ畫クコトヲ好ミ又土ヲ聚メテ堂塔伽藍ヲ造ルヲ娛トス一日與田寺增惠法印之ヲ見テ曰ク是龍兒驅子ナリ他日必ス大法ヲ興サント乃チ誘導薙染シテ龍德房增吽ト號ス是ヨリ學業ニ孳々トシテ不二ノ妙旨ヲ南嶺ニ學ヒ三密ノ瑜伽ヲ東寺ニ傳ヘ密藏ノ蘊奧盡サヽルナク內外ノ二典究メサルナシ特ニ佛天ノ畫像彫刻ノ妙技自カラ神ニ入ル又力ヲ佛門ノ興隆ニ盡シ或ハ廢寺ヲ興シ或ハ堂塔ヲ建ツル等ノ事跡今猶存スルモノ少シトセス其名九重ニ達シ後小松天皇ヨリ應永十九年三月增吽ヲ宮中ニ召シ勅シテ權僧正ニ任シ瑜伽ノ法壇ヲ飾リテ加持ヲ受ケサセラレ佛舍利一筐唐碧一枚水精珠數一串且虛空藏院ノ號ヲ賜ヒ永ク勅願所タルヘキノ宣旨ヲ賜フ尋テ同二十二年稱光天皇ヨリ國家鎭護ノ爲メ毎歲法華八講ヲ修スヘキノ勅宣ヲ被リ紺紙金泥ノ法華經八卷普賢觀經觀無量壽經十軸觀世音像一軀及八講ノ料トシテ莊田ノ御寄附アリ享德三年四月與田寺ニ寂ス享年八十九

岐陽禪師

禪師諱ハ方秀不二道人ト號ス姓ハ佐伯氏貞治二年十二月三野郡熊岡郷（三豊郡財田村財田大野村ニ屬ス）ニ生ル時國中騷亂父清泰故アリ北越ニ奔ル母師ヲ携ヘ京師ニ入リ外祖父ニ依ル祖父儒ヲ業トシ師ニ句讀ヲ授ク應安五年祖父歿スルニ及ヒ東福寺石窓泉ニ仕フ後相摸ニ赴キ錫ヲ鎌倉壽福寺ニ掛ケシカ周年ニシテ京師ニ歸リ南禪寺ニ安居ス年三十ニシテ東福寺ニ藏鑰ヲ掌リ尋テ要職ニ歷任ス將軍足利義持常ニ師ヲ請シ宗要ヲ問ヒ崇敬甚厚シ初メ當國ノ道福寺ニ住シ尋テ普門寺東福寺ニ歷遷ス東福入寺ノ日

將軍贈ルニ金襴ノ袈裟ヲ以テス師之ヲ謝スル詩アリ曰ク自顧道貧無可褒相公厚賜紫方袍寵恩今日如何謝滄海不深山不高後病アリ栗棘庵ニ退休ス又起テ南禪寺ニ陞住シ幾モナク寺事ヲ辭シ不二庵ヲ搆ヘ幽居セシカ應永三十一年二月示寂ス享年六十二著ス所琴川錄不二遺稿アリ師初メ夢窓國師ノ高足義堂ヨリ朱子學ヲ傳承シ四書ニ訓點ヲ施シ後世之ヲ傳フト云フ

天圭長老

長老諱ハ照周三木郡池戸村（木田郡平井村）松原玄雪ノ子ナリ龍殿上人ニ隨フテ披剃シ上人寂滅ノ後其遺命ヲ以テ戒光寺ニ住セシカ後泉涌寺第八十三世ノ勅住タリ其學德並ニ秀テ南嶽南都ノ群匠モ三井叡山ノ羅哲モ提撕警策セラレサルナシ殊ニ宮中ニ召サレ天顏ニ咫尺シ屢經論ヲ奉講シ後水尾上皇ヨリ紫衣並ニ天圭長老ノ號ヲ勅賜セラル其崩御シ給フヤ遺勅ニ依リ火葬ノ導師ヲ勤仕ス示寂年月詳カナラス

德巖禪師

禪師名ハ養存字ハ德巖山田郡（木田郡）ノ人俗姓ハ矢野氏年十一見性寺鎭山和尙ニ從ヒ薙染ス年三十二見性寺ノ寺務ニ任ス十餘年ノ後龜山（香川郡宮脇村）ノ麓ニ隱居シ龜山道人ト號ス元祿五年水戸光圀之ヲ招クモ應セス同八年又招カル已ヲ得ス常陸ノ常光院ニ住シ後杉山ノ大雄寺ニ移ル和尙好テ書ヲ觀ム手卷ヲ釋カス博學多才著ス所叢書辨疑三卷アリ

竹林上人

上人姓ハ多田名ハ獨雄幼名ハ榮六高松ノ人ナリ性甚タ竹ヲ愛シ自ラ竹林ト號ス年十三高松多聞寺哲雄ニ從ヒ出家得度ス後哲雄志度ノ自性院ニ轉住ス上人之ニ隨ヒ自性院ニ來リ四度加行ヲ爲ス其加行中壇ノ傍ラニ土偶人ヲ置キ之ヲ玩ヘリ其師之ヲ奪ヒ去ルモ又他ヨリ求メ來ツテ之ヲ置ク生長ノ後說敎化益スルニ土偶ノ譬ヲ以テ大日經其他一切ノ敎法ヲ說クコト善ヲ盡シ美ヲ盡セリ其晉テ加行中玩フモノハ意アツテ然セシナラン上人敏才多能ニシテ儒釋ノ學ヲ始メ書畫詩文和歌俳諧ヨリ以テ雜技ニ至ルマテ兼ネ能クセサルナシ殊ニ算術ハ其蘊奧ヲ究ム是皆其師アルニアラス自得セシモノト云フ上人常ニ光明眞言ヲ唱フ日ニ一萬遍後其數ヲ加ヘ三萬遍ニ至ル天明四年其師命ニ依リ自性院ニ住スル三年ニシテ法弟觀道ニ讓リ寺外ニ草庵ヲ結ヒ茲ニ隱居シ三等室ト號ス其隱居ノ四方ニ長短細大各種ノ竹ヲ種テ以テ樂トス又志度村ノ西南ニ勝地アリ間川ト云フ其地竹多シ上人常ニ游息ノ所トス寛政十二年閏四月八日弟子ヲ集メ告テ曰ク我滅明ハ今年六月六日ニアリト果シテ其

期ヲ以テ淑ス天保三年其三十三年忌辰小野隨心院宮岡本尾張介ヲ使トシ上人號ヲ贈ラルト云フ

綾洲和尚

和尚諱ハ至道綾洲ハ其號ナリ俗姓ハ和田氏高松藩士ナリ高松法泉寺ニ住ス明治十一年十二月遷化ス享年四十九綾洲武門ニ生レ幼ヨリ武技ヲ嗜ム夙ニ佛乘ヲ信シ常ニ好テ佛典ヲ研究シ生死一大事因緣ヲ感レ遂ニ意ヲ決シ薙染セント欲シ其志ヲ法泉寺瞎堂和尚ニ告ク和尚之ヲ許サス蓋和田氏ノ嗣子タルヲ以テナラン綾洲止ムヲ得ス一策ヲ立テ一夜某港ニ到リ舟子ニ告テ曰ク明朝法泉寺ノ一僧急ニ大阪ニ赴カント幸ニ搭載セヨト是ニ於テ其夜綾洲自ラ髮ヲ剃シ天明ヲ待チ行脚僧ノ裝ヲ爲レ走セテ港上ニ到ル舟子其前夜ノ士人タルヲ曉ラス之ヲ大阪ニ送ルト云フ其機敏此ノ如レ夫ヨリ美濃ニ到リ雪澤和尚ヲ伊深ノ正眼寺ニ訪ヒ師弟ノ約ヲ結ヒ辛苦修學スルヨト十餘年覺ニ宗旨ノ蘊奥ヲ究メ其印記ヲ得テ法泉寺ニ歸住ス時元治元年七月ナリ後雪澤遷化スルニ及ンテ其遺命ヲ以テ轢ヲ美濃ノ瑞龍寺ニ移シ翠巖軒ト稱シ次ニ其如明覺ノ家風ヲ揭ケヌ綾洲終ニ臨ミ侍者ニ謂テ曰ク若シ我遺偈ヲ問フ者アラハ須ラク正語ヲ以テ之レニ答ヘヨト口ツカフ四句嘗願ヲ顧シ了リテ瞑目スト云フ

孝子

九郎臣明麿

明麿ハ三野郡三豊郡ノ人ニシテ世々三野ノ戸主タリ外從八位ニ叙セラル父ヲ己酉成ト云フ承和八年市メテ十八ニシテ出テ朝廷ニ仕フ忠正ニシテ私ナシ是ニ於テ從四位上ニ叙シ三野ノ郡司ト爲ル其人ト爲リ孝順其父ノ居已ノ宅ト相隔ツルモ日々定省シ迅雷風烈ト雖モ未タ嘗テ之ヲ闕カス其名朝ニ達シ承和十五年勅シテ爵三級ヲ賜ヒ終身其田租ヲ免ス

七五郎

七五郎ハ阿野郡綾歌郡西庄村ノ人ナリ幼ニシテ父ヲ失ヒ母ト共ニ居ル家貧ニシテ生計甚タ苦シ姉アルモ不幸ニシテ明ヲ失ヘリ是ニ於テ七五郎同郡江尻村金山村ノ農夫權三郎ナル者ノ奴トナリシカ每食必ス其半ヲ匿キ之ヲ母ト姉トニ贈リ夜ハ草鞋ヲ造リ錢ニ換ヘ亦之ヲ母ト姉トニ贈ルコト十年一日ノ如シ權三郎其至誠ヲ感シ其力役ヲ寛フシ且之ニ藁ヲ給シ製鞋ノ料ト爲サシム高松藩郡奉行西岡與兵衛之ヲ藩主ニ稟レ吏ヲシテ之ヲ驗セシムルニ果シテ其言ノ如シ寛保二年四月十六日穀四斛ヲ

與へ其孝悌ヲ表シ他ノ善行ヲ勸奬ス

官藏

官藏ハ豐田郡（三豊郡）和田村ノ人ニシテ天性眞實孝友ナリ父壯年ヨリ病アッテ廢ヲ業トスル能ハス兄アルモ亦病アリテ別居シ年已ニ老ヒタリ妹ハ痘瘡ノ爲メ啞トナリ弟亦病ンテ常人ト異ナレリ官藏一身ニ之ヲ負擔シ其妻子ヲ併セ一家十五人ナルモ僅々木綿ヲ販賣シ以テ生計ヲ立ツ近隣其貧ヲサルヲ愛レ屢扶助セシヲ以テ孝養怠ラサリキ父兄弟妹ノ病ヲ祈ル爲メ毎朝氏神及菩提寺ニ詣スル未タ嘗テ之ヲ欠カズ文化三年丸龜藩之ヲ賞シ米二俵ヲ賜フ

新藏

新藏ハ豐田郡（三豊郡）和田村ノ人ナリ能ク父母ニ事レリ父母共ニ兄ノ家ニ隱居シケルカ新藏毎朝其起居ヲ問ヒ他ニ往クコトアレハ出入必ス告ク毎ニ晩飯終レハ又往テ之ヲ慰ム大風雨ノ時ト雖モ闕クルコトナシ父母或ハ田ニ往ケハ之ヲ路ニ迎ヘ歸ルニハ必ス家ヤテ之ヲ送ル其妻モ亦孝順ニシテ能ク舅姑ノ意ニ違フコトナシ後母病ムニ及ンテ農事ノ暇ヲ偷ミ日々其側ヲ離レス看護セシニ母モ心苦シケレハ或宵今夜ハ頗ル快シトテ强テ繰車ヲ挑リ絲ヲ引キケレハ新藏亦去レル爲ネシテ窃ニ屋外ヨリ窺ヒ暫モ去ラサリキ父母死スル後ハ日々五度ッヽ佛供ヲ奉リ禮拜怠ラス此外他人ト交ルニ能ク謙讓恭敬ヲ盡シ毎年秋稻ヲ收ムルモ租稅ノ貫ヲ了ラサレハ決シテ之ヲ他ニ用ルコトナシ丸龜藩其孝順ヲ賞シ米壹俵ヲ賜フ

政右衛門

政右衛門ハ香東郡西庄（香川郡池四村）村ノ貧農ナリ早ク生母ヲ亡ヒ父後妻ヲ娶ル後母性惡ク右衛門ヲ遇スル甚暴虐ナルニ後後母一子ヲ擧ケシヨリ其虐益甚シ然レ𪜈未タ嘗テ其意ニ忤フコトアラス偶後母事ニ依テ政右衛門ヲ譏スルニ父之ヲ信レ遂ニ政右衛門ヲ逐フ政右衛門人ニ依リ之ヲ謝スルモ聽サス已ムコトヲ得ス別ニ一小舍ヲ作リ之ニ居リ日々他人ニ傭レ以テ自ラ糊口ス然レ𪜈時々父ノ家ニ詣リ救サンコトヲ乞フモ聽カス後父狂疾ニ罹リ且兩眼明ヲ失フ里人以テ譏ヲ信スルノ餘殃トス母乃チ政右衛門ニ謂テ曰ク父ノ疾癒ヘス我供給ニ堪ヘス汝宜シク之レニ供スヘシ是レ固ヨリ汝ノ職ナリト是ニ於テ政右衛門旦夕食ヲ餉ルコト怠ラス爾後父ノ家益ス貧シ其家ヲ賣テ小舍ヲ政右衛門ノ屋後ニ造リ移テ之ニ居ル政右衛門時已ニ妻子アリ夫妻之ニ事ルコト敬謹一日ノ如シ母曰ク汝狡兒多ク我其喧ニ堪ヘス汝速ニ我ヲ避クヘシト是ニ於テ政右衛門其家ヲ棄テ妻子ヲ携ヘ隣家ノ牛欄（ウシヤ）ノ側ヲ借テ居レリ里

人之ヲ憐ミ錢ヲ聚メ一舍ヲ造リ之レニ與フ母之ヲ聞キ政右衛門ニ謂テ曰ク父ノ居室已ニ古シ汝速ニ之ヲ修理スヘシト政右衛門已レノ新舍ヲ以テ之ニ與フ里人怒テ曰ク新舍ヲ造ルハ姦徳ノ爲メニスルニアラス然ルニ何ソ彼レニ與フルヤ政右衛門曰ク小人諸君ノ厚意ヲ感セサルニアラス然レ𪜈唯父母ノ心ヲ安ンスレハ我願足レリ何ソ舍ノ無キヲ憂ント天明五年其事高松藩ニ聞エ米五苞ヲ與ヘ之ヲ賞ス寛政八年藩主松平頼儀ノ始テ封内ヲ巡視スルヤ更ニ錢若干ヲ與フト云フ

現七

現七ハ香西郡香川郡圓座村ノ人ナリ家貧ナルモ母ニ事テ至孝母ノ求ムル所供給セサルナシ平生一苞ノ米ヲ蓄ヘ乏シト雖𪜈未タ曾テ之ヲ欠カス常ニ人ニ語テ曰ク若シ予ニシテ死スルコトアラハ即日ヨリ母必ス飢餓ニ及フ可シ故ニ此殷ヲ爲スト其用意此ノ如シ後居ヲ鹿角村一宮村ニ移ス高松藩主松平頼儀ノ封内ヲ巡視スルヤ錢壹貫文ヲ與ヘ此ヨリ以後毎年歳暮米數斗ヲ與ヘ且本藩豫メ其墓ヲ作リ題シテ孝子現七之墓ト云フ蓋闔門ニ旌表スルノ意ナリ

利八

利八ハ山田郡木田郡三谷村ノ農源藏ノ子ナリ家甚タ貧シキニ二妹アリ皆白痴ニシテ

蕎麥ヲ辨セス源藏病褥ニ在テ深ク之ヲ憂ヘ利八ニ謂テ曰ク我今將ニ死ナントス彼ノ二妹ヲ如何セント利八涙ヲ拭フテ曰ク彼等亦父母ノ遺體ナレハ父ノ在否ヲ以テ見之ヲ貳ツニセスト源藏喜テ以テ死ス利八大ニ哭シ漸クニシテ顏ヲ擡ケ其母ニ謂テ曰ク希クハ母亦自ラ愛シ永ク世ニ在テ其ニ二妹ヲ養ヒ以テ天年ヲ終ヘシメ給ヘト聞クモノ感泣セサルナシ高松藩主之ヲ聞キ米一苞ヲ賜ヒ之ヲ賞ス後母病テ死スルモ亦孝養備サニ至ルヲ以テ同藩又賜フニ米一苞ヲ以テス其二妹ヲ愛養スル殆ント二十年父母ト雖𪜈猶及ハサルカ如シト云フ後明治七年ニ至リ名東縣モ亦金若干ヲ賜フ

由喜

由喜ハ山田郡木田郡西植田村字稗田ノ人ナリ其父罪アリ獄ニ繫カレ將ニ死刑ニ處セラレントスルヤ由喜ハ其身ヲ以テ父ニ代ハランコトヲ哀訴シ尚其後日夜悲歎痛苦措カサルヲ聞キ明治七年二月名東縣ヨリ金若干ヲ賜ヒ以テ其心志ヲ慰スト云フ

編者云孝ハ百行ノ本ナリ當國ニ於テ古來孝子其人匿シカラス高松丸亀多度津三藩治ノ際ニ在テモ之ヲ賞セシモノ亦指ヲ屈スルニ遑アラス今此ニ記載スルモノハ固ヨリ其一二ニ過キス當國古今ノ孝子敢テ此ニ盡スニアラサルナリ

烈女

弟橘姫

弟橘姫ハ讃岐ノ人穂積氏忍山宿禰ノ女ナリ日本武尊幸テ能ミ給フ尊東征ノ時海ニ投シ玉フ事ハ古史ニ炳焉タレハ今之ヲ贅セス

里也

里也ハ丸鶴藩主京極氏ノ輕卒尼崎幸右衛門ノ女ナリ元祿ノ頃同役ニ岩淵傅内ト云フ者アリ幸右衛門ノ妻ニ懸慕シ一夜其夫ノ不在ヲ窺ヒ戯レノ言アルヲ幸右衛門歸リケレハ其妻之ヲ告ケシニ幸右衛門怒テ將ニ傅内ヲ撃ントス傅内亦刀ヲ拔キ幸右衛門ヲ斬殺シ走リ出ントスルヲ其妻里也ヲ抱キ居タリシカ夫ノ拔棄タル刀ヲ取テ之ヲ投チシニ傅内ノ肩ニ中リシカ終ニ逃走セリ時十月ノ下旬ニシテ雪降リ夜色殊ニ暗ク之ヲ逐フニ由ナク家ニ歸リケレハ幸右衛門已ニ絶息ス乃チ之ヲ藩ニ訴ヘシモ其蹤跡ヲ得ルコト能ハス此時里也ハ機二歳其母之ヲ携ヘ幸右衛門ノ妹夫關野元右衛門ノ家ニ寄食セリ明年二月母病テ歿ス元右衛門里也ヲ養ヒ歳月ヲ送リシニ里也十三歳ノ時始テ吾父ノ傅内ニ殺サレシコトヲ聞キ大ニ悲哀シ夫ヨリ特ニ諸藝ヲ

勵ミケレハ元右衛門モ之ヲ愛育セシニ十八歳ノ時或ル日元右衛門ニ向ヒ從來ノ洪恩未タ報ヒサルモ數年ノ暇ヲ賜ハラハ江戸ニ往キ父ノ仇ヲ探リ復讐セントノ志ヲ告ケシニ元右衛門モ其志操ヲ感シケリ時藩士村瀬東馬江戸ニ赴クノ由聞ケレハ其下婢トシテ進ハシケリ東馬江戸ニ至リ里也ヲ旗下ノ士ニシテ劍道ニ達シタル永井源助ノ家ニ仕ヘシム里也能ク勤勉シテ怠ラス一日源助里也ニ謂ヘラク汝人品端麗殊ニ筆跡頗ル妙ナレハ必ス故アル人ノ子ナラント里也懇請スル能ハス其志願ヲ陳述セシニ大ニ之ヲ感シ夫ヨリ劍術ヲ教ヘシカ其期スル所アレハ期年ナラスシテ其技大ニ進ム或日源助里也ニ向ヒ汝我家ニノミ在テハ仇ヲ探クルコト難カルヘシ今ヨリ屢主人ヲ替ヘ廣ク人々ニ交リ志ヲ遂クヘシト里也其恩義ニ感シ心ナラスモ命ニ從ヒ爾來十二年ノ間處々ニ奉公セシカ後本莊ナル坂部安兵衛ト云フ旗下ノ家ニ仕ヘケルニ若黨ニ泉文内トテ五十歳餘リノ男アリ或日醉ニ乘レ言ケルハ吾壯年ノ時色艶ナルヲ以テ多クノ婦女思フ儘ナラサルナシ其中ニ心强キ女アリ是ハ人ノ妻ニテアリシカ我密語ヲ其夫ニ漏シ其夫吾ヲ討タントセシ故彼レヲ討棄タリ其時我ハ妻子ヲ棄テ生國ヲ退キシト語リシニ里也ハ大ニ感スル所アリシモサアラヌ体ニ虚言ヲ言ヒ玉フナト言ケレハ文内謂ヘラク今ハ年月モ古リタレハ秘スヘキニモアラス

我ハ京極家ニ仕ヘ岩淵傳内ト云シカ今ハ姓名ヲ改メ愛ニ來リシナリ彼ノ夫ナ討テ去リシ時其妻カ投付ケシ刀我肩ニ中リシカ其傷是ナリト右ノ肩ヲヌギ見セケレハ里也ハ心強キ人カナト譽ケレハ畢竟若氣ノ至ナリ今ハ年老テ當時ノ事ヲ回想スレハ彼ノ心强キ妻ハ如何ナリシ其子モ女子一人アリ又我妻子ナトモ我去リシ後ハ定テ辛苦艱難セシナラント語リケルニ里也ハ翌日主人ニ暫クノ暇ヲ乞ヒ直チニ永井源助ノ家ニ赴キ此顚末ヲ告ケ・レハ源助即チ村瀬東馬ノ家ニ里也ヲ伴ヒ相謀テ藩邸ニ訴ヘ坂部氏ヨリ文内ヲ乞ヒ請ケ暫時之ヲ藩邸ノ獄中ニ繫キ下屋敷ニ於テ數日ノ後里也ヲシテ文内ト決鬪セシメシニ終ニ文内ハ里也ノ殺ス所トナレリ乃里也ハ其首ヲ斬リ檢使ノ前ニ拜跪シ涙ヲ拭フテ退キケリ其舉動綽然トシテ餘裕アリト云フ藩主ハ里也ヲ舉ケテ女公子ニ屬シ永井ト改メ後永井ノ局トソ呼ケル

井上通

通女（初名ハ振後玉ト改メ又宗遠ト稱ス）ハ丸龜藩士井上本固ノ長女ナリ萬治三年六月十一日ヲ以テ生ル幼ヨリ學ヲ好ミ博ク和漢ノ書ヲ讀ミ詩歌文章ヲ善クシ兼テ書法ニ達ス處女タリシ時深閨ニ居テ女德ヲ修メ處女ノ賦ヲ作リ自ラ戒ム其詞ニ曰

邈嚴君之明訓兮居茲閨閫之幽師詩書學四德兮經內則習和柔哀牝鷄晨於殷兮喜關雎匹于周遍看古昔之傳兮心與烈女同遊溫故寧不能及兮修身希寡悔尤書中不遠萬里兮眼前忽到幾州見彼敬姜于魯兮竭此孟母於鄒求女師其未少兮古人德以迄今履霜以思致氷兮抱是寒木之心服節儉不暇飾兮何治容而効淫向窓下而紡績兮燒膏油而執針此小勤不足苦兮耻情身不如貧只徒飽食溫衣兮無成而送光陰括囊顧緘口戒兮畏驕盈女史箴嗚呼余志之堅兮不可以貧富侵雨露溫側春服兮西風來催秋砧榮只有二親在兮承教何爲不力家尊之嚴且慈兮母氣之慈而則惠予以義方愛兮教予以正法式兮予得親古賢兮使余無生姑息知女子之多懼兮識事之在蠶織安閨中志在中兮不除而樂草色身自不出戶庭兮言則不出於閫精神肅而以閑兮四體靜而端直恐日月之蹉蛇兮無業之供子職顧守身而無詒羞兮永思而以抑抑

此詞ヲ讀ノハ自ラ其志操ヲ見ルニ足レリ天和元年藩主ノ母堂養性院ニ仕ヘ江戸邸ニアル九年能ク忠勤ヲ盡ス其宏才達識當時江戸碩學ノ間ニ賞セラレ詩歌贈答殆ント虛日ナシ養性院卒スルニ及ヒ仕ヲ辞シテ同藩士三田宗壽ニ嫁シ能ク舅姑ニ事ヘ婦道ヲ守リ内助ヲ爲ス夫沒シテ後閑窓ノ下風月ニ吟哦シ以テ餘生ヲ送ル三子義勝英才卓識ニシテ藩主ニ侍讀シ且一藩ニ教授ス元文三年六月二十三日病テ歿ス享年七十九著ス所家訓東海紀行歸家日記括囊集往事集續往事集秋燈集和雅記源語秘訣聞書

初女

初女ハ山田郡菅澤村（木田郡東植田村）ノ農與七郎ノ義子ナリ其生父ヲ八内ト云フ初女ノ孩ナル其母ヲ亡ス八内家貧ニシテ育スルコト能ハス與七郎之ヲ憐ミ之ヲ糧（ムシロ）ノ内ニ取ツテ養フ長スルニ及ンテ其甥ノ八兵衛ニ配シ二子ヲ生ム養母人ト爲リ頗嚴ニシテ非理ヲ以テ夫婦ヲ虐待ス偶一朝ノ怨リヲ以テ八兵衛ヲ逐フ初女心ニ之ヲ悲ムモ怨懟ノ色ヲ形ハサスシテ父母ニ事フル益柔順ナリ後母初女ノ爲メニ更配ヲ謀リケレハ固辭シテ聽カス其婚期已ニ迫ルニ及ンテ二兒ヲ八兵衛ノ母ニ托シ傍室ニ入リ縊レテ死ス實ニ天明三年三月二十五日ニシテ初女時年纔ニ二十三ト云フ

名士

多之助

多之助ハ山田郡小村（木田郡十河村）ノ政所（土俗往昔ハ里正ヲ政所ト云）某ノ子ナリ父病セルヲ以テ代テ里正ノ事ヲ執ル寛永二十年夏大ニ旱セシヲ以テ村民地租ヲ納メ得サルモノ多シ其米額凡拾八石當時地租ハ其年十一月二十八日ヲ以テ皆納ノ期トス期ニ及ンテ藩吏召シテ之ヲ責ム時ニ多之助ノ家田高二百石ヲ有スレハ之ヲ窮民ニ賑ルモ遂ニ納ムルコト能ハサルヲ以テ私財ヲ出シ之ヲ償ハントス藩吏之ヲ許ス時藩主ノ小性ニ大村兵蔵ト云者アリ之ヲ聞キ藩主ニ告テ曰ク彼不遜ナリ名主ノ分際ヲ以テ地租ヲ代納セシナトヽハ何等ノ奇怪ソ之ヲ容シテ刑セスンハ何ヲ以テ衆ヲ懲サント依テ之ヲ刑ニ附ス藩主其實ヲ聞キ急使ヲ馳セテ刑場ニ至ラシムルモ已ニ刑死セラル、後ト云フ實ニ正保元年四月二十五日ナリ刑場ハ香川郡太田村字上福岡一本松ノ北ニアリ其屍ハ山田郡夷村（木田郡木太村）ニ埋ム遠近之ヲ聞キ悲泣セサルモノナシ里人之ヲ踏フ其歌ノ一ツニ小村多之助十九デ所帶二十一（イチジュウ）期ハ木ノ空（ウロ）ニト以テ其人ヲ感セシメシコトヲ知ルヘシ高松藩制ニ毎年六月租稅中ノ二分ヲ分納セシムル慣例アリ是多之助ノ事ニ依テ起レリト（當時世俗六月ノ納租ヲ當切リ勘定トスフ）其父ハ追放セラレ石見國ニ往キ士籍ニ列セラレ小村平之丞ト稱セシト

筑輪野鹿

野鹿ハ高松藩祖松平頼重ニ仕ヘ祐筆タリ祿百五十石ヲ食ム常ニ其技倆ヲ空海逸勢ニ比ス自カラ許スコト此ノ如シ此時宗藩水戸光圀祿三百石ヲ以テ能書筆海ナル者ヲ任用ス野鹿之ヲ聞キ頼重ニ謂テ曰ク筆海ハ眞ニ能書ナルモ敢テ畏ル、ニ足ラス

然ルニ祿三百石ヲ忝クス臣食ルニ非サルモ祿ヲ筆跡ノ價トスレハ公宜シク考スル所アレト然レモ數日報ヲ得ス是ニ於テ野鹿國ヲ去テ備前ニ往キ居ル三年遂ニ江戸ニ赴ク諸侯或ハ群命スルモ祿足ラサルヲ以テ仕ヘス後竟ニ餓死スト云フ

久保太郎右衛門

太郎右衛門諱ハ貞實阿野郡萱原村（祿歌郡萱原村）ノ人ナリ士人ノ口碑ニ依レハ萱原ノ地タル今ヲ距ル四百年前ニアッテハ即萱原ニシテ萱茅叢生ノ所タリ享祿年間盡田茂明及弟茂久ナルモノ此地ニ來リ開墾ニ着手セシモ元祿年間ニ至ルマテ猶田畑拾町人戸百四十餘ニ過キス蓮池水ノ缺乏ナルヲ以テ土地アルモ之ヲ墾スルコト能ハサレハナリ時恰モ大旱ニ遭遇シ居民餓死スルモノ五十餘人太郎右衛門百方苦心綾川ノ上流ヲ引テ山田村ヨリ萱原村ニ至ル水道ヲ開鑿セントシ之ヲ高松藩ニ出願セシモ吏胥抑留シテ年月ヲ經過ス是ニ於テ憤然意ヲ決シ之ヲ藩主ニ直訴ス乃チ其罪ヲ以テ太郎右衛門ヲ獄ニ下セシカ獄中ニ在テ猶此事業ノ藩國ニ鴻益アルコトヲ說テ止マス藩廷稍其理ヲ覺リ吏員ニ命シ之ヲ調査セシメ終ニ其願意ヲ許可ス是ヲ以テ太郎右衛門囹圄ヲ脫シ鄉里ニ還リ自己ノ資產金額ヲ投シ此設計中最モ難所ニシテ吏員ノ尤モ非難多カリシ缺掛山堀切ヲノ工事ヲ完了シ續テ前後ノ水路ヲ開鑿シ且溜池三十一ヲ築キ萱原瀧宮北陶山田五村ノ田二百三十五町五反八畝二十六歩ヲシテ灌漑水ヲ普及セシメタリ後又香川郡川東村ニ新池ヲ築キ又阿波國吉野川ノ下流國座地方ニ於テ治水ノ功績ヲ奏セシト云フ正德元年七月二十二日病テ歿ス享年六十七

平賀源內

源內諱ハ國倫字士彝鳩溪ト號ス坊名ヲ四方吉ト稱ス寒川郡志度村（大川郡志度町）ノ人ナリ幼ヨリ讀書算術ヲ好ミ資性聰敏才智衆ニ超エ延享ノ始齡猶十二ノ時ヨリ既ニ國益ヲ想シ名ヲ竹帛ニ垂ンコトヲ期シ乃チ醫學ニ志シ特ニ本草ノ學ヲ研究ス高松藩主松平頼恭之ヲ奇トシ招テ藥園係ノ小吏ト爲シ月俸四口銀拾枚ヲ給ス是ニ於テ源內阿野郡（祿歌郡）白峯山ニ朝鮮人參ヲ移植シ香川郡東濱村ニ甘蔗ヲ栽培ス寶曆十二年致仕シテ江戸ニ游ヒ益物產ノ學ヲ修ム明和元年火浣布ヲ創製シ之ヲ幕府ニ獻ス其他金唐革紅革玻璃鏡等皆其創製スル所ト云フ同七年長崎ニ游ヒ和蘭本草ノ學ヲ修ム偶西洋ニ越歷電機器アルヲ聞キ考案數日ニシテ之ヲ模造ス（此模造セシモノ今栗林公園內物產陳列所ニ收藏セリ）人其奇巧ニ驚カサルナシ是時ニ當リ支那交趾製ノ陶器多ク本邦ニ輸入シ價格太タ貴シ源內邦貨ノ澁出ヲ憂ヘ其陶窯釋法ニ倣ヒ多クノ陶器ヲ製造セリ抑源內絕世ノ抱負ヲ行ハン

トスルモ事志ト違ヒ快々トシテ樂マス依テ世間ヲ愚弄シ院本又ハ小說ヲ作リ以テ世人ノ欣賞ヲ博スルヲ事トセリ後故アリ獄ニ繫カレシカ安永八年十二月獄中ニ死ス享年四十八著ス所神農本草經本草和名考物類品隲本草比肩食物本草火洗布考四季名物正字考萬國圖日本穀木石禽獸魚介蟲譜等アリ

勝田精兵衛

精兵衛諱ハ良延字ハ子壽五獄ト號シ初九八郎ト稱ス丸龜藩士ナリ享保二年ヲ以テ生ル幼ニシテ穎悟好テ書ヲ讀ミ武技ヲ習フ市ヲ十六歲京都及江戸ニ適キ諸名家ノ門ニ游フ日ト十數年書トシテ讀マサルナク醫トシテ購セサルハナシ其交游スル所皆一時ノ名士ナリ嘗テ親ノ病ニ侍シ大ニ感スル所アリ醫術ヲ京師ノ宿益東洞ニ學ヒ刻苦數年其奧ヲ究ム年三十九父ノ陸祿ヲ襲ヒシヨリ官暇常ニ詩ヲ賦シ文ヲ風スルヲ以テ樂トス一日藩卒某醉テ刀ヲ揮ヒ人ヲ害セントス衆敢テ近ツクモノナシ精兵衛徒手之ヲ捕フ物ヲ囊中ニ探ルカ如シ其武技ニ於テモ亦精練ナル知ル可シ天明四年正月七日病テ歿ス享年六十八著ス所五樣集傷寒論古義解二老餘明詩礎等アリ

村上彦三郎

彦三郎ハ小豆島（小豆郡）草壁村字上村ノ人ニシテ其地ノ里正タリ抑本島ハ山岳重疊ニシテ古來多ク猪鹿ヲ產スルヲ以テ其農作物ヲ害スル少シトセス彦三郎大ニ之ヲ憂ヒ田圃ト山林トノ境界ヲ畫シ石ヲ築キ墻ト爲シ其害ヲ豫防センコトヲ農民ニ謀リシニ農民之可トセシヲ以テ即チ大ニ其工ヲ起シ三十餘里ニ延長スル石墻ヲ周年ナラスシテ創築ス實ニ寛政二年ナリ爾來島民皆其德ニ依レリ後文政六年八月碑ヲ建テ其德ヲ追表ス

向山周慶

周慶名ハ敬章大內郡湊村（大川郡白島村）ノ人ニシテ醫ヲ藩醫池田玄丈ニ學ヒ傍ラ殖產ノ志アリ寶曆年間高松藩主松平賴恭夙ニ殖產ノ意アリ大ニ甘蔗ノ栽培ヲ奬勵スルモ製糖ノ法未タ精シカラスシテ得失相償ハス乃チ玄丈ニ命シ製糖ノ法ヲ研究セシム事未タ完カラスシテ玄丈病ニ罹リ將ニ歿セントス是ヲ以テ周慶ニ遊學スルニ其志ヲ繼クコトヲ以テス周慶乃チ之ヲ研精スルコト十數年偶薩摩ノ人真助ナルモノ我讃ニ來リ大病ヲ患ヘ湊村ニ呻吟ス周慶之レカ爲メ百方看護セシヲ以テ九死ヲ出テ一生ヲ得タリ良助乃チ本國ニ歸リ姑ラクシテ又周慶ノ許ニ至リ製糖ノ法ヲ授ク蓋其再生ノ恩ニ報ユルナリ是ニ於テ周慶始テ宿望ヲ遂ケ藩命ヲ奉シ其改良法ヲ傳ヘ遂ニ讃岐砂糖ノ聲價ヲシテ天下ニ喧傳セシメ後年高松藩ノ富ヲ致スハ職トシテ之ニ依レ

リ文政二年九月病テ歿ス享年七十四同年十一月良助モ亦歿ス共ニ之ヲ湊村ニ葬ル
弘化三年周慶ノ孫某其祠ヲ建テ向良明神ト云フ里俗之ヲ砂糖神ト稱ス明治三年改
メテ祖靈社ト云ヒ同十三年官金ヲ賜ヒ周慶ヲ追賞セラレ同十九年祠宇ヲ今ノ處ニ
移シ向山神社ト改稱ス周慶故宅ノ西方ニ老櫻一株アリ周慶ノ遺愛ニ係ル蓋此櫻花
爛漫タルノ候ハ甘蔗ヲ移植スル最良ノ時アルヲ以テ櫻ハ一種ノ驗候機タリト云フ

久米榮左衛門

榮左衛門諱ハ通賢大内郡馬篠村（大川郡馬篠村）ニ生ル家世能師ニシテ農業ヲ兼ヌ幼ヨリ天文
地理ノ學ヲ勉メ尤測量ノ術ニ精シ常ニ國ヲ富シ武備ヲ强クセントスルノ志アリ高
松藩主松平頼恕之ヲ擢テ士籍ニ列ス曾テ和蘭法ニ據リ砲銃ヲ製シ火繩ヲ用ヒスシ
テ鋼輪ノ機轉ヲ用ユ又地雷火水雷火等ヲ發明ス文政年間藩命ヲ受ケ坂出村（綾歌郡坂出町）ニ
擬田ヲ開クヤ毎日辰ヨリ申ニ至ル徒跣奔走役夫ヲ驅使シ速ニ其功ヲ奏セリ又木
牛流馬ノ製ニ倣ヒ數十石ノ水ヲ數丈ノ高キニ上スコトヲ考ヘ又或ハ種々ノ玩器ヲ
製造シ見ルモノヲシテ皆驚嘆セシム天保十一年雷管製ノ鳥銃及野戰砲ノ一人ニシ
テ左右スヘキモノヲ造リ之ヲ藩主ニ献ス蓋亦平賀源内ノ風ヲ聞テ起ル者カ

竹石名ハ長徽字ハ琴翁竹石ハ其號ナリ高松ノ人性卓落不羈客ヲ愛シ施ヲ好ム壯時
黄陵ト號シ已ニ善畫ノ名アリ然レトモ技ヲ賣リ能ヲ鬻クノ徒ニアラス故ニ已ノ欲セ
サル時ハ主公貴人ノ需ト雖モ之ニ應セス時或ハ筆硯ヲ焚クニ至ル蓋筆硯ノ爲メ形
骸ヲ役セラルヽヲ厭フナリ初陳南顚ヲ學ヒ後藍田叔ニ倣ヒ山水花卉最モ其妙ヲ極
メ氣韻雄拔其人ト爲リニ似タリ高松藩主松平頼儀ノ知遇ヲ受ケ享和三年扈從シテ
江戸ニ抵リ居ルコト二年天下ノ名士ト交リ名聲大ニ揚ル增山雪齋三浦南鳳子大窪
詩佛菊池五山野呂介石釗雲泉柴野栗山等ト斷金ノ交アリ性酒ヲ嗜ミ一飲三斗醉ヘ
ハ則琴ヲ彈シ以テ情ヲ遣ル文化三年八月歿ス享年五十

中條勝次郎

勝次郎諱ハ澄友字ハ思行龍山ト號ス阿野郡（綾歌郡）林田村ニ生ル幼ニシテ學ヲ好ミ能
敏詳ヲ拔ク十二三歳ニシテ白文ノ書ヲ講說ス長シテ天文律曆推步ノ術ヲ兼修シ又
影流ノ劍術及無相流ノ拳法ヲ學ヒ皆其蘊奥ヲ極ム已ニシテ世ノ拳法ハ之ヲ平常ノ
衣服ニ施スヘクモ甲冑ニ施ス可ラサルヲ慨トシ深思默慮大ニ悟ル所アリ無相新柔
術ナルモノヲ創ム高松藩其文武ノ才アルヲ嘉シ擢ンテ士籍ニ列シ俸祿ヲ給シ小
寄合ニ班ス四方翕然トシテ從游スルモノ數百人規條ヲ設ケ日課ヲ立テ文武各其才

ニ依テ之ヲ教導ス居常人ニ謂ツテ曰ク武事ヲ修ムルハ其義心ヲ助クル所以ナリ武ニシテ義ナケレハ徒ニ子弟ヲ暴スルノミト故ニ德行ヲ先キニシ技藝ヲ後ニス名聲大ニ揚ル弘化三年病テ沒ス享年四十七

編者云ク凡ソ角アルモノハ牙ナク翼アルモノハ蹄ナシ天理ノ乘除此如シ蓋當國ノ如キハ古今武技ヲ以テ名聲ヲ揚ルモノハ或ハ其人ナキニアラサルモ特ニ文藝ニ卓越シ名ヲ四方ニ耀スモノ指ヲ屈スルニ遑アラス亦是天ノ乘除然ルナランカ

川崎舍竹郎

竹郎諱ハ充實字ハ士輝竹郎ハ其通稱ナリ高松商家中ノ名族ニシテ天性義俠心ニ富ノリ高松藩ノ西洋兵式ヲ用ルニ當リ首トシテ洋式ノ大小砲ヲ求メ之ヲ松平氏ニ献シ又冶工ヲ自家ニ引キ盛ンニ洋式大小砲ヲ鑄造シ以テ藩ノ軍備ヲ助ク曾テ元治元年十二月小銃百挺ヲ藩主ニ献シ其他貧ヲ救ヒ學ヲ勸メ上下ニ裨益アル枚擧ニ遑アラス明治維新ノ際ヨリ平常洋服ヲ着ケ自轉車ニ乘リ朝夕奔走ス香川縣ノ創立スルヤ首トシテ金七百圓及毎歲米五石ヲ献シ以テ學校病院等ノ資本ニ充テラレンコトヲ請フ官之ヲ賞シ銀盃一重ヲ賜フ明治十二年三月病テ歿ス享年五十八

中桐文炳

文炳ハ小豆郡草壁村ノ人ニシテ家世醫ヲ業トス土人呼テ御殿醫ト云フ蓋諸侯侍醫ノ稱ナリ其德望ノ高キト學術ニ長シタルヲ以テナラン曾テ種痘ノ人世ニ有益ナルヲ聞キ嘉永ノ初奮然長崎ニ往キ其接種ノ法ヲ學ヒ且痘苗ヲ得テ家ニ歸リ先ツ之ヲ村内ニ播種シ以テ其普及ヲ謀レリ是本縣種痘ノ創始ナリト云フ明治十年八月十九日沒ス享年七十四

奈良專二

專二ハ木田郡平井村ノ人ナリ資性德實ニシテ公義ヲ重ンシ敢テ聞達ヲ求メス一意力ヲ農事ノ改良ニ盡セリ夙ニ一本稻ヲ選ヒ之ヲ試作シ其有益ナルコトヲ發見ス遠近其利ヲ知リ世遂ニ之ヲ奈良稻ト稱スルニ至ル曾テ碎塊器ヲ創製シ甘蔗壓搾法ヲ改良ス皆其人力ヲ省ク少シトセス明治十年ノ夏偶東京ニ在リ時青森縣下大ニ螟害アリ或人之ヲ專二ニ謀ル曰ク螟蟲ノ蕃殖ヲ憂ヘヘ宜シク石炭油ヲ秧田ニ灌クヘシ又螟蟲ヲ誘殺セント欲セハ燈火ヲ田間ニ點スヘシ又秧ハ勉テ之ヲ成長セシメ其莖ヲシテ硬カラシメハ以テ掃秧ノ後自カラ螟害ヲ防クヘシト其說皆多年ノ經驗ニ出タルモノナレハ大ニ利益ヲ興ヘタリ同十七年ノ春六月日本農會第三回大集會ヲ東京ニ開クニ當リ其席上ニ於テ多年ノ經驗ヲ演說シ且紫菜ノ有益ナルコトヲ稱シ來會

者ト其利ヲ興ニセントト謀ル其語氣ノ着實ナルヲ以テ會衆ヲシテ大ニ感動セシム是ヨリ三田育種場ニ在テ洋種蔬菜ノ栽培ヲ實習スル日夜勉勵大ニ得ル所アリ乃チ農業得益辨ノ一書ヲ著ス同十八年千葉縣知事ノ聘スル所トナリ大ニ農事ヲ改良ス爾來同縣產米ノ博覽會共進會等ニ於テ毎ニ優等ノ褒賞ヲ得ルモノハ與カッテ力アリト云フヘシ同二十一年新撰米改良法慈圃栽培調理法等ノ著アリ同二十二年四月大日本農會々頭殿下ノ台命ヲ奉シ新潟縣下同支會ノ大會ニ臨ミ北越ノ農事ニ就キ大ニ意見ヲ陳述シ且食用兎飼養法ヲ著ス同二十三年茴蘭栽培調理法ノ著アリ同年秋田縣有志者ノ聘スル所トナリ大ニ農事ヲ改良ス是ヨリ先キ秋田地方ノ習慣ヲ以テ米穀ヲ常食トシ雜穀ヲ食ハサルヲ憂ヘ雜穀ヲ耕種シテ米穀ヲ貯蓄スヘキコトヲ說キ又甘藷落花生ノ栽培ヲ勸誘シ皆好結果ヲ得タリ同二十五年四月病ニ罹リ五月四日羽後國仙北郡花館村ニ歿ス享年七十一其將ニ瞑目セントスル數時間前ニアッテ官祿授褒章ヲ賜フ死シテ餘榮アリト謂フヘシ

長谷川佐太郎

佐太郎ハ仲多度郡榎井村ノ人ニシテ天性義氣ニ富ミ夙ニ日柳燕石等ト尊王ノ大義ヲ唱ヘ廣ク天下ノ志士ト交リ王政復古ノ大業ヲ助ケシヲ以テ正七位ニ叙セラル是ヨリ先キ同郡滿濃池安政元年堤防潰決シ人家流失數十村ノ良田忽チ荒蕪ス爾來十數年ノ間年トシテ旱損ヲ蒙ラサルナク居民其堵ニ安ンスル能ハス佐太郎慨然トシテ堤防再築ノ議ヲ主張ス明治元年三月自ラ京都ニ到リ辨事傳達所ニ歎願ス然レモ當時國事多難ノ際ヲ以テ省セラレサルモ尙屢居民ノ疾苦ヲ訴ヘシカ同年十月大政官ヨリ高松丸亀多度津ノ三藩及其關係アル倉敷縣ヘ速ニ修築スヘキ旨ヲ達セラレタリ然レモ封建ノ餘習未タ脫セサルヲ以テ藩縣各其意見ヲ異ニシ徒ラニ時日ヲ遲延ス居民之ヲ憤リ殆ント竹槍席旗ノ暴舉ニ及ハントス佐太郎之ヲ慨歎シ日夜其間ニ斡旋シ漸ク鎭定ノ功ヲ奏ス是ニ於テ三藩一縣亦議論一定シ同二年八月始テ其工事ヲ起シ同三年六月竣功ヲ告ケ瘠土忽チ良田ト化シ居民皷腹擊壤ノ樂ヲ享クルニ至ル抑佐太郎ハ家世豪富ナリシカ維新ノ際國事ニ費シ且此工事ノ爲メ產業ヲ傾ケ一貧洗フカ如キニ至レリ恩惠ヲ受クル土民皆其功勞ヲ感セサルナシ是ヲ以テ水利組合ヨリ年々金五拾圓ヲ贈與シテ聊報勞ノ意ヲ表シ又其古稀ノ齡ニ達スル時有志者相謀リ盛ンニ祝宴ヲ張レリト云フ官其公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナルヲ嘉シ同二十九年十一月十四日藍綬褒章ヲ賜ヒ別賜スルニ金五拾圓ヲ以テス

直吉諱ハ茂直寒川郡宮西村（大川郡造田村）ニ生ル處士茂一郎ノ第二子ニシテ母ハ脇屋氏直吉七歳ノ時父ニ從フテ志度村（志度町）ニ移居ス幼ヨリ算術ヲ學ビ成畫ニシテ已ニ數理ヲ解得シ自カラ自鳴鐘ヲ製セリ弱冠高松南紺屋町ニ移リ藩ノ公族松平左近ノ命ヲ以テ四季自鳴鐘ヲ作ル觀ルモノ歎賞セサルナシ安政以降諸藩競フテ洋式砲術ヲ學ブモノ多シ時高島四郎大夫ノ門人麾下ノ士江川太郎左衛門幕府ノ命ヲ以テ高島流砲術ヲ教授ス高松藩直吉ヲ招ンテ就テ學ハシム夙夜勉强數年一日ノ如シ終ニ大ニ其術ヲ得ルヲ以テ江川氏直吉ヲシテ師範代タラシム文久二年業成リ將ニ藩ニ歸ラントス幕府窃ニ之ヲ徵サントス彦根藩モ亦祿三百石ヲ以テ之ヲ聘セントスルモ直吉本藩ノ三人口俸ニ甘ンシ並ニ之ヲ謝絶ス是ヨリ藩ニ歸リ高島流砲術ヲ教授ス同三年登庸シテ俸祿ヲ加賜ス慶應三年一藩ノ軍制ヲ一變シ藩士擧テ門人タリ是ヨリ先キ高知宇和島大洲丸龜多度津ノ諸藩士來リ學フ者多シ其螺旋砲ヲ鑄造シ蒸滊船ヲ摸形スル皆手自ラ之ヲ製造ス其巧密奇巧歐米人ヲ凌駕スト謂フヘシ大政維新後民部省ニ徵サレシカ明治四年正月辭シテ國ニ歸リ厚生利用ノ諸器械ヲ製シ以テ娛樂トス同二十五年七月病テ沒ス享年七十三

大久保諱之亟

諱之亟ハ三野郡（三豊郡）財田村ノ人ナリ常ニ濟貧興學育樹養蠶等ノ爲メ金員ヲ義捐スルコト少ナカラス特ニ明治十七年ヨリ四國新道開鑿ノコトヲ主唱シ高知德島兩縣ノ有志者ヲ鼓舞勸奬シ終ニ其功ヲ奏スルコトヲ得タリ

同十九年二月ヨリ那珂郡長豐田元良ト謀リ貧民ヲ奬勵シ北海道ニ移住セシムルモノ七十餘戸其旅費ノ缺乏スルモノアレハ私財ヲ抛テ之ニ給シ又縣知事ニ依頼シ北海道廳ニ照會シ其便法ヲ謀ル等一ニシテ足ラス其他公共ノ事業ニ率先シ社會ノ公益ヲ勉ムルモノ枚擧ニ遑アラス同二十四年十三月ノ本縣通常縣會ニ列シ討議中俄然病ヲ發シ終ニ起タス人皆之ヲ惜ム同二十五年九月三十日官其功績ヲ追賞シ銀盃壹箇ヲ賜フ

循吏

西岡與兵衛

與兵衛ハ高松藩士ニシテ西部ノ郡奉行タリ其治績頗ル擧ル一日執政堀某招ヲ之ニ觴シテ曰ク今茲年饑テ用度足ラス卿ノ盡力ヲ以テ常賦闕クナキヲ得タリ卿ノ勞想フヘシ請一醉シテ其勞ヲ忘レヨト言未タ畢ラサルニ左右ノモノ鴨羹ヲ捧テ出ツ與

兵衛席ヲ避ケテ曰ク若シ燕好ヲ以テ一盃ヲ賜ハヽ某何ソ之ヲ辞セン賦ヲ徴スルノ勢ヲ以テスレハ敢テセス抑今歳誅求スル所ハ盡ク百姓ノ膏血ナリ然ラハ此盛饌ハ百姓ノ膏血ヲ見ルカ如シ焉ソ咽喉ヲ下ルヲ得ンヤト之ヲ推シ斥ケテ帰ル是レヨリ先キ一富人アリ綿花ヲ搗センコトヲ請フ興兵衛曰ク若シ之ヲ聽ルサハ民必ス叛カント然レ𪜈藩議終ニ之ヲ許ス果シテ民庶群起シ城市ニ迫リ其富人ノ家ヲ圍ミ柱ヲ砕キ壁ヲ倒シ家什帳簿ヲ紛乱破棄シテ餘ス所ナシ藩武威ヲ以テ之ヲ驅逐セントス民庶益奮激シ其勢近ク可カラス是ニ於テ興兵衛ニ命シ之ヲ鎮撫セシメントス興兵衛曰ク某既已ニ之ヲ謂フ今ニ及ンテ如何トモスヘカラス然リト雖𪜈職ヲ奉シテ此ニアリ請フ之ニ死セント家奴ヲシテ燈ヲ張リ槍ヲ荷ハシメ肅然トシテ之ニ赴ク衆其燈ヲ徽章ヲ識リ路ヲ避ケ敬トシテ聲ヲ成サス興兵衛直チニ富人ノ家ニ入リ色ヲ勵マシテ曰ク凡下情ヲ上達セントスルモノハ自ラ順序アリ今此ノ如ク蜂起蟻集スルハ悖逆ナリ大不敬ナリ若シ速ニ散セサレハ我ニ一剣アリ臂力アル限リ一人タモ生キテ還サスト刀欄ヲ按シテ起ツ民庶潰散シ街上幾影ヲ留メスト云フ

壺井六五郎

六五郎諱ハ忠弘肅山ト號ス山田郡西十川村（木田郡十河村）ノ人ナリ天明六年四月改所（里正ナリ一村ヲ管ス）ニ擧ケラル同年七月大改所（大里正ナリ一郡ヲ管ス）ニ擧ケラル後土木ノ事ヲ兼務ス其大改所タルヤ同七年正月民ニ諭シ松樹ヲ蔚カ尾山ニ植シメ後之ヲ伐賣シテ鏗宇八幡宮ニ祭田ヲ寄附セシム寛政五年菅澤村（今東植田村ニ屬ス）ノ貞嬬初女ノ墓碑ヲ建設シ更ニ若干ノ田畝ト山林トヲ其遺子多次郎ニ與ヘ其追福ノ料ニ充テシム同七年同村ハ人民木炭ヲ製スルヲ以テ業トスルモノ居多ナリシカ毎年藩之ニ木炭六十三石ノ價ヲ賦課スルヲ例トセリ然ルニ天明以降山林荒廢シ自カラ其材料ニ乏シクシテ製炭ノ數ヲ減スレハ民皆此賦課ニ苦ム六五郎乃チ藩ニ請ヒ私財ヲ以テ之ヲ償フコト享和二年ニ至マテ凡八回村民亦之カ爲メニ議シテ毎歳課銀ノ半ヲ貯ヘ遂ニ田高四石五斗八升山林一町六反ヲ買ヒ以テ其資ニ充ツレハ終ニ賦課ノ患ヲ免ルヽニ至ル又同村ノ民仁左衛門其田荒蕪シテ納租ニ苦シム六五郎藩ニ請フテ之ヲ償フ藩亦其田ヲ檢シ其租ヲ減シ或ハ改テ山林トス又西植田村神内池ハ寛永年間築ク所ナリシカ爾來年ヲ逐テ新田ノ開墾多ク自ラ水利ニ乏シケレハ六五郎又建議シ其池ヲ増築ス工成ルニ及テ水深サ二尺四寸ヲ加フ又木太村詰田川ニ架スル橋ハ從來橋柱ノ間狹隘ニシテ舟ヲ入ルコト能ハス寛政十二年之ヲ改造スルニ及ヒ舟楫ノ利始テ通ス又是年大ニ飢ユ六五郎土工ヲ起シ苟モ一賃ノ功ヲ爲スモノハ男女老幼ヲ問ハス皆之ヲ使用シ其糧ヲ得

セシム猶且貧者ヲ扶助シ佛閣ヲ修理スル終始一徹ナルヲ以テ藩之ヲ士籍ニ列シ俸祿ヲ給ス文政十年閏六月病テ沒ス享年七十九

寛速水

速水諱ハ政典字ハ子則玩翠ト號ス高松藩ノ世臣ナリ資性明敏技文武ヲ兼ネ特ニ風流ヲ好ム文政五年參政ヲ以テ江戸藩邸ニ徙リ居ルコト四年ニシテ執政ト爲リ國ニ歸リ木村亘ト與ニ力ヲ財務ニ盡スモノ一ニシテ足ラス且勘定奉行日下義左衛門等ト謀リ從來發行スル所ノ藩幣ヲ增額シ糖業ノ資本ニ充テ船中爲替別段爲替等ノ名稱ヲ以テ藩幣ヲ農民ニ貸付シ其製糖ヲ大阪ニ輸出シ得ル所ノ眞貨ヲ以テ藩廳ニ返納セシム是ヨリ糖業大ニ起リ向ニ藩幣ヲ增發スル四萬兩ヲ定額トスルモ糖業ノ盛大ナルニ隨ヒ七八拾萬兩ノ贏金ヲ得タリ故ニ物產以外ニ於テ藩幣ヲ眞貨ニ交換スルノ際別ニ一大富源ヲ開ク等皆其心計ニ出ツルモノトス天保八年八月十七日病テ沒ス享年五十三

木村亘

亘諱ハ通明小字ハ熊次郎老後默老ト稱ス幼時書ヲ藩學ニ學ヒ每試甲科ニ上ル高松藩ノ世臣ナリ藩主之ヲ近侍トシ遂ニ國老ト爲シ委スルニ會計ヲ以テス是時ニ當テ藩國財政振ハス殆ント支フ可カラス亘經營備ニ至リ同僚寛速水ト相謀リ坂出ノ鹽田ヲ開キ永富ノ坡池ヲ修シ砂糖爲替ノ法ヲ立テ十數年ノ後府庫充實ス亘學和漢ヲ兼ネ殊ニ繪畫ヲ能クス其江戸藩邸ニ在ル曲亭馬琴ト莫逆ノ交ヲ結ヒ朝夕往來殆ント虛日ナシト云フ嘗テ藩所藩士平井兄弟ノ讎ヲ當國阿野郡綾歌郡羽床村ニ復スルヤ村吏臨檢書ヲ藩廳ニ致ス僚屬之ヲ視テ曰ク人ヲ殺シ咽喉ヲ刺サス是恐ラクハ武道ヲ解セサルモノト既ニシテ其書ヲ執政ニ出ス亘一閱シテ曰ク平井氏學フ所ノ劍術ハ必ス蔭流ナランカト屬吏何ノ謂タルヲ解セス陰ニ人ヲ馳セテ之ヲ劍術師某氏ニ質ス曰ク屍ノ耳後ニ疵一所トアルハ是蔭流ノ秘法ナリト是ニ於テ其劍法亦蘊奧ヲ究ムルニ服ス安政三年十二月病テ歿ス享年七十著ス所隨聞記膽本一百卷アリ

尾崎理左衛門

理左衛門諱ハ正漸字ハ伯鴻車舟ト號ス丸龜藩士ナリ幼ニシテ頴悟學經史ヲ兼ネ傍ラ詩文ヲ好ム十二歲ニシテ父ノ蔭祿ヲ襲ヒ官ニ在ル凡六十餘年勘定奉行寺社奉行等ニ累遷ス明治元年大政維新ニ際シ藩政ニ參與シ功勞頗ル多シ同三年病ヲ以テ職ヲ辭ス理左衛門外寛ニシテ內明ニ疾言遽色セス人ニ接スル謙讓事ヲ謀ル周密國是ヲ論シ建白スルモノ前後數十回人ト爲リ强記絕倫自ラ處理スル所ノ簿書其年月事

實一度目ヲ經ルレハ終身之ヲ忘レス才ヲ愛シ人ヲ薦ムルヲ已レノ任トシ聊カ德色ナシ明治三年七月二十七日歿ス享年七十八

大塚八郎左衛門

八郎左衛門晩ニ夢鶴齊ト稱ス諱ハ長敏字ハ修甫梅里ト號ス九龜藩士安達正智ノ二子ナリ出テ大塚長平ノ養フ所ト爲ル幼ヨリ學ヲ好ミ藩學正明館ニ入リ經史ヲ學ヒ餘暇時文ヲ弄ス藩主ノ近侍正明館助教使番物頭二丸番士頭旗頭郡奉行新番頭寺社奉行勘定奉行等ニ歷仕ス時ニ藩ノ用度窮蹙スルニ際シ錢穀出納ノ事ヲ整理シ頗ル功績アリ又別ニ西歷府志編纂ノ事ニ幹タルコト十數年先輩岩村南里加藤梅崖ノ遺志ヲ繼述シ以テ其業ヲ卒フ後表用人ニ進ミ職ニ在ル四十餘年ニシテ致仕ス大政維新ニ際シ再ヒ擢ラレテ藩政改革用係兼會計事務總裁ト爲リ更ニ參政ト爲ル明治二年九龜藩大參事ニ任セラル同三年藩制釐革緒ニ就クヲ以テ職ヲ辭ス同八年九月十三日病テ沒ス享年七十三

武勇

三谷彌七

彌七ハ山田郡（木田郡）三谷ノ城主ナリ善射ヲ以テ賞セラル永享中京師ニ在リ時禁內妖アリ公卿之ヲ議シ仁平中源頼政ノ例ニ依リ善射ノ者ヲ募ル彌七其選ニ膺リ乃チ紫宸殿ノ階下ニ坐シテ之ヲ待ツ夜半ニ至リ異鳥果シテ寢殿ノ上ニ來リ鳴ク彌七神明ヲ念シ之ヲ射ル一箭ニシテ即地上ニ墜ツ明日彌七ヲ召シ兵庫頭ニ任セラル

池內孫五郎高敬及主殿助高晴

高敬ハ十河十郎吉保ノ第三子ナリ香東郡（香川郡）池內ノ城ニ居ル故ニ池內ヲ以テ氏トス曆應三年細川刑部大輔頼房金谷修理大夫經氏ト伊豫ノ千町原ニ戰フ高敬先登シ首數級ヲ獲タリ其五世ノ孫ヲ主殿助高晴ト云フ天正十一年土佐ノ兵十河ノ城（木田郡十河村）西尼城ヲ攻ム其城門ヲ守リ數々土佐ノ兵ヲ却ク

植松四郎

四郎ハ香西左近將監元綱ノ第四子ニシテ射術ヲ能ス嘗テ阿野郡新居村（綾歌郡端岡村）ニ居リ的ヲ原引ノ里ニ建テ之ヲ射ル其間相距ル八町其矢的ヲ超テ落ツ乃チ矢塚ヲ建ツ此塚寛永年間マテ存セシカ後田夫ノ毀ツ所トナレリ四郎嘗テ夜行ス忽チ空中聲アリケレハ四郎即チ弓ヲ執テ之ヲ射ル其聲忽チ止ム一日人ニ語テ曰ク空中ノ妖ハ必ス地中ニ蟄シ地上ノ妖ハ必ス空中ニ住ム者トス之ヲ覘テ之ヲ射ルトキハ中ラサルナ

シト云フ

眞部五郎祐主

往昔山田郡（木田郡）木太村ニ眞部五郎ナル者アリ元暦一ノ谷ノ役生田ノ塞ヲ守リ能ク敵ヲ防クト云フ其子孫世々五郎ヲ以テ稱トス元龜天正ノ際五郎祐主ナル者アリ香西氏ノ麾下ニ屬シ頗ル勇名アリ殊ニ劍術ヲ善クス其又ヲ拔クヤ甚敏捷ナリ嘗テ夜ル郊野ヲ過ク鳴アリ脚下ヨリ起ツ即チ劍ヲ拔テ之ヲ斬ル或問フテ曰ク何ヲ爲シテ此ノ如ク敏捷ナルヤ祐主曰ク其技ニ熟スレハ無心ニシテ此ニ至ル敢テ有心ヲ以テスヘカラスト

曲垣平九郎

平九郎諱ハ盛澄調馬ノ名手ナリ生駒高俊ニ仕フ訖訥ニシテ飲酒ヲ嗜ム寛永十一年正月將軍德川秀忠芝ノ廟ニ參シ歸途愛宕山下ヲ過キ騎シテ山上ノ梅花ヲ折リ來ル者ヲ募ル旗下ノ士二三人其募ニ應スル者アルモ皆石磴ヲ登ルコト少許ニシテ落馬ス平九郎生駒氏ニ隨テ其屬從中ニアリ命ヲ受ケテ石磴ヲ上下スルコト平地ヲ行クカ如シ將軍其技ヲ賞シ時服一襲黃金三枚ヲ賜フ同十七年生駒氏國除カル後平九郎漂泊シテ尾張名古屋ニアリテ其藩ノ馬丁タリ時ニ悍馬鬼鹿毛ナルモノアリ屢人ヲ咬ム平九郎之ヲ狎ラシテ藩主ノ職ル所トナリ終ニ登庸セラレ祿九百石ヲ給セラル

宥遍

宥遍ノ先ハ高木隼人信好ニ出ツ信好ハ細川勝元ニ仕ヘ應仁中駿功アリ邑ヲ鵜足郡（綾歌郡）坂本郷ニ食ム其子ヲ左兵衛信武ト云ヒ其子ヲ但馬介好政ト云フ大永年間邑ヲ失ヒ退テ宇多津（宇多津町）ニ居レリ數世ノ後高木孫兵衛ナルモノアリ生駒氏ニ仕フ弟與左衛門亦生駒氏ニ事ヘ祿三百石ヲ受ク子二人アリ其長子僧ト爲ル宥遍是ナリ解行兼有ヲ以テ世ニ名アリ嘗テ後水尾天皇袈裟ヲ賜フコトアリ後高野山淨菩提院ニ住シ高松ノ無量壽院及弘憲寺ヲ攝ス天性勇力アリ嘗テ東都ニ之ク路ニ剽客ニ逢フ路傍ノ大樹ヲ拔キ之ヲ擠ス剽客轉倒シテ逃ル又一日高松藩士堀田某ノ家ニ赴ク其家大石ノ盥盤ヲ買フ役夫十數人力ヲ竭シ漸ク之ヲ階前ニ置キシカ少シク仄ツモ之ヲ動スコト能ハス宥遍即チ衣ヲ攝ケ之ヲ弄ヒ一滴ノ水ヲ滅セスシテ之ヲ安ンス見ルモノ舌ヲ卷キテ歎賞ス又平生玩弄スル所ノ大石今現ニ弘憲寺中ニアリト云フ

奥村無我

無我諱ハ重舊字ハ無我權左衛門ト稱ス曾祖滋柏市内浮田直家ニ仕ヘ備前八濱ノ戰父子皆死ス祖父九平次氏ヲ改テ奥村ト云フ播磨侯源利隆ニ仕ヘ臣タルコトヲ致シ

去テ作州ニ之ク父諱ハ正吉備前侯源光政ニ仕フ二子ヲ生ム無我ハ其第二子ナリ容貌魁偉蓬頭突鬢少フシテ撃劍ヲ好ミ技成テ近傍諸國ニ客游ス士人爭フテ之ヲ師トス自以爲ラク已レニ若クモノナシト偶田神無外ナルモノ江戸ヨリ來テ備中ニ游フ無我時ニ作州ニアリ之ヲ聞テ袂ヲ振フテ起ツ兩甚シ往テ相擊ツ其技敵ス可ラス終ニ節ヲ屈シ弟子ト爲リ爾來遍ク關西諸國ヲ巡游シ頗ル得ル所アリ其術ハ常州筑波山東軍寺ノ僧ヨリ出ツ因テ東軍流ト云フ無我ニ從フテ學フ者五百餘人其中ニ在テ巨擘ト稱スルモノ播磨赤穗ノ老臣大石良雄及大石信清潮田高敎等アリ元祿十三年高松藩主松平頼常ニ仕ヘ享保十九年五月十七日病テ歿ス享年七十六

良工

高篠三郎大夫

三郎大夫諱ハ清房佐渡守ト稱ス建保ノ頃刀劍ヲ造ルヲ以テ名アリ那珂郡（仲多度郡）高篠ニ住ス後世子孫高市（高市ハ甲知ニ國甘相通ス甲知ハ綾歌郡州中村ノ古稱ナリ）又志度（大川郡志度町）又香川郡ニ住シ刀劍ヲ造ルモノ多シ

紀太理兵衛

紀太氏ノ先ハ江州信樂ノ人森島某ヨリ出ツ慶長年間森島半弥ナル者德川家康ニ屬シ祿千三百石ヲ食ム大阪ノ役平ヒテ後故アリ故郷ニ閑居ス當時明ノ亡民雲林浣ト云フモノ信樂ニ在テ陶器ノ製造ヲ業トス半弥之ヲ師トシ其術ヲ受ク其子作兵衛京都粟田口ニ移居シ父ノ業ヲ繼キシカ高松藩主松平頼重幼時京師艦艦ニアッテ屢作兵衛ニ陶器ノ製造ヲ囑セシ緣故ヲ以テ頼重封ニ當國ニ就クニ及ンテ慶安二年之ヲ招キ切米十五石ヲ給シ姓名ヲ紀太理兵衛ト改メシム後三世理兵衛ノ稱ヲ襲用セシヲ以テ世人初世ヲ古理兵衛ト云フ爾來二百餘年松平氏ニ仕ヘ陶器製造ノ業ニ食ミシカ廢藩ノ後給米ヲ失フ然レ𪜈十代ノ孫理平陶窯ヲ粟林公園内ニ築キ其筑裘ヲ繼キシカ既ニ亡シ其子某現今京都ニ往キ其業ヲ學フト云フ

鷹見周吉

寛延寶曆ノ頃鷹見周吉ナルモノアリ頗ル彫刻ヲ能クス高松藩主松平頼恭嘗テ命シテ刀架ニ千鶴ヲ鏤セシム周吉乃チ鵜足郡上法軍寺村（綾歌郡法勳寺村）ノ野ニ往キ饑寒ヲ忘レ旬日ノ間野鶴ノ翔啄スルヲ熟視シ始テ之ヲ作ルト云フ其刻苦精勵概ネ是類ナリ然シテ妙技ヲ斗米ニ鬻クヲ耻チ遂ニ國ヲ去テ其終ル所ヲ知ラス

玉楮象谷及藤川黑齋

象谷諱ハ爲參字ハ子成敬造ト稱ス象谷ハ其號ナリ高松ニ生ル家世刀鞘ヲ塗リ且漆ヲ賣ルヲ業トス象谷ニ至リ頗ル彫刻ヲ能クス其還刀ノ妙一見シテ漢人ト辨別スルコト能ハス特ニ宋代ノ堆朱堆黑及明人張成存星ノ籃骨漆法ヲ究メ且本朝鎌倉風ノ木地彫ヲ爲ス天保十年象牙方一寸ノ材ヲ得テ荷葉五十五荷花三十大湖石二龜三百四十三蟹四百三十三蛙四十蝸牛二十七蜻蜓二十四蟬九蜂四蜆十八蝦蟹五雀十九鷺七翡翠十鵲領一鷺三ヲ刻シ之ヲ藩主松平頼恕ニ献ス是ヨリ名聲海内ニ遍シ其後藩主松平頼胤ノ命ヲ以テ堆朱ノ數箱ヲ製ス最モ精彩巧緻ヲ窮ム乃チ擢ンテ、士籍ニ列ス嘗テ餘技ヲ以テ漆硯ヲ作リ之ヲ清人錢少虎ニ贈ル少虎賞賛シテ措カスト云フ象谷弟アリ舜造ト稱シ文綺堂黑齋ト號ス藤川ヲ氏トシ別ニ門ヲ立テ存星茹藷法ヲ以テ專業トス亦頗ル名アリ象谷ハ明治二年二月病テ沒ス子四アリ藏黑ト云ヒ拳石ト云ヒ雪堂ト云ヒ藤樹ト云フ皆各髹漆彫刻ヲ能クス就中拳石最モ彫刻ノ技ニ精シ

名勝古跡

大川郡

馬宿　相生村ノ小字ナリ土人ノ口碑ニ依レハ源義經阿波國ヨリ當國屋島ヘ向ヒシ時此地ニ人馬ヲ憩ハシム故ニ此名アリ

黑羽城　同村ニアリ永盡因幡守氏權之ニ居ル細川勝元ニ屬シ應仁元年十月安富元綱ト與ニ京師相國寺ノ戰ニ死ス

西光寺　眞宗同村ニアリ永祿元年八月岩佐道顯ナルモノ三好義賢ト戰ヒ此地ニ戰死ス後其弟道明遁世シ一宇ヲ此地ニ草創シ脊戸坊ト云フ元和三年僧正泉再興シ今ノ寺號ニ改ム

海藏庵　眞言宗同村ニアリ開基詳カナラス天祿年中多田滿仲寺領ヲ寄附シ伽藍ヲ再興シ法相宗ヲ今ノ宗ニ改ムト云フ天正年間兵火ニ罹リシヲ後又之ヲ再興ス

引田城　引田村ニアリ永正年間四宮右近ナルモノ信濃國ヨリ來リ寒川丹後ノ麾下ニ屬シ此城ニ居レリ後阿波ノ三好氏矢野駿河守ヲシテ之ヲ守ラシム天正年間長曾我部元親ノ屬將美馬藏人ノ爲メニ殺サレ是ヨリ城主ナカリシカ仙石秀久其臣森九郎左衛門ヲシテ之レニ據ラシム同十二年七月城終ニ陷ル同十五年生駒近規就封ノ當時此城ニ居リシカ幾許ナラスシテ宇多津城（綾歌郡宇多津町）ニ移レリ

萬生寺　眞言宗同村ニアリ當初四宮上總介利之ナルモノ一小堂ヲ建立シ不動ノ像ヲ安置セシカ後出家シテ瑞也ト改名シ文祿四年堂宇ヲ創立ス

積善坊　眞言宗同村ニアリ天平年間僧行基ノ創立ナリ天文元年修造ヲ加フ元地藏寺ト稱セシカ高松藩主松平頼重今ノ號ニ改ム

森權平墓　引田松原両村間ノ路傍ニアリ天正十二年七月長曾我部元親阿波ヨリ大窪越ヲ經テ十河存保ヲ虎丸城ニ圍ミシ時兵ヲ分ツテ引田ノ城ヲ攻ム仙石秀久伏兵ヲ設ケ元親ノ先鋒ヲ敗ル是ニ於テ元親麾下ノ兵ヲ率ヒ來リ進ム權平殿戰シテ之ニ死ス村民之ヲ此ニ葬ル權平姓森氏秀久其姓ヲ與ヘ仙石權平ト稱ス時年十八法諡ヲ月山宗薫居士ト云フ

安戸池　引田村ニアリ父老ノ傳說ニ往古ハ溜池ニシテ海濱ヲ距ル數丁ナリシカ後洪水ノ爲メ中間ノ田畑流失シ今海濱ニ接續シ潮汐相通セリ此池毎年初春鰕漁甚タ多シ

袖懸明神　同村字安戸ニアリ往古此地ハ寺尾百坊ト稱スル大伽藍ナリシカ天正年間兵火ニ罹リ其鎭守タル此社ノミヲ存スト云フ

白鳥神社　松原村ニアリ祭神日本武尊ニシテ両道入姫弟橘姫ヲ配祀ス社記ニ曰ク景行天皇四十一年靈鶴アリ大内郡大川郡三里ノ松原ニ止ル國民祠ヲ建テ之ヲ祀ル仁德天皇勅シテ神池ヲ鑿チ神籠ヲ建テシム中古當國ノ棄族香西羽床二氏祖神トシ弓矢ノ神ト稱ス高松藩主松平頼重ノ封ニ就クヤ寛文五年祠殿ヲ建築シ祭儀ヲ整ヘ翟地ヲ寄附シ頗ル莊嚴ヲ極メ靈威ヲ顯揚ス明治五年十一月縣社ニ列セラル本社前ハ南山ニ對シ後ハ北海ヲ負ヒ神地東西二百八十歩南北二十歩ニシテ翠松林立白砂ト相映帶ス是所謂三里ノ松原是ナリ

千光寺　眞言宗同村ニアリ創立詳カナラス元龜二年南都衆徒祐圓再營ス此寺涅槃像一幅ヲ藏ス文祿征韓ノ役加藤清正ノ麾下兒島市兵衛同市左衛門携ヘ歸ル所ト云フ

三本松町　戸數五百八十七人口三千二百十四明治四十年末ノ現在往昔ハ豪商富賈多クシテ繁榮ノ地ナリシカ現今ハ當時ノ如クナラサルモ猶商工ノ徒住居シ醤油等ヲ產出ス口碑ニ依レハ此地ニ大松樹三株アリ故ニ此名アリト云フ

寶光寺　禪宗福榮村ニアリ嘉吉元年一關和尙草創ス寛正中細川勝元再興シ寺領ヲ附セシカ天正年間所領ヲ削ラレシヲ寛永十二年大谷三郎大夫再ヒ之ヲ修造ス

正行寺　眞宗同村ニアリ草創年月詳カナラス吉田左馬助正武ナルモノ建立スト天正年間生駒近規若干ノ荒蕪地ヲ寄附ス

若宮八幡神社　同村ニアリ大般若經六百卷ヲ藏ス內四百三十卷ハ年者ノ署名アルモ百六十卷ハ署名ナシ其奥書ニ云ク讃州大內郡中筋村虛空藏院住增昨同

國同郡入野山村長福寺住眞海比丘願主赤松前山羽守源朝臣顯則 社記曰大塔宮奈良般若寺ニ於テ大般若經ノ櫃中ニ虎口ノ難ヲ遁レ熊野ノ方ヘ落チ行キ給ヒシカ權現ノ靈夢ニ依テ此地ニ渡リ玉フ御供ハ赤松律師則祐岡本武藏坊唯二人ナリ十津川ノ方ヘハ蹕ヲ以テ村上彦四郎義光大塔宮ト偽リ落行ケル宮ハ則祐武藏坊ノミナ召ツレ紀州粟島ヨリ御船ニ召サレ當國ニ渡リ給フ其比此地ニ佐伯右兵衛季國ト云ヘル武士アリ御味方ニ加ハリ要害宜シキ地ナリトテ先ツ當國王子ノ社中ヲシツラヒ宮ヲ匿シ奉ル季國一族ヲ集メ云ケルハ宮ヲ社中ニ置キ奉ルモ平地ナレハ山賊野武士ノ難モ心モトナク幸ヒニ虎丸ノ頂コソ究竟ノ要害ナレハ彼峯ニ一城ヲ築キ守護シ奉ラハ敵百万ノ勢ヲ以テ押寄スルモ我等一族百騎ニ足ラサル手勢ニテモ之レヲ保ツヘシト評議一決シテ内々其用意ヲソナシタリケル去程ニ宮ニハ不思議ニモ曾テ大般若經ノ櫃中ニ御命ヲツカセ給ヒシコトヲ思召ケレハ大般若經ヲ書寫シ王子宮ニ奉納セハヤト御開筆アリケル中虎丸ノ城成就シテ御座ヲ移シ給フ則祐武藏坊モ各書寫シテ高時誅伐ヲ祈ルノ外他事ナカリケルカ此所ヨリ忍ヒ忍ヒニ諸國ヘ令旨ヲ下サレ當國阿州ハ申スニ及ハス播州ノ赤松伊豫ノ河野ナト皆御催促ニソ隨ヒケル斯クテ時至リ諸國ノ官軍一時ニ蜂起シ内通アリテ宮モ河内ノ方ヘ御歸リアリケルトナリ其後星霜移リ應永年中赤松出羽守顯則當社ニ參籠アリ宮ノ書寫シ給フ大般若經ヲ拜觀シテ申サレケルハ宮ナトノ書セ給ヘル御經カヽル邊國寒郷ニ在テ凡下ノ手ニ觸レ年ヲ經テ土ニ埋ンモ恐レアリ元來是レハ全部ニモアラサレハ此御經ハ我國ヘ持歸リ法華山ニ納オクヘシ法華山ハ大伽藍ノ地ナレハ永ク後代ニ傳ヘンコト疑ナシ然ラハ此御經ノ代リニハ我全部ノ大般若經ヲ寄附セン今ヨリ舊故ノ人々ニ乞ヘハ久シカラスシテ全部ヲ當社ニ奉納シ得ヘシト盧空藏院增吽僧正ニ對話アリ願則ニ代ツテ此願就成シクマヘト懇ニ賴ミケルトナリ終ニ全部六百卷成就シ當社ニ奉納セリ今ノ藏經是ナリ

興田寺　眞言宗磐水村ニアリ醫王山盧空藏院ト稱ス往古七談議所ノ一ナリ聖武天皇天平十一年僧行基ノ草創ニシテ醫王山藥師寺ト號シ凡八十餘年間法相宗タリシカ弘法大師歸朝ノ後善通寺ヲ建立シ畢リ當山ニ來住シ眞言宗ニ改メ嵯峨天皇ニ奏シ勅願所ト定メ九坊一院七堂伽藍ヲ建テ二百町ノ莊田ヲ賜フ大師自カラ持國多聞二天及不動愛染二明王ノ像ヲ彫刻安置シ特ニ三國傳來ノ法器惠果阿闍梨大師ノ師相承二十五條ノ袈裟等ヲ留メ末代傳法ノ印璽トス後天正年間兵火ニ罹リ寶物並ニ貴重ノ物品大半燒失セシカ本堂ノ内庫ニ在シモノヽミ其厄ヲ免カル明治三十三年内務省告示ニ依リ國寶ノ資格アルモノト定メラレタルモノ涅槃圖一幅及地藏曼荼羅

一輻アリ

虎丸城　同村ニアリ初佐伯季國之ヲ築キ後寒川元隣之ニ居ル元隣ハ讃岐朝臣ノ族ニシテ世々大内寒川大川郡ノ二郡ヲ領ス永正ノ初元隣安藝ノ大内義興ニ屬スルヲ以テ元龜三年阿波ノ三好氏來リ迫ル乃チ寒川郡前山村大川郡長尾村堪寢城ニ退ク後天正中十河民部大輔存保之ニ據レリ

大水主神社　同村ニアリ延喜式内讃岐二十四社ノ一ナリ社記ニ寶龜年間ノ勸請トアルモ蓋再營ノ時ナルヘシ承和三年從五位下貞觀八年從五位上ヲ授ケラル承平五年海賊平定ノ御祈ノ爲メ國司奉幣セリ後天正十一年長曾我部元親來襲ノ時兵火ニ罹リ寶物多ク灰燼ニ歸ス生駒高俊社殿ヲ再營シ社田三十五石ヲ附ス寶永六年松平頼豐亦社殿ヲ修造ス今猶寶器ヲ藏スル多シ明治三十三年内務省ノ告示ニ依リ國寶ト定メラレタルハ絹本着色佛涅槃圖一幅絹本着色地藏曼荼羅一幅倭迹々日百襲姫命座像一軀倭國香姫命座像一軀大倭根子彦大瑞命座像一軀狗犬一對木造男神座像一軀木造女神座像一軀等トス其他桓武天皇勅額正一位大水主大明神ノ九字二行及獅子頭一個寒香曰於大水主社大明神御寶所奉安置獅子頭事文安五年戊辰十月日大願主中村南門文貞時宮笠大夫次郎色願主宮内重左衛門貞時兵衛尉綱上三位公全秀文明四年十月日等ヲ藏ス明治三十六年一月縣社ニ列セラル

温室　同村ニアリ土人石風呂ト云フ昔弘法大師石室ヲ三所ニ造ル是其一ナリ其製タル石ヲ疊ミ洞ノ如クシテ柴薪ヲ其洞中ニ燒キ其灰燼ヲ除キ之レニ湖ヲソヽギ病者ヲシテ其上ニ座セシムルコト一日三四度ニシテ二三周日此ノ如クスレハ病症ニ依リ大ニ効アリト云フ元和三年生駒正俊之ヲ修理ス

空藏院　ニ住シ我氏神磐田八幡宮ヲ勸請一説ニ承和五年河内國ヨリ一僧來リ盧釋王寺　眞言宗丹生村ニアリ延喜二十年弘法大師之ヲ草創ス天正年間兵火ニ罹リ堂宇烏有ニ歸セシモ享保十八年之ヲ再營ス寺寶中國寶ト定メラルモノ木造正觀音立像一軀アリ

脇屋義治墓　同村字土居ニアリ題シテ淨琳居士脇屋君墓ト云フ

銘曰。六孫王之裔。系自新田。高岸頽矣。舊蹟廢焉。以似以續。々爾之先。於今爲庶。追孝是度。

維此塋兮。不崩不騫。

藤原廣野誌

脇屋家傳曰。正平廿三年七月。上野國戰敗。新田義宗。脇屋義治。匿出羽國羽黑山。後請徙。伊勢國。北畠氏以近京師。不許。遂潛匿伊豫國宇摩郡下山村柴生山。後義宗以病卒。土居

通鄉得能通種等之義徒立祠祭之其後募寛新田族甚急於是義治及其子義長徙置讃岐國丹生山長福寺稱土居氏族其後移東山村墾闢荒野爲家今曰土居村義治卒法名常琳居士義長繼家稱掃部以文明二年沒無子弟義信繼家稱民部永正十六年歿其子德光稱助兵衛爲邑豪族（止義字一作德字）憚世聞也此人以天正五年歿壽百歳其子義則稱善助子孫繁延今存

雨瀧城　富田村ニアリ安富山城守盛長之ヲ築ク元龜元年安富肥前守盛定阿波ノ條原入道紫雲ノ女ヲ娶リ両家誅ヲ合セ寒川氏ノ大内郡ヲ奪フ是以テ盛定大内郡ニ移リ老臣六車宗湛ヲシテ之ヲ戍ラシム天正十二年長曾我部元親ノ爲メ陷シイレラル

八幡神社　松尾村ニアリ貞觀年間富田彌三郎則朝勸請シ永祿年中雨瀧城主安富又三郎再營ス

八劍大明神　同村ニアリ勸請年月詳カナラス當初八振ノ劍ヲ神體ト爲セシカ後故アリ五振ハ尾張國熱田神社ニ納メ今三振ヲ存ス

大槌城　同村ニアリ長曾我部元親行營ノ所ト云フ

茶臼山城　同村ニアリ寒川右馬允之レニ居ル此所ハ仁德天皇ノ奉祀所ナリ倭名鈔ニ此地ヲ難波鄉ト稱ス蓋此奉祀所アルヲ以テナラン蓋當時ノ土民同天皇ノ恩德ヲ追念シ此奉祀所ヲ設クルナラン

西敎寺　眞言宗同村ニアリ僧行基草創ス天正年間兵火ニ罹リ其後僧增立再興ス

阿彌陀寺　眞言宗同村ニアリ草創年月詳カナラス天正十一年ノ春長曾我部元親阿波國ヨリ大窪山ヲ越ヘ來リテ此所ニ陣シ天皇ノ森ヲ以テ本陣トシ處々ニ放火ス其時堂宇燒亡セシヲ其後再建セリ

布勢神社　石田村ニアリ延喜式內讃岐二十四社ノ一ナリ極樂寺記曰ク天平年間僧行基藥師堂ヲ此地ニ創立シ布勢ノ神ヲ以テ鎭守トス云々今ハ衰廢シテ一小祠トナレリ

大窪彦神社　同村ニアリ是亦延喜式內讃岐二十四社ノ一ナリ往昔ハ窪神池ノ東ノ山上ニアリシカ寛文七年之ヲ今ノ地ニ移セリ

德勝寺　同村ニアリ寛正元年沙門高祐草創シ地中獲ル所阿弥陀ノ像ヲ以テ本尊トス

國弘城　同村ニアリ細川掃部助弘氏應永年間之ヲ築キ世々之レニ居ル石田ノ領主ナリ其七世左兵衛矩弘窃カニ足利氏ヲ亡スノ志アリシモ遂クルコトヲ得ス織田信長ノ起ルニ及ヒ之ニ屬シ稍其志ヲ伸フルヲ得タリ

石田城　同村ニアリ安富民部元綱之レニ居レリ天正十一年五月長曾我部元親之レヲ攻メ陷シイレシカ明暦年間其遺跡ヘ眞宗ノ一宇ヲ創立シ光明寺ト云フ

小倉寺　眞言宗同村ニアリ寺記ニ曰ク天平七年僧行基藥師ノ像ヲ造リ一宇ヲ建テ之ヲ安置ス土人之ヲ崇ノ藥師ト云フ延暦十九年弘法大師堂宇ヲ修造ス大同年間燒亡シ承和十三年二月良峰安世再建シ今ノ寺號ニ改ム

寶藏院　眞言宗長尾村ニアリ紫雲山極樂寺ト云フ寺記ニ曰ク天平勝寶中僧行基創立ス當國七談議所ノ一ナリ初メ法相宗ニシテ石田村ニ在リシカ大同中堂宇灰燼ス今其地ヲ極樂寺ト云フ天長元年四月弘法大師之ヲ鴨部東山村ニ移シ再興セリ其地ヲ今ニ談議所ト云フ此時今ノ宗ニ改ム同年八月勅シテ紫雲山ノ號ヲ賜フ寛平七年十月官錢千貫ヲ賜ヒ講堂及諸堂ヲ再營ス昌泰三年十月談議所ノ號ヲ賜フ天慶二年正月四個ノ談議所ヲ定メ當寺ヲ以テ年行事ト爲セシカ其後三寺ヲ加ヘ七談議所ト爲ス元弘二年二月兵乱ノ爲メ播州津田ノ寺領ヲ創ラレシヲ大塔宮令旨ヲ賜ヒ舊ニ復スルコトヲ得タリ建武二年堂宇頹廢セシモ再興スル能ハサルヲ以テ長尾村ノ末寺吉群院ニ移リ寶藏院ト云フ今ノ地是ナリ貞治年間細川頼之鎮守社領五石ヲ寄附ス抑往昔當寺ノ住僧ニ明印法師ナルモノアリ一時碩學ノ聞ヘアリ菅原道眞當國ニ守タル時此寺ニ游ヒ詩文ノ贈答アリ後延喜元年道眞筑紫ヘ左遷ノ時明印小舟ニ乘リ房崎ノ浦ニ迎ヘ時一首ヲ捧ク其後半ニ曰ク不期天上一圓月忽入海西萬里雲道眞亦分袂ヲ惜マレシト云フ同寺寶物中明治三十三年內務省告示ニ依リ國寶ト定メラレタルモノハ木造藥師如來立像一軀トス

大塔宮令旨寫

播磨國津田地頭職可令知行之由依大塔宮二品親王令旨執達如件

元弘三年五月九日　　左少將

極樂寺

編者云元弘ハ僅ニ一年ニシテ正慶ト改元アリ此令旨ニ元弘三年トアルハ疑ハシ元德三年ニ元弘ト改元アレハ恐ラクハ元德ノ誤リナランカ

宇佐神社　同村ニアリ永德二年勅請スト云フ寶物太刀一振アリ寒川丹後守元隣ノ寄附スル所ナリ

物之隱顯蓋有レ時矣我先君英公之始就國也興廢繼絕功業大起德政日新民化風行於是陰陽克調珍瑞並至寒川郡長尾鄉有八幡祠神正院世司之其主僧宣政膂力絕人公甚愛之蓋元祿中嘗賜木像多聞天命曰是吾行陣護神我嘉汝驍勇若聞烽舉燧燔則救負

之以從焉。僧感謝受賜而退。一日僧謁祠。奉幣既畢將歸。見數丈巨蛇蟠縈匝祠。僧畏怖而退向神祝之。忽聞帳中有聲曰。彼害人多。汝速除之。壁上有劍。是丹後守寒川元隣所奉也。可以斬矣。僧敬受教。乃抽劍寸斷之。遂名斬蛇劍。世々珍襲云。此其所傳雖頗類虛誕。而天壤之間。固有不可測度者。往古素盞嗚尊之過斐川。漢高祖之經澤中。皆有此怪。和漢所記載在正史。安不得而信乎。是知神物之顯。必於照代。先君之德化。能通於神明。神物之出不亦宜乎。

天保六年龍集乙未仲冬穀旦

八幡池　同村ニアリ貞治三年細川右馬頭頼之當國中東六郡ノ人夫ヲ催シ之ヲ築キ同年三月二十四日起工シ四月二十九日竣工ス土人之ヲ宮池ト稱ス

長尾寺　天台宗同村ニアリ天平十一年僧行基ノ創立ナリシカ天長二年國司良岑安世藤原冬嗣ノ奏聞ニ基キ堂宇ヲ修造シ地名ニ依テ寺號トス文明年間兵火ニ罹リシヲ慶長中生駒近規之ヲ再興シ天和三年松平頼重此寺ヲ國内七觀音ノ一トシ中古以降眞言宗タリシヲ今ノ宗ニ復セシム門前經塚二基アリ一基ハ長五尺六寸一基ハ長七尺七寸ニシテ其五尺六寸ノモノニ大施主稚部氏弘安六年歳次癸未十月日其七尺七寸ノモノニ大施主法大施主稚部氏弘安第九天歳次丙戌五月ノ銘アリ近年此標石ヲ本堂ノ前ニ移セリ

飛揭瀧　同村ニアリ土人鮎返ノ瀧ト云フ

壹岐城　同村ニアリ元龜三年寒川元隣此城ニ移リ世々之レニ居ル天正三年九月阿波ノ海部左近此城ヲ攻メ爲メニ陷ヒル此所明治維新前大樹ノ櫻花アリシカ今ハ枯レヌ

大窪寺　眞言宗同村ニアリ養老元年僧行基草創ス弘仁六年弘法大師藥師ノ像ヲ造リ之ヲ安置ス天正二年兵火ニ罹リシヲ後之ヲ再興ス

願興寺　眞言宗造田村ニアリ天長七年正月沙門徹圓草創ス

圓光寺　眞言宗同村ニアリ開基詳カナラス慶長年間僧增永堂宇ヲ修造ス舊地ハ今ノ地ヨリ三町バカリ北ニアリト云フ

鶴羽神社　鶴羽村ニアリ祭神日本武尊此社地往古ハ海邊ノ巖石ナリシカ漸々海埋レ今ハ往來道路ノ南ニアリ口碑ニ依レハ日本武尊ノ神靈白鳥ニ化シ當國ニ來ラレシ時此巖上ニ休ラヒ失ヨリ白鳥ノ社地ヘ飛去リ給フ時羽毛一片落ケルヲ鶴羽明神ト崇メ祭レリ當村ノ名亦之レヨリ始マレリト云フ

津田町　此地ハ富商大賈多ク戸數千百九十一人口七千二百四十三明治四十年末ノ現在ニシテ一小都會タリ近來夏時海水游浴ノ客踵ヲ接ス

松原　同町ノ東端ヨリ鶴羽村ノ西端ニ接シ東西殆ント一里南北亦數丁此間滿地皆老松ニシテ秀葉蒼翠各詭狀異態ヲ呈シ白砂ト相映ス中央八幡神社アリ往昔安富盛方豊前宇佐ノ神靈ヲ迎ヘ此祠ヲ建ツト云フ

寶相寺　眞言宗同町ニアリ天平五年三月僧行基草創シ天長六年九月眞濟阿奢梨再營ス當初法相宗ナリシカ今ノ宗ニ改メシハ年月詳カナラス

神前神社　神前村ニアリ延喜式内讃岐二十四社ノ一勅請年月詳カナラス

男山神社　同村ニアリ延喜七年四月寶藏院沙門明印詔ヲ奉シテ勅請ス弘安四年六月寶藏院沙門正範本地供ヲ修ス貞和年間寒川光重修理ヲ加フ天正年間兵火ニ罹リ其後再營ス

神前城　同村ニアリ神前出羽正元亨祿三年此城ヲ築キ神前鄕ヲ領シ之ニ居レリ寒川氏ノ風士ナリ

志多張神社　鴨部村ニアリ延喜式内讃岐二十四社ノ一天長元年六月二十八日勅請ス

長福寺　眞言宗同村ニアリ天長元年弘法大師勅ヲ奉シテ建立ス貞觀三年又勅ヲ奉シ仁王會ヲ修ス爾後歷朝ノ勅願所タリ永享年間細川氏ノ家臣雨瀧山城主安富盛保當寺ノ本尊ヲ信ス天正中鴨部ノ城主池田恆利亦多ク寺領ヲ寄附セリ明和八年以後京都艤艫ノ大覺寺ニ屬ス明治三十三年内務省ノ告示ニ依リ寺寶中國寶ト定メラルヽモノ木造藥師如來坐像一軀アリ

鴨部神社　同村ニアリ承平六年八月創立永正元年燒失シ社殿ヲ再建セシカ破損セシヲ以テ寛永元年正月十一日更ニ之ヲ修築ス

佛穴　同村ニアリ古佛四軀ヲ安置ス往古ノ製作ト云フ

志度町　戸數千三百七十二人口七千六百七明治四十年末ノ現在ニシテ頗ル繁榮ノ地トス特ニ西方八栗山ヲ控シ北方蒼海ニ臨ミ風景亦賞ス可シ文治元年二月平家ノ軍屋嶋ヲ退キ安德天皇ヲ奉シ志度ノ道場ニ入ル源軍陸上ヨリ之ヲ追擊シケレハ平軍ハ再ヒ船ニ乘シ長門國ニ赴キケル

靈芝寺　律宗同町ニアリ日內山ト稱ス貞觀元年僧明雲日內山泰光寺ヲ建ツ天正中火災ニ罹リシヲ寛永年間僧宥春再興シ靈芝寺ト改ム高松藩主第二世松平頼常及第九世松平頼恕等各儒卿ノ墳墓アリ

志度寺　眞言宗同町ニアリ推古天皇ノ時創立スル所ト云フ草創ノ當時ハ僅ニ一間四面ノ小堂ナリシカ天武天皇ノ朝藤原不比等來ツテ堂宇ヲ大ニシ名ケテ死度道場ト云フ持統天皇八年藤原房前更ニ大伽藍ヲ建立シ僧行基ヲ開基トス天正中兵火ニ罹リシヲ慶長九年生駒近規ノ室敎芳院觀音堂ヲ建テ又生駒正俊元和六年之ヲ修理ス寛永十九年松平頼重封内人別奉加ノ令ヲ下シ本堂及諸堂ヲ革新セリ盡高松市以東ニ在テ最舊キ名刹トス寺寶頗ル多シ其中ニ於テ明治三十三年内務省告示ヲ以テ國寶ト定メラルモノハ絹本着色志度寺緣起圖繪六幅絹本着色十一面觀音畫像一幅木造十一面觀音両脇士像三軀トス其他古文書類亦多シ今左ニ其一二ヲ撮錄ス

讃岐國志度寺者爲琰魔代王氏寺十一面觀音利生靈場也云々而當寺院主別當職鄕下寺務事爲諸代相承之所職所當知行無相違云々者知行之理尙其仁速安堵本職士了被抽祈願之忠勤者也仍下知如件

文治三年五月十三日

頼朝判

尾崎四郎別當治部卿法印御房

讃州志度寺東圓魔堂幹緣疏

讃州路志度道場燼盛光院乃海岸孤絶之處觀音靈感之地也推古天皇三十七年（編者云即舒明天皇元年ナリ）補陀大工變身爲工來自造聖像植武帝延曆元年琰圓羅國王託人以建梵宇故山號補陀落俗傳琰羅氏香火炎爾來一千餘歲寺廢燬者數矣按寺故事其將起廢也必先有人暴死入冥中見王王命之以寺事蘇生之後募財十方以復舊觀也大率以爲常矣寺之東西架兩堂以安王像取義双王者耶昔有茲猶尼弥阿不知何處人結草寺側而居堅持毘尼專念弥陀人皆異之一夕無病氣絶信宿而蘇曰吾到冥府王見喜曰汝命未盡當返本國爲我於志度道場東偏規地搆堂而刻等我長之像安之是我所望汝也仍自以量其身示弥阿々々拜而受命於是如夢寤而蘇矣輒傾赤心戸告家募見者聞者靡不樂施堂成于旦夕如王言焉所謂東圓魔堂是也堂中安王及地藏薩埵泰山府君俱生神等也敎中以琰羅爲觀音應化者有焉爲地藏應化者有焉可並按蓋三即一豈異身乎又琰羅在當來爲三界導師號普王如來孰不歸敬哉文明十一年十月十八日畢方爲禁碧死朱甍二十餘宇食頃燼矣東堂其一也凡草創以來火于寺者六而東堂罹災者三于茲矣經曰圓羅宮殿百寶莊嚴一日之中三變炎熾山是觀之今東堂三火抑亦有以哉蓋示衆生界成壞有數也夫本寺之宜先者東堂爲最也雖然寺無恆產費用多爲之奈何小比丘朝叫謹持短疏遍叩大小檀門庶幾各戮力以成就勝緣則一滴之錢變成現在福海未來佛果海者也詞曰（闕ス）

甕屋敷跡　同町ニアリ是レ謡曲ニ歸因シ後人ノ附會スルモノナラン荒唐ノ言信スルニ足ラス

眞覺寺　眞宗同町ニアリ當初ハ天台宗ニシテ阿波國ニアリシカ今ノ宗ニ改メ大内郡（大川郡）ニ移リ又三木郡（木田郡）ニ移リ新藏坊ト稱ス後今ノ地ニ移リ慶安四年今ノ寺號ニ改ム境内一大松樹アリ蒼々鬱々一見スルノ價直アリ

東林寺　淨土宗同町ニアリ開基詳カナラス延寶四年高松藩主松平頼常岡ノ御堂ノ舊跡ヲ再興シ寺領五十石ヲ寄附ス

多和神社　同町ニアリ延喜式内讃岐二十四社ノ一寛平元年十二月大祝正六位上讃岐朝臣泰雄勅請シ仁壽元年正月正六位上ヲ授ケラレ延喜八年正月從三位ヲ授ケラル

木田郡

皷ガ淵　井戸村ニアリ源義經ノ妾靜女ノ持タル初音ノ皷ヲ捨タル所ニシテ此名アリト云フ恐ラクハ齊東野人ノ語ナラン

眞行寺　眞言宗同村ニアリ天長七年十月寶藏院微圓法印之ヲ草創ス一說ニ弘法大師創立シ文祿中沙門良瑜再修スト孰レカ是ナルヲ知ラス

鎌倉塚　同村眞行寺内ニアリ相傳フ征夷大將軍足利義材大永元年三月奔テ淡路ニ在リ島ノ公方ト呼フ同三年此地ニ移リ尋ヲ薨ス體シテ惠林院殿道舜嚴山大居士ト云フ之ヲ此所ニ葬ル土人鎌倉塚ト云フ

和爾賀波神社　同村字熊田ニアリ社記ニ神代ノ時豊玉姫命此地ニ流ル、鬱川ニ溯リ來リ給ヒ此所ハ良キ處ト曰ヘルニ依リ鎮座シテ和爾賀波神ト崇メ之ヲ勸請ス後貞觀三年八幡宮ヲ配祀シ因テ和爾賀波八幡宮ト稱ス延喜式内讃岐二十四社ノ一ナリ

宗壽院　淨土宗同村ニアリ極樂寺記ニ天長六年九月之ヲ創建スルト、アルモ或ハ天正中之ヲ建ツト云

專修寺　淨土宗同村ニアリ天文年中草創ス後生駒一正寺領二十石ヲ附シ爾來之ヲ世々ニス一說ニ永祿中創立スト

淨土寺　眞言宗同村字高木ニアリ極樂寺記ニ承平六年八月八幡ヲ勸請シ同九月別當淨土寺ヲ置ク一說ニ創立年月詳カナラス天文中沙門快愉再修スト

細川清氏墓　下高岡村字正一白山ノ麓ニアリ清氏高屋城ニ戰死セシヲ長尾村寶藏院主明範和尚ト相識レルヲ以テ初其陣地タルニ依リ和尚其遺骸ヲ此所ニ葬ルト云フ

鹿河神社　同村大字四條ニアリ延喜七年四月ノ勸請ナリ三代物語神社考全讃史等ノ諸書ハ當社ヲ以テ延喜式内和爾賀波神社トス

白山神社　同村ニアリ延長四年ノ勸請ト云フ

諏訪神社　氷上村大字上高岡ニアリ安西家記曰安西左近ハ信州諏訪ノ人ナリ文明ノ初爰ニ來リ同三年三月二十七日宅地ノ巽ノ方ノ山上ニ諏訪明神ヲ勸請ス云々極樂寺記ニハ治安二年九月雲海諏訪明神ヲ高岡ニ勸請ス云々孰レカ是ナルヲ知ラス

山大寺　同村大字山大寺ニアリ天長六年ノ創立ニシテ元ハ山田寺ト云（極樂寺記ニ見ユ）今ハ廢絶セシモ昔ハ大伽藍ニテ塔頭七ケ寺アリ且寺領二町六反アリ今猶其地ヲ寺領田ト呼ヒ二王門ノ跡ヲ二王田ト云フ

平木城　平井村大字平木大池ノ西側ニ在リ高岡城ト云ヒシモノ是ナリ三木氏世々之ニ居リ三木郡（三木郡ハ今木田郡ニ合ス）ヲ領ス土人平木殿ト稱ス三木氏亡ヒ安富氏之ニ居ル（又同大字四ノ坊ト云地ニ城ノ下ト呼ヘル田地アリ長曾我部氏十河氏ヲ攻メシ時ノ陣ノ跡ナリト）

法泉寺　眞宗同村大字井上ニアリ文明中草創ス

天野神社　同村ニアリ元龜天正ノ間松原五郎信義ナル者河内國ヨリ移住シ壺井八幡ヲ迎ヘ祠ヲ建テ之ヲ奉ス是以テ松原氏世々其祭式ニ列スト云フ

始覺寺　同村大字井上ニアリ其地ヲ四角寺原ト云フ今ハ廢絶セシモ昔ハ大伽藍ナリト近來其地ヲ墾シ多ク古瓦ヲ獲タリ或考古家ノ說ニ依レハ其瓦紋ヲ考フルニ國分寺ヨリモ古寺ナラント

八幡神社　同村大字池戸字川北ニアリ延喜十四年勸請永正三年中城ノ城主山地志摩守修造ス後天正中兵火ニ罹リシ時社僧神體ヲ負テ遁ル慶長七年萱生伊勢千代松原小助等再興ス當時ノ棟札猶存ス

池戸城　同村同大字宗戸ニアリ中城ト云フ山地九郎左衛門之ニ居ル山地氏ハ元三野郡詫間ノ城主ナリ蓋邑ヲ失ヒ此ニ來リ三木氏ニ依レルナラン

西德寺　眞宗同村同大字ニアリ天正中創建ス

常滿寺　眞宗同村大字平木ニアリ寛正年間創立ス

妙德寺　日蓮宗同村同大字ニアリ貞治六年草創ス

蓮城寺　眞宗同村同大字ニアリ明應中創立ス

常光寺　眞宗同村同大字ニアリ寺記ニ依レハ應安元年生駒淨泉開基ス淨泉ハ泉州大島城主生駒右京大夫ノ第二子ナリ初佛心宗ヲ奉シ加田ノ龍華院ニ居レリ後佛光寺了源ニ隨喜シ兄秀善ト與ニ四國ニ來リ秀善ハ阿波國ニ安樂寺ヲ建テ淨泉ハ當國ニ此寺ヲ建ツ五世ヲ經テ淨宣ニ至リ興正寺門派ニ屬ス十世淨玄ニ至リ石山ノ戰ニ功アリ本願寺顯如ヨリ自筆九字十字ノ名號ヲ贈ラル豊太閤大佛供養ノ時安樂寺ト共ニ召サレ謝狀ヲ賜フ高松藩祖松平頼重興正寺高松別院ヲ修理セシ時與カリテ功アリ當時ハ京都和泉阿波及當國ニ末寺七十五個寺ヲ有セシカ漸次離末セシモノアルモ明治維新ノ際猶二十七個寺アリト云フ

長覺寺　眞宗同村同大字ニアリ此地ハ古城趾ニシテ小字ヲ殿屋敷ト呼フ長祿年中高松重行草創ス寛永年間マテ長福寺ト稱セシカ享保年中今ノ寺號ニ改ム

福住寺　眞宗田中村大字田中字上田中ニアリ寛正年間草創ス

雷八幡神社　同村同大字ニアリ極樂寺記ニ承平六年八月勸請同九月別當圓滿寺ヲ置クトアリ

八幡神社　氷上村大字氷上字丸岡ニアリ極樂寺記ニ承平六年八月勸請同九月別當千手寺ヲ置クトアリ今小庵ヲ存ス

二本杉　奥鹿村字津柳熊野神社ノ社頭ニアリ兩杉疏立高サ十數丈蓋千年以外ノモノト云フ

小簑瀑　田中村大字小簑ニアリ上下二層ニ分レ雄瀧雌瀧ト呼フ又一ニ虹瀧ト呼フ太陽天ニ中スル時水氣蒸發シテ自ラ虹霓ヲ現ス故ニ名ツク雄瀧高九間幅四間雌瀧高八間二尺幅三間

小簑瀑布

後藤久包（高松藩老臣）

連山西折眺望偏白日彩虹巖壑懸不到裁峯幽絶地誰看飛瀑落天邊

同

岡井鼎（號赤城高松藩士）

崎嶇山路入氤氲飛瀑潺湲隔嶺聞千仞棟光寒碎玉半天河影遠穿雲虹懸雖辨雌雄色雷激應驚麋鹿群舊識先侯曾賞詠停車好此挹餘芬

同

岡長職（高松藩士）

碧峯界天聳決眥一蒼々虎吼千山動龍飛萬丈長彩虹懸氣色白日慘輝光直訝河源極溜從雲漢旁

熊野神社　東植田村大字菅澤字宮谷ニアリ貞治五年八月九日勸請天正中燒失シ寛永三年以降屢修造ス

藤尾八幡神社　同村同大字藤尾山上ニアリ社記曰養老年中勧請天長七年再興正治元年僧行安隠神ヲ作リ之ヲ奉納ス（雨露ノ爲メ大ニ毀損セルモ今猶存ス）文龜三年焼失永正元年再興ス是ヨリ先キ應安年中細川頼之社領二十貫ヲ寄附シ其後山田郡領主植田氏亦社領二十貫ヲ寄附ス舊藩主生駒松平両氏亦各高二石四斗二舛ヲ寄附ス土人ノ說ニ依ルニ本郡庵治村又香川郡下笠居村ノ各八幡ハ皆此神ヲ遷シ祭レリト（今庵治八幡ノ馬場ノ南ニ松尾ト云地アリ住民皆松尾又ハ藤尾ヲ以テ姓トシ此神ヲ遷セシトノ說ヲ傳フ松尾ハ即西植田ノ地名ナリ三代物語又全眼史皆各此說ヲ載セリ）

神内城　同村同大字上東神内ニアリ臺山ノ城ト云フ貞治年間神内右京進景之及清定等各釆邑ヲ西植田及木太ニ食ミ此城ニ居レリ

專福寺　眞宗東植田村大字東植田字北高樣ニアリ永祿年間創立天正年中兵火ニ罹リ後再興ス

八幡神社　同村同大字小字宮谷ニアリ天正元年八月十六日植田美濃守藤尾八幡ヲ分靈シテ勸請ス無幾シテ焼失セルヲ慶長十九年再興ス

戸田城　同村同大字字城ニアリ土人岡ノ城ト云フ元龜天正ノ間植田美濃守安信釆地ヲ植田及菅澤（東植田村）朝倉（田中村）ニ食ミ世々此城ニ居レリ

信光寺　眞宗田中村大字田中字上田中ニアリ寛正年間草創ス

朔方寺　眞宗十河村大字東十川字檀原ニアリ天文年中信濃國ヨリ僧定譲此ニ移シ天正年間沙門智源堂宇ヲ造立ス

十河城（一ニ四尾城トモ）　同村同大字ニアリ今ノ稱念寺ノ地之レナリ十河氏世々之ニ居ル

稱念寺　浄土宗同村同大字ニアリ十河氏ノ城墟ナリ寺記ニ曰ク元暦ノ頃僧源空住蓮ナルモノヲシテ當國ニ遣シ群生ヲ化益セシメ歸洛ノ後刑ニ就キ殺サル後一心院ノ開祖稱念此地ニ來リ住蓮ノ追福ヲ修ス即此寺ナリ生駒一正ヨリ寺領ヲ寄附セシ時松原小助ヨリ贈ル所ノ文書今尚同寺ニ存ス

一存公御菩提寺御堪忍分宮乃下ニテ田一反同道ノ下ニテ田一反且原ニテ畑六畝

又本丸古城ノ跡則撿地相除候此儀ハ十河存保公無其隱依名將末代迄此寺茶湯焼香モ無退轉被勤樣トノ儀別シテ萱生大膳此所知行被下候刻一正樣ヘ大膳被得御意候所此儀尤ノ御意ニテ相付候上ハ於末代茶湯焼香不可有油斷者ナリ一正樣御判ト申候得共少々ノ事ニ候間大膳申付候得ト御意ニテ如此爲後日如件

慶長十年二月十二日　　松原小助

稱念寺御坊

十河一存同存保墓　同村同大字稱念寺ノ北金光堂ニアリ金光ハ十河景滋ノ子ニテ

早世スルモノナリ

經字神社　同村大字西十川ニアリ大化年中攝州森口ニ鎮座シケルカ毛利潛刀ト云フ者靈夢ニ感シ此郷ニ來リ一社ヲ創建セシニ其後神託ニ依リ今ノ地ニ移セリト弘治年中十河一存崇敬シテ祭田ヲ寄附ス天正年間兵火ニ罹リ其後毛利左近ト云フ者再興セリ境外攝社杉尾神社同村大字東十川ニアリ

田井城　川添村大字田井ニアリ三木半大夫景美之ニ居ル景美子無キヲ以テ十河集人ノ次男秀宗ヲ養フテ嗣トス秀宗家ヲ嫡子秀成ニ讓リ薙髮シテ宗悅入道ト號ス秀成ハ後十河存保ト共ニ豐後利光川ノ役ニ戰死ス

源勝寺　眞宗坂ノ上村大字坂元字宮ノ尾ニアリ初沙門源空ノ草創ニテ東十川村且原ニ小庵ヲ建テシカ天正中燒失シ三木郡吉谷村（木田郡氷上村）ニ移セリ當時生駒氏ヨリ屋敷地三十間四方ヲ寄附ス

松宇神社　同村同大字字北宮尾ニアリ社記ニ和銅年中勸請天正中兵火ニ罹リ慶長年間再興ス

池田城　西植田村大字池田字本村ニアリ城屋敷ト云フ小字アリ即此所ナリト云フ

池田遠江守景光之ニ居ル

谷子八幡神社　同村大字字下山田ニアリ池田遠江守景光創建ス高松藩主松平氏祭田一石五斗ヲ寄附ス

大麻山城　同村大字池田ト三谷村ノ境雄上佐山ノ頂ニアリ三谷氏ノ要城ナリ文明十二年十一月寒川左馬允來リ攻ムルモ終ニ敗走シ永正五年八月香西豐前守元定來リ攻ム亦敗走ス

三谷城　三谷村石舟池ノ西南ニアリ土人ノ口碑ニ依レハ此處明治ノ初年マテ猶外壕ノ跡存セリト三谷氏世々之ニ居ル永享年間其先世三谷弥七郎景晴怪鳥ヲ禁内ニ射ヲ兵庫頭ニ任ス

三谷兵庫頭墓　同村ニアリ初ハ西植田村大字池田ニ在シヲ近年此所ニ移セリ

石舟　同村字池田ノ内石ノ舟ニアリ何人ノ墳墓タルヲ詳ニセス所謂車塚ニテ石棺ノ露出スルモノ舟ノ如シ此名アル所以ナリ

八幡神社　同村字宮浦三郎池ノ堤畔ニアリ初三郎池ノ中央ニアリシカ寛永五年此池ヲ築キシ時今ノ地ニ遷セリ社寶ニ三谷景晴ノ奉納セシ矢鏃アリ蓋其怪鳥ヲ射シ時用ヒシ物ナラン

加茂良神社　同村大字西三谷ニアリ蓋古社ナリ勸請年月詳ナラス口碑ニ依レハ三

谷氏居ヲ火山ノ南ニトシ男山ノ神ヲ迎ヘ鬼門ノ鎮トス之ニ依テ此ヲ見レハ其社ハ三谷氏ノ鎮守ニシテ此社ハ以前一村ノ社ナルヘシ

逢勝寺　眞宗同村大字上田井ニアリ天文二十三年沙門正信創立ス

眞樂寺　眞宗同村同大字ニアリ元阿波國ニアリシヲ慶長年中此地ニ移セリ

清水神社　同村同大字由良山ノ麓ニアリ社記曰ク景行天皇五十四年勅請ス後頽廢セシヲ永祿三年修造スト云フ同所甕塚アリ其甕往古十二個アリシカ今僅ニ二個ヲ存ス

甕塚碑

山田郡由良山下有清水大明神祠里中社之其記則浮圖自性院奉之祠前有二甕蓋言上古神櫛王釀酒之器也舊有十二甕皆埋祠傍地者一見存者二矣往昔有僧眞雅者故爲禱雨之具云於今歲旱自性院主就神祠而祭祀大旱則洗溜二甕必獲雨今茲寛政二年庚戌夏大旱乃祈雨七日遂不獲涓滴之賜七月三日將修洗甕之法郡官郡吏皆會而須臾甚雨大至一郡蒙其澍澤於是大里正前田美雅壺井忠弘與小里正十八人謀作石柱以爲周垣以報神惠之無極也

青葉養浩識

由良山城　同村同大字由良山ノ上ニ在リ由良遠江守ノ要城ナリ永正五年八月香西豐前守來リ攻ム本山首領三谷伊豆守之レカ援ヲ爲スモ支フル能ハス覺ニ香西氏ニ降ル

拜師神社　林村大字上林ニアリ永享二年岡因幡守重輯造營ス子孫藤左衛門ナルモノ豐公ノ征韓ニ從ヒ彼國ノ一祠ヲ壞チ其神體ヲ携ヘ歸リ此社ニ奉納スト傳ヘシカ今其所在ヲ失ス

岩田神社　同村大字下林ニアリ延喜十五年觀賢僧正勅請ス文治二年五月後藤藤左衛門ト云者戰勝ヲ祈リ太刀馬等ヲ寄附ス永享十二年三月管領細川持氏崇信シテ黄金三尊阿彌陀ノ小像及弓一張ヲ奉納ス慶長十六年生駒正俊祭田七石ヲ寄附ス

正大寺　眞言宗同村同大字ニアリ寺記ニ曰ク弘仁三年弘法大師草創ス元早瀬岡ニ在リシヲ仁治三年守護代長雄藤高今ノ地ニ移ス道範阿闍梨ノ當國ニ謫セラルヽヤ暫ク此ニ住ス嘉吉年中僧宥範之ヲ修造ス永正十五年十河一存香西氏ノ兵ヲ此寺ニ襲ヒ之ヲ燒ク故ニ時人呼テ鬼十河ト云フ寛文五年穴吹正太郎之ヲ再興ス天保年間又火アリ僧覺淵今ノ本堂ヲ建立ス

鹿島神社　同村大字六條ニアリ天正八年高松孫右衛門兼盛創立ス棟札猶存ス寶永

中宮脇總次郎再興ス

長專寺　眞宗同村同大字ニアリ天正年中僧願誓草創ス

八幡神社　川添村大字下田井字八幡ニアリ慶長年中高松內匠長重勸請ス其祭典ハ里民順次之ヲ掌ル每年七月七日其人ヲ定メ其人定レハ棚ヲ田間ニ架シ酒食ヲ薦ム雌雄白頭ノ烏大サ鳩ノ如キアリテ來テ之ヲ食フ若シ食ハサレハ更ニ之ヲ潔クシテ薦ムルヿ再三ニ至ルト云フ

八幡神社　同村同大字岡崎ニアリ承平六年八月勸請極樂寺記ニ承平六年八月一鄕一社ノ八幡ヲ勸請シ同年九月別當前田寶壽寺ヲ置クトアリ

石清水神社　川添村大字山崎久米山ニアリ貞觀元年石清水八幡宮ヲ山城男山ニ勸請ノ時當國本山鄕（後元山ト改ム木田郡川添村）ヲ以テ神供料トス（東經二嘉眞二年七月二十五日ノ下文ニ石清水領讃岐國本山庄被止足立木工助遠親カ知行地頭職被付宮寺云々）其後曆應應仁以來ノ兵乱ニ頽廢セシヲ元和六年九月高倉某衆力ヲ合セ之ヲ修造ス寛文四年再ヒ修造シ元祿六年今ノ地ニ移ス

諏訪神社　同村同大字ニアリ天正年間勸請ス

龍王山　同村ニアリ俗ニ傳フ龍王夜々燈ヲ山上ニ掛ク故ニ名ツクト云

長塚　同村大字古高松ニアリ天正十三年四月喜岡城ノ戰ニ戰沒セシ兵卒二百餘人ノ遺骸ヲ埋メシ所ナリ

鞍掛松　同村同大字縣道ノ北ニ地藏堂アリ其傍ニ松樹アリ俗傳ニ源義經鞍ヲ掛ケ馬ヲ憩ハシメシ所ト云フ

喜岡城　同村同大字ニアリ其墟今寺ト爲レリ高松小三郎頼重以後世々之ニ居ル其裔左馬之助頼邑ニ至リ香西氏ニ屈ス天正十一年仙石秀久此城ヲ攻ム克タス豐臣秀吉南征ノ時城終ニ陷ル

喜岡寺　眞言宗同村同大字ニアリ寛喜元年ノ創立ニシテ今ノ地ヨリ少シ北ニアリテ淨光院（極樂寺ノ記ニ依レハ天長六年ノ建立ト云フ）ト稱ス高松小三郎ノ香華院タリ後今ノ地ニ移ス今ノ地ハ即喜岡城ノ遺墟ニシテ境內高松左馬之助片山志摩周渡彈正ノ墳墓アリ或ハ云フ喜岡ハ城岡ノ意ナリト

高松左馬之助頼邑墓碑

元龜天正之間。海內釋屬最甚。及豐臣氏。闢然一嘘。翼驚四方。如雷如霆。餘威振海外。若桑元親强暴。南國草偃。其餘舌縮股慄。奔潰獨不屈。其威者故爾喜岡城而已。事詳于前載。略舉其要。城主左馬之助頼邑。私謚道勝。所謂高松小三郎頼重之胄。世食于高松鄕。居喜岡城。仙石秀久。受封於讃。先至攻此城。弗克而還。明年豐臣氏。命浮田黑田等七帥。將兵二万

三千人。征讃岐。又先伐此城。彈丸黑子地。雖片山志摩。唐渡彈正救之。而城中僅二百人。蟹
螺龍車未足以喻矣。於是主將與志摩彈正。同心決命。三將振臂一呼。士咸佻飛。胃白刃血戰
而斃。視死如歸。豈非養士有素而得其死如此乎。三子完忠節死之。胡可不含笑于泉下哉。
彼不以德而以威。宜乎其効死而不服也。世稱之曰三烈。比諸許男面縛。絞人城下盟。豈止
天淵而已矣。是時天正十三年四月二十六日也。其墟今爲寺曰喜岡寺。住寺龍客曰。恐後
世墳塋埋沒。精魂無依也。故欲立碑而表之。且使四方之過此者。感遠慨然永懷其遺烈焉。
使人請文於予。予深嘆其用心之厚。爲之銘曰。

猛將如雲矢如雨。　十雄孤危猶一蚊。　力雖窮志不可奪。　嗟烈士沒有餘欣。

從四位行侍從　清原朝臣宣光撰

片山志摩墓碑

君姓首藤。諱俊秀。父首藤玄蕃。明應中。自紀來讃。屆香西氏。食采鷲田。居城片山。因氏焉。天
正十三年四月二十六日豐公七帥。以三万七千人。伐喜岡城。君及唐渡彈正援之。與高松
左馬助共守之。猛將勍敵蝟集攻之。激矢如雨。攢鋒成林。嬰城者二百餘人。兵盡力窮。三將
死之。嗟三子投命殉節。雖張巡許遠。何以加哉。銘曰。

其城可陷。　志不可奪。　義立守禦。　自沒鋒括。

讃州處士　菊池武賢撰

延命寺　眞言宗同村大字ニアリ萬壽二年僧仁海創立元祿十四年再營ス
妙覺寺　眞宗同村同大字ニアリ永祿年中草創ス境內古製弥陀ノ石像アリ往古此地
ニ寶林坊ト稱スル寺アリ其遺物ト云フ
總門跡　牟禮村大字牟禮ニアリ此處今小字ト爲リ總門ト云フ是レ平軍陣所ノ總門
ナリシカ平軍舟ニ乘リシ後源氏ノ總門トナレリト或說ニ總門ハ此地ヨリ少シ東南
ニ當リ今城戸ト呼フ地アリ蓋其所ナラントト凡源平合戰ニ關スル古跡桑滄ノ變或ハ
疑ヒナキニアラサルモ暫ク土人ノ傳フル所ニ依ル
射落畠　同村同大字總門ノ少シ東ニアリ佐藤嗣信ノ射落サレシ所ト云フ
佐藤嗣信墓　同村同大字王墓ニアリ此墓元ハ後ノ溜池ノ所ニアリシカ正保二年此
池ヲ築キシ時此地ニ移セリ時太刀一振ヲ得タリ之ヲ志度寺ニ納ムト云ツ寛永二十
年高松藩主松平頼重別ニ碑ヲ檀浦ニ建ツ東鑑ニ依レハ盛嗣忠光等下自船而陣宮門
前合戰之間延尉家人嗣信被射落畢トアレハ檀浦ニアリシモノ當時ノ地勢上ヨリ考
フレハ或ハ眞ノ墳墓ナルモ亦未タ知ル可カラス錄シテ以テ博雅ノ定論ヲ待ツ

嗣信古刀記

佐藤嗣信之墓　在我州三木郡牟禮郷。歳月久遠。石字毀滅。且其地畔鄙。人迹罕至。我先君英公。病其久而湮沒。命遷葬于同郷大墓東偏。新其墓碣。勒其姓氏。主役者。爲大西友信。承命之日。穿其墓。得古刀一口。長二尺有奇。獻之公所。有司謂。墓中之物。不宜藏公府。廼命賜友信。友信命工砥礪之。霜鋒氷刃。奇鋒異摸。蓋非尋常之物。友信無子。傳於其妹。其妹嫁山口某。某者亦傳之其女。嫁夏目某。以故遂爲夏目氏之有焉。夏目氏第四子。曰玄家。常服之。一日視諸湯淺某。湯淺善相刀。一見大驚曰。希世之神物。殆是五六百年之物。吾多相刀。未嘗見如此者。惜乎久埋地中。不見日月光。神氣殆盡。不知何人所作也。然精質沉光。大出於尋常名工之上。玄家驚其神鑒。廼告以得刀之所由。遂以爲非是常服之器。乃筥之。襲之。深藏以爲寶。友信者余大父兄。以故與夏目氏有通家之好。玄家嘗語余曰。我家藏嗣信之古刀。市井中即有水火盜竊之患。使奇寶永湮滅。大可惜也。顯藏之名藍高刹。使其長免水火盜竊之患。君爲謀焉。余曰。善。一日侍公。語次及此刀。公忝命覽之。曰。此神物。宜藏名山。按當時託其葬者。志度寺僧也。藏之志度寺。可矣。余退以公言告玄家。玄家曰。忝得公命。藏之。此器之靈。赫赫乎。後世也。何止免水火盜竊而已哉。遂藏志度寺。令余記其事。寶暦丙子七月旣望。

大夫黒墓　同村同大字嗣信ノ墓側ニアリ此馬ハ藤原秀衡ノ義經ニ贈ル所ニシテ淡

後藤世鈞識

墨ト名ケシカ義經五位尉ニ任セラレシニ依リ大夫黒ト改メシニ屋島ノ役佐藤嗣信ノ戰死ヲ哀ミ此愛馬ヲ志度寺ニ送リ以テ吊祭ノ料ニ充テシカ或時逸走シテ嗣信ノ墓前ニ斃ルヲ以テ此所ニ葬ルト云フ或ハ謂フ鎌田光政嗣信ト同時ニ戰死セシヲ此所ニ葬リシ其墓ナリトモ云フ

栄切地藏薙刀井戸　同村同大字ニアリ武藏坊辨慶此石地藏ノ背ニテ栄ヲ切リ義經ニ供シ又辨慶カ薙刀ヲ以テ堀リシ井戸ナリト云フ是皆土人ノ口碑ニ傳ハリシモノニシテ深ク信スルニ足ラス

瓜生岡　同村同大字薙刀井戸ノ東ニアリ源義經阿波ヨリ來リテ此岡ニ陣セシト云フ

土佐兵卒墓　同村大字大町鎧田ニアリ長曾我部元親六萬寺ニ失火セシ兵卒ヲ碎殺シ此所ニ葬ルト云フ

幡羅城　同村大字原字宮ノ前八幡神社ノ東ノ山上ニアリ此山ヲ房前山ト云フ原采女之ニ居ル

源氏峯　同村大字牟禮ニアリ源義經平軍ノ狀況ヲ眺望セシ所ナリ

田井城　同村同大字字岡ニアリ中村加賀守氏宗之ニ居ル弘治三年原采女ノ爲メニ

攻ラレ援ヲ十河氏ニ請ヒ之ニ克ツ天正八年此城災アリ當時ノ城主中村恒頼（後藏人宗ト改ム）弟宗貞及屬臣ト謀リ小城ヲ八栗山ニ築キ之ニ移ル

六萬寺　眞言宗同村同大字ニアリ聖武天皇僧行基ニ勅シテ之ヲ創立セシム一說ニ天平二年聖武天皇讃岐公高晴ニ采地六萬戸ヲ賜フ高晴大ニ喜ヒ寺ヲ本體村ニ建テ領内ノ民ニ一戸一軀ノ銅佛六萬ヲ作ラシム因テ六萬寺ト號スト孰レカ是ナルヲ知ラス嘉永二年平宗盛安德天皇ヲ奉シ當國屋嶋ニ移ル時此寺ヲ行在所ト爲ス元德元年高松頼重本地堂ヲ建テ貞治年間細川頼之金堂ヲ修シ又細川詮春禁榜ヲ建ツ天正十一年長曾我部元親此寺ニ陣シ其退陣ノ後火ヲ失シ堂宇寶物悉ク烏有ニ歸ス延寶六年其舊趾ノ一部分ニ堂宇ヲ再建シ僅ニ寺名ヲ存ス此地往々六萬佛ヲ土中ニ獲ルコトアリト云フ今現ニ此寺ニ三軀ヲ藏ス抑當時行宮タリシ時公卿此寺ノ柱障子等ニ和歌ヲ題セラルヽ事ハ閏十月三日ナリト云

嬉しくも遠山寺に尋ねきて後の浮世を洩しつる哉　中將重衡

いさゝらは此山寺に墨染の衣の色を深くそめなむ　阿闍梨祐圓

世の中は昔かたりとなりぬれと紅葉の色は見し世なりけり　但馬守經政

其和歌數多アリシカ此三首ノミ殘リシヲ天正十一年失火ノ時堂宇ト共ニ其遺蹟ヲ失ヘリ

白羽神社　同村同大字ニアリ文明中中村加賀守氏宗勸請ス天正十一年兵火ニ罹リシヲ明暦二年之ヲ再興ス

八栗城　同村大字八栗山七曲ト稱スル所ノ上方歡喜天祠ノ西邊ニアリ天正九年中村藏人宗ト田井城ヲ去テ此ニ移ル同十一年長曾我部氏ノ福將珠數掛孫兵衛久重一千騎ヲ率ヒ來リ攻ム山險ニシテ馬進マサルヲ以テ孫兵衛ヲ斃シ乃チ城兵突出ス土佐ノ軍大ニ乱レ殺傷算ナシ藏人衆ニ告テ曰ク今幸ニ克ツコトヲ得タルモ若シ大軍來リ迫レハ小城恃ムヘカラストテ去テ備前ニ奔リ宇喜多氏ニ依レリ

松井神社　同村同大字宮池ニアリ勸請年月詳ナラス三代實錄ニ元慶元年夏四月七日戊寅授讃岐國正六位上松井神從五位下トアリ

八栗山　同村同大字ニアリ一名五劍山ト稱ス海拔五十三丈七尺怪巖突兀分レテ五峰ヲ爲ス故ニ此名アリ其北端ノ一峯ハ永祿十一年五月霖雨ノ爲メ壞頽シ東端ノ一峯ハ寶永四年十月地震ノ爲メ折レリト云フ

珠數掛孫兵衛墓　同村同大字縣道ノ東ニ小祠アリ是ナリ近年マテ板ノ大木アリタ

ツト長曾我部氏ノ麾將ニシテ八栗山ニ戰死ス

八栗寺　眞言宗同村同大字ニアリ五劍山千手院ト號ス延曆中僧空海之ヲ創建ス極樂寺記ニ天長六年九月之ヲ建ツ孰カ是ナルヲ知ラス境内歡喜天堂アリ天和年中城州山崎勝尾寺以空之ヲ安置ス

願成寺　眞言宗庵治村ニアリ承和二年創立ス

庵治城　同村ニアリ逸見源左衛門之ニ居ル今ノ專休寺ノ下ニアリ土人其地ヲ城屋敷ト呼フ

專休寺　眞宗同村ニアリ創立年月詳ナラス初眞言宗ナリシカ文明中今ノ宗ニ改ム

櫻八幡神社　同村ニアリ極樂寺記ニ承平六年八月勸請同年九月置別當萬願寺トアリ

遠見山　同村櫻八幡ノ北ノ高峯ナリ高松藩ノ時狼火臺ヲ置キ又遠見番ヲ置キシ所ナリ

觀音崎　同村鎌野ノ北ニアリ四國中ノ最北端ト云フ石窟アリ觀音ノ像ヲ安置ス

延長寺　眞宗同村大字濱村ニアリ天正年中草創ス

祈石駒立石　共ニ牟禮村大字牟禮ニアリ祈石ハ那須宗高扇ヲ射シ時海中ニ突立セ

シ石ヲ故郷ノ產土神ニ擬シテ祈念シ又駒立石ハ其時海中ニテ馬ヲ立ツル石ト云フ祈石ハ桑滄ノ變今盡田ノ間ニアリ

屋嶋神社　潟元村大字東潟元ニアリ文化十二年五月高松藩主松平頼儀勸請ス明治六年九月縣社ニ列セラル

八幡神社　同村同大字ニアリ極樂寺記ニ承平六年八月勸請同年九月別當華嚴寺ヲ置クトアリ

屋嶋山　同村ニアリ其形屋宇ノ如シ依テ此名アリ往古ハ離嶋ナルモ今ハ唯相引川ヲ隔ツルノミ其東方ノ山麓ヲ壞浦ト稱ス源平二氏ノ古戰場ナリ山上古刹アリ南面山屋島寺ト云フ山上ヨリ瀨戸内海ヲ下瞰スル風景頗ル佳ナリ近時屋島保勝會ナルモノヲ起シ荊棘ヲ芟リ道路ヲ修シ游覽ノ人ヲシテ大ニ便利ヲ得セシム明治三十六年十月東宮殿下行啓ノ際此山ニ登臨シ給フ土人紀念トシテ一豐碑ヲ建テ題スルニ仰之ノ二大字ヲ以テス又獅子靈嵓不食梨經塚血ノ池等ノ勝アリ

屋島寺　眞言宗同村同山上ニアリ元此山ノ北峯ニ於テ孝謙天皇天平勝寶六年唐僧鑑眞創立ス後弘仁元年弘法大師今ノ地ニ移シ南面山千光院屋島寺ト號ス

屋島城　屋島山ノ北峯ニアリ或人云フ潟元小字壇浦ノ上方ニアリト日本紀ニ天智

天皇六年城ヲ讃岐國山田郡屋島ニ築トアリシハ是ナリ蓋邊警ニ備フルナラン

筑彦神社　潟元村大字屋島ニアリ相傳フ貞元二年十月朔官使物部乙嗣屋島山ニ登リ里人ヲシテ樹木ヲ伐ラシム筑彦祠震動シ風雷忽チ起ル乙嗣及從者咸震死スト云フ

相引川　同村大字西潟元屋島山ノ南麓ニアリ潮汐東西ヨリ來リ東西ニ去ル故ニ此名アリ生駒氏ノ時埋メテ鹽田ト爲セシカ松平氏封ニ就クニ及ンテ鹽田ヲ廢シ其勝跡ヲ存スト云

赤牛崎　同村同大字相引ノ西ニアリ源平合戰ノ時後藤兵衛實基赤牛二頭ヲ放チ海底ノ淺深ヲ計リシ所ナリ

地藏寺　眞言宗同村同大字ニアリ往昔僧行基ノ草創ナリシカ弘仁年中弘法大師之ヲ修理シ花藏院ト稱ス後破壞セシヲ文祿中僧良印山地刑部ト云者ト謀リ之ヲ再興ス

鵜羽神社　同村同大字ニアリ勸請年月詳ナラス破ニ草葺不合命降臨ノ地ニシテ豐玉姫八尋ノ殿ヲ造ルト言ヘル跡ナリト荒唐ノ言信スルニ足ラス

菊王基　屋島山ノ東麓壇浦ニアリ能登守教經ノ童菊王丸ノ戰死セシヲ此所ニ葬レリ

佐藤嗣信墓　同所ニアリ高松藩主松平頼重一碑ヲ建テ儒臣岡部拙齋ニ命シ左ノ文ヲ撰ハシム

維年壬午之夏。我君受封讃州。的爲維城助。確乎其忠貞眞可觀。一日講武之暇。泛蘭槳。飛彩鷁。奥歌越唱。遊遨屋島。偶覽佐藤嗣信墳墓。茲乃命下吏刊貞石。建新碑。表義旌貞。於乎君用意也深矣哉。嗣信決死于元暦之昔。而感人于寛永之今。奚其雄矣哉。乃命余作碑銘。遂書加左。曾若渠系諸藩。辰戌暦日月事跡。操行。舊記所載。前史所傳。歷々焉。章々焉。胡贅余言。於皇嗣信兮。挺于瀕死之場。洲恩致死兮。百世誰曰不剛。過盤當錯兮。顯千莫之雄鋩。識定膽壯兮。誠依教育有常。尤可稱光兮。維夫在將之良。建碑刊石兮。遺烈山高水長。

大砂子　同所ニアリ悪七兵衛景清三尾谷十郎ノ兜鍾ヲ引キシ所ナリ

春日神社　古高松村大字春日ニアリ天平年中久米寺草創ノ時勸請シテ伽藍ノ鎮守ト爲ス後今ノ地ニ移セリ相傳フ當國往々此祠アルハ往古藤原氏刺史タルモノ多シ故ニ民ヲシテ之ヲ祀ラシメシナラン

ラ來ルコト遠カラン

加滿利神社　同村同大字ニアリ今廢頽セリ猶田地ノ稱呼ニ加滿利又額ノ下床田神

主居跡等ノ名存セリ近世地ヲ掘リ古瓦或ハ石燈臺及大木ノ根等ヲ獲タリ

熊野神社　同村同大字ニアリ初紀伊ノ人大熊彌正ト云者之ヲ勸請セシヲ天正十年ノ兵亂ニ類廢シ其後之ヲ再興ス

善立寺　眞宗木太村ニアリ天文三年創立後兵火ニ罹リシヲ文祿元年再興ス

八坂神社　同村ニアリ社傳ニ曰正暦元年八月八日海上忽チ浮槎アリ流レテ入江ノ里（木太古名）ニ至ル槎上靈アリ土人之ヲ異トシ乃チ官ニ奏ス其夜里人夢ムルニ形チ夜叉ノ如ク頭ニ角ヲ戴キシモノ來リ告テ曰ク汝ノ僻能ク朕ヲ祀ランカ衆病悉ク除キ且壽ヲ得ント翌日里人相會シ其夢ヲ語ルニ一口ニ出ツルカ如シ是ヲ以テ祠ヲ立テ浮槎ノ至ル日ヲ以テ祭日ト爲シ其出現スル所ノ地ヲ影向家ト曰フ今猶田間ニ其名アリ其靈ヲ以テ酒ヲ釀セシニ辛甘相半ス後其甕大水ノ漂フ所ト爲リテ詰田川ノ下流ニ沒ス今其所ヲ名ケテ靈淵ト云フ

神内清定墓　同村八坂神社ノ北ニアリ本村ノ領主ニシテ越前守ト稱ス天正ノ亂ニ邑ヲ失ス

神内城　同村ニアリ白山權現ノ西南小川ノ西ニアリ其川ニ架セル石橋ハ此城ノ橋ト云フ神内右京進景之之レニ居ル

向城　同村神内城跡ノ東ニアリ眞鍋祐主之ニ居ル其墓天神社ノ西田間ニアリ

蛭子神社　同村小字夷ニアリ勸請年月詳ナラス相傳フ寛永以前此所マテ海濱ニシテ漁者多ク住セリ故ニ蛭子ノ祠アリト云フ近年マテ此所ヲ夷村ト云ヘリ然レハ此社ノ勸請上古ニアルヲ知ルベシ

小豆郡

土庄町　郡ノ西南ノ端ニアリ一小海峽ヲ隔テ、瀬崎村ニ隣ル郡内第一ノ繁榮地ナリ戸數一千〇六〇人口五千八百〇三（明治四十年末ノ現在）ニシテ一小市街ヲナシ郡役所警察署郵便局稅務署裁判所出張所盡務局出張所等アリ大阪岡山高松多度津ヲ往復スル汽船朝夕寄港スル吉ケ浦ハ本町ヲ距ル數町ノ西北ニアリ又高松ニ往復スル日本形郵船ノ發着所タル佛崎ハ數町ノ南ニアリ凡旅客ノ郡内ニ出入スルモノハ殆ント本町ニ集散ス其居民ノ產業ハ概ネ農商漁ニシテ醬油株式會社及小豆島銀行等アリ

加藤清正ノ遺品　豊臣秀吉ノ大阪城ヲ築クヤ其石材多ク之ヲ本島ニ徵ス該城追手門見附ノ巨石ハ土庄町字小瀨ニアリシト云フ當時奉行トシテ加藤清正西部ヲ管シ片桐且元東部ヲ管セリ加藤氏ハ土庄ノ郷正笠井氏ニ止宿セシカ去ルニ臨ンテ備前長船與三左衛門尉祐定ノ佩刀及珊瑚ノ珠數並ニ古墨一挺ヲ笠井氏ニ贈レリ笠井氏、

ノ子孫今猶之ヲ藏セリ

餘島　一小島嶼ニシテ土庄町ノ西南ニアリ乾潮ノトキハ徒渉スベシ周廻四十七町强ニシテ或ハ白砂青松ノ區アリ或ハ巉嵓絶壁ノ境アリ且眺望開豁ニシテ實ニ一仙寰タリ近時海水浴場ノ設ケアルヲ以テ避暑又ハ釣遊ノ爲メ來集ルモノ少ナシトセス

富岡神社　淵崎村ニアリ勸請年月詳ナラス社地丘陵ニ據リ遠キハ八栗屋島ノ諸山近キハ餘島土庄其ニ一眸ニ集リ佳絶ノ勝區タリ

銚子瀑　大鐸村肥土山ニアリ山麓ヨリ二十五町其水口五尺且崖上ニ突出スル數尺ニシテ直下スルモノ六十尺恰モ銚子ヨリ酒ヲ灑クカ如シ故ニ此名アリ其水ノ清キ其石ノ美ナル實ニ名狀スヘカラス此地ハ怪巖多ク綠樹深ク別ニ一天地ヲ爲ス是ヲ本郡三瀑ノ一トス

鑑山神社　池田村大字池田ニアリ勸請年月詳ナラス社地高燥ニシテ風景頗ル美ナリ秋季例祭ノ如キハ郡内ノ老幼四方ヨリ相集リ大ニ雜沓ヲ極ム

北條時賴ノ遺品　文應弘長ノ間北條時賴微服シテ天下ヲ周遊シ親シク民ノ疾苦ヲ問フ此時本島池田村字中山ニ來リ偶病ニ罹レリ同村八木大藏ノ母名ハ念々ナルモノ親シタ之ヲ看護ス時賴鎌倉ニ歸リシ後其母子ヲ召シ刀劍及邸地ヲ贈レリ後大藏沒セシカ他ニ其郎地ヲ奪ハムトスルモノアリ其弟覺音ナルモノ文永二年ヲ以テ之ヲ鎌倉ニ訴訴シ北條時宗之ヲ親裁シテ勝訴ヲ得タリ其書類今猶八木氏ニ存ス

鐸姫ヲ祭ルノ趾　池田村字蒲生ニアリ相傳フ應神天皇二十二年九月本島ニ巡幸アラセラレシ際甕盎五百ヲ造ラシメ以テ島鑒大野手姫ヲ祭祀セラレシ遺趾ナリ當時本村ハ戶數僅ニ二十七ニシテ其内ノ一戶該甕盎ヲ造ルニ從事セリト云フ今其遺跡ヨリ往々其甕盎破片ヲ出セリ

内海灣　灣内廣濶ニシテ深サ十一尋アリ二生三都西村草壁安田苗羽ノ諸村此灣ヲ廻リテ其位置ヲ爲ス西南ニ灣口アリ抑此灣ノ碇泊ニ便ナル其名遠近ニ聞エ是ヲ以テ内外ノ軍艦其他風雨ヲ避クルモノ常ニ多シ此地ハ天武天皇第一ノ皇子草壁王ノ御名代地ト定メ給フコトアリ

古歌ニ

内海の入江の波も御名代の昔戀しみ立歸るらじ

明治二十三年四月十八日今上天皇吳佐世保両軍港ヘ行幸ノ途次本灣ニ御寄泊アリ翌十九日御艦將ニ拔碇セラレントスルノ際恰モ濃霧冥濛咫尺辨ス可カラス二

十日ニ至リ漸ク御發艦アリ爾後島民ハ御寄泊ノ事跡ヲ永久ニ傳ヘムコトヲ期シ御眞影ヲ拜戴シ毎年四月十八日ヲトシ御寄泊紀念式ヲ擧行スルヲ例トセリ後明治三十八年十一月十二日西村字清水ニ六百歩餘ノ地ヲ畫シ御寄泊紀念碑ヲ建設ス

碑面

御製

思ひきやあつきのしまの朝きりにゆくさきみねすなりはてむとは

宮內大臣從二位勳一等伯爵土方久元謹書

碑陰

撰者

上　巡視吳佐世保兩軍港。御艦泊於小豆島者二夜。島民以爲千載一遇。爾後每歲。擧追念之式云。頃者郡長某。代島民請宮內大臣土方伯。寫當日　御詠。建碑勒之。請琢記其陰。以伯與琢當時同扈從也。乃爲銘曰。

維時明治。二十三年。御艦巡視。將幸西遍。四月十八。午發神邊。次小豆島。島民榮旅。扶舞後后。於陸於船。嵩呼萬歲。奉迎爭先。燈光煌々。旗彩翩々。明早霧合。艦不得前。維纜二日。士人獻餼。霧散艦行。海橫群烟。爾後每歲。相集周旋。擧追念式。岡郡致虔。御彩特賜。郡衙高懸。御製謹寫。貞珉深鐫。衆庶景仰。聖德如天。咸曰此式。後昆永傳。因介郡長。請記由緣。郡長爲誰。姓森名遷。久居其職。衆心淸堅。爲之銘者。秘翰藍田。

明治三十年四月

文事秘書官正四位勳二等股野琢撰並書

明治三十二年十月二十三日東宮殿下西巡ノ途次御寄灣アリ直ニ御上陸神懸山ノ麓ニ於テ御游獵ヲ爲シ給ヘリ其後同三十八年十二月十四日及同三十九年五月十日吳軍港ヨリ還啓ノ途次御假泊アラセラレ又御上陸アラセラル

本灣ハ上段ニ述フルカ如ク獨リ艦船ノ碇泊ニ便ナルノミナラス每回御寄泊ノ恩榮アラシムル實ニ本島ノ名譽ト謂フヘシ且其風光ノ如キ翠巒碧巒影ヲ波心ニ倒シ風帆漁艇其上ヲ往來シ漁歌相和シ櫓聲相應ズ山水ノ双美自カラ名狀スヘカラサルモノアリ

片桐且元ノ遺品　加藤淸正ト同時ニ採石ノ奉行トシテ本島ノ東部ヲ管セシ時本村菅茂次郎ノ家ニ宿セシカ去ルニ臨テ蒔繪ノ印籠ヲ主人ニ贈レリ子孫今猶之ヲ藏ス

神懸山　草壁村大字上村ニアリ山麓ヨリ三十町ヲ鉤懸又ハ浣花溪又ハ寒霞溪ト稱ス相傳フ應神天皇行幸ノトキ索ヲ以テ鉤ニ維キ樹石ニ懸ケ以テ山頂ニ達シ給ヒシト故ニ此名アリ此地ハ關西ノ名區ニシテ峰巒奇絶緑樹其間ヲ綴リ澗水其下ニ流ル一歩一景自カラ溪山ノ勝ヲ極ム四時其觀ニ富ムト雖モ晩秋ノ候楓葉霜ニ飽キ滿山錦繡ヲ展ルノ時ヲ以テ游覽スルモノ最多シ成島柳北ノ記文ハ能ク其狀況ヲ盡セシモノヽ如シ今其記文ヲ譯シ且之ヲ摘錄シテ以テ證ス

夫レ天下ノ名山多シ然レトモ其奇石靈妙ナル鉤懸ノ如キ者ハ余ノ未タ嘗テ見サル所ナリ其山質皆石ニシテ峻峰巉巖相對峙シ劍ノ如ク門ノ如ク怪獸翔禽ノ如ク其奇景名狀スヘカラス而シテ山中雜樹稀ニシテ翠松紅楓相映シテ深澗飛瀑ノ間ヲ點綴シ一歩一景變幻極リナク其頂ニ到レハ四顧皆海ニシテ讃阿ノ山水播備ノ城市歷々雙眸ニ攬ル眞ニ宇内ノ絶勝ナリ余ノ斯山ニ登ルヤ實ニ明治二年十月某日ナリ蕭時歡首アリ今其一ヲ錄シテ證トス

絶勝鉤懸天有私丹青難寫況文詞半生憐我煙霞癖未識溪山若個奇

石門　同村同大字ニアリ山麓ヨリ二十町巍嵓聳立自カラ巨門ノ狀ヲ爲ス其天工驚クヘシ

星城　安田村ニアリ神懸山ヨリ東三十町ニシテ一郡中ノ高山ナリ其頂山ニ登レハ南海山陽ノ諸山歷々眼中ニ落ツ其眺望壯絶ナリ二祠アリ一ヲ東峯神社ト稱シ一ヲ西峯神社ト稱ス此山ハ備前飽浦ノ城主南朝ノ將佐々木信胤城郭ヲ築キ地方ノ士ヲシテ之ヲ守ラシメ方士城ト名ケシト云フ近時陸軍一等三角點標ノ建設アリ

飽浦信胤墓　同村大字安田小字植松ニアリ碑陰左ノ文ヲ刻ス

信胤姓源氏其先江州而以佐々木爲氏元暦三年三郎盛綱爲于將軍秋伐平氏於備前兒島則爲藤戸之先渡也於是恩賜兒島郡故子孫分處于兒島之飽浦因謂佐々木三郎左衛門飽浦信胤曆應三年南朝延元三年來于小豆嶋而後卒則葬此云有故而記

安田村　岡田利和

内海神社　苗羽村大字苗羽ニアリ社地丘岡ノ上ニアリ宏壯ニシテ樹木鬱蒼タリ勸請年月詳ナラス

田中綏猷墓　福田村大字福田ニアリ明治二十六年其孫田中綏秋來リテ此墓標ヲ建設シ同三十二年六月九日哀悼ノ碑ヲ建ツ碑ハ墓地ヲ距ル四町朋ノ山腹ニアリテ播磨洋ヲ隔テ遙ニ京都ニ面セリ宮内省此建碑ノ舉ヲ贊セラレ特ニ金壹百圓ヲ下賜セラル

東宮侍從長正四位勳四等侯爵中山孝麿題辭贈正四位田中君父子哀悼碑

卒先天下。首唱大義。激勵西藩。謀回皇運。志業中道而蹉跌。空遭虐殺。如田中君父子。豈可堪哀悼哉。君諱綏猷。字士德。號恭堂。稱堅二郎。以文化十二年乙亥生。于但馬國出石郡香住村。世醫小森正造之第二子。母三谷氏。君始受業井上靜軒。天保六年乙未。入山本亡羊門。十四年癸卯。承中山大納言臣田中近江介之嗣。任河內介。叙六位。爲人慷慨。氣節夙抱尊攘之志。有列諸嘉猷。號東郊。稱瑟磨介。好賦詩。志氣頗類父。嘉永六年癸丑海警亟動。天下釋願。君獻書於大納言。說尊攘大義。文久二年壬戌二月。君拉男赴鎭西。與眞木和泉平野次郎小河弥右衛門等。締交。進入薩摩。大久保市藏等數人。邀待君。告叙意在攘夷。士氣大振。相結而歸京。幕吏稍疑。君形迹。君往大阪。傳檄於西海。告事迫。志士來聚數百人。蓋欲要島津三郎舉事也。不幾三郎至。姬路。君上書。切請討幕攘夷。三郎諭慰遣還。躬先入京。旋陽明家謀事。朝議旅。其暴舉。却使三郎任鎭撫。時在阪薩士有馬橋口等。得報激昂。至伏見寺田屋。君父子與列藩士會。此以四月廿三日。將一舉入京。三郎聞急。遣其臣江夏大山等。諭有馬等不可。格鬪殺傷。事起于不意。君被誘與列藩士入京。至藩邸。皆遭拘禁。君父子特送于鹿兒島。五月朔日。西下。此夜暴風雨。船比過淡路海。有人捕君父子。縛手柳足。鑑殺投海。其屍爲風浪所漂。翌日着小豆島福田村濱。大庄屋三木權左衛門。年寄三木貫湖。鵜野新藏百姓代高木又兵衛等。報之倉敷代官所。經臨檢。而密遣于濱。君時年四十八。嘉猷十七。王政維新之後。朝廷追悼勳王殉難諸士。遂祀君靈於靖國神社。特贈正四位。賞表其忠烈云。西村徵藏與林孚一。謀欲建碑不果而歿。小豆郡長森遷。權其志。與故老謀。蓋植碑。請文予。乃序事繫以辭。

逆浪上沙留二屍。風雨曉見血淋漓。島人具狀巡檢使。殘忍酷虐誰所爲。
復土經年人登敬。河州義烈舉世知。吾擬爲君起逸事。筆澁神傷熱淚垂。
精忠苦節呑恨死。即是王政中興基。祀典方享靖國社。青山萬古一片碑。

明治二十八年四月

從二位勳二等子爵品川彌二郎撰文

茸田神社 同村同大字ニアリ物請年月詳ナラス老樟無數祠宇ヲ圍繞シ一見其古祠タルヲ知ル

仙厓瀑 同村ニアリ山麓ヨリ十五町其幅七尺高六十尺巖石ヲ重ヌル五層每層噴沫珠ヲ飛シ霧ヲ吐キ其奇景名狀スヘカラス若シ一朝大水瀉下スル時ハ其嵒層ヲ沒盡シ一面ニ奔降スル眞ニ銀河九天ノ觀アリ且晩秋ノ候綠樹紅楓互ニ相映帶シ更ニ一段ノ觀ヲ添フ是亦本郡三瀑ノ一トス

鳴瀧 北浦村大字小海ニアリ幅員八尺高四十尺嵒石層々水ノ奔下スルモノ潴テ潭ヲ爲ス其深サ四尋餘之ヲ於玉ケ淵ト云フ亦本郡三瀑ノ一ナリ

小江港　四海村ニアリ本村ト沖ノ島トノ中間自カラ海峡ヲ爲シ境モ船舶ノ碇泊ニ便ナリ土人之ヲ小江ノ瀬戸ト云フ山光海色天然ノ一大畫幅ヲ展ルガ如シ備前邑久郡牛窓町ト日々郵便船ノ往復アリ

伊喜末神社　四海村大字伊喜末ニアリ社地丘岡ノ上ニ在テ高ク海濱ニ臨ミ青松白砂ト相映帶シ眺望頗ル佳ナリ

本郡ノ寺院ハ眞言及眞宗ノ二宗ノミニシテ古刹ノ見ル可キモノナシト雖モ眞言宗ノ靈場ヲ四國八拾八ケ所ニ擬シ貞享三年始テ本島中ニ八十八ケ所ノ靈場ヲ設ケシヨリ爾來之ヲ巡拜スル者四時絶ヘス就中春夏ノ交日ニ幾千人ノ往來アリテ笠影相接ス實ニ本郡ノ一大特色タリ是ヲ以テ此靈場ヲ各村ノ下ニ繫ケス特ニ之ヲ別與シ番號ヲ付シテ以テ巡拜者ノ便利ニ備フ

番號	本尊	寺堂名	所在
一	毘沙門	洞雲山	坂手村

嵐洞アリ深サ九十尺極所小窓ヲ穿チ此ニ本尊ヲ安置ス其天工實ニ人造ノ及ハサルモノアリ且巨松老杉洞頭ニ繁茂シ靈潤其暗キヲ覺フ

番號	本尊	寺堂名	所在
二	不動	巻石山	苗羽村苗羽

奇石怪嵐龍蟠虎踞洞アリ窟アリ且嵐上平坦ノ所數百ノ瘻痂ヲ點シ其色黑キアリ白キアリ恰モ巻子ヲ散布セシカ如シ故ニ巻石山ノ名アリ

番號	本尊	寺堂名	所在
三	觀音	觀音寺	坂手村

峯山ト號ス

創建年月詳カナラスト雖モ本尊ハ保元年間海中ヨリ出現セシモノト云フ此寺ニ奥院アリ峯山又日向ノ瀧又東ノ瀧ト稱ス弘法大師一夜ノ建立ト云フ此地亦嵐石嶮峻トシテ頗ル眺望ニ富メリ阿淡海峡ノ鳴門及白島津田ノ松林萬頃ノ蒼波ヲ隔テ歷々遠眸ニ入リ大角ノ岬角風ノ子嶼ハ近ク目睫ニ接ス猶且境内櫻花多ク又嵐上時ニ群猿ノ來集スルヲ見ル

番號	本尊	寺堂名	所在
四	阿弥陀	古江庵	苗羽村古江
五	仝	上堀越庵	仝　堀越
六	仝	上田浦庵	仝　田浦
七	仝	上向庵	仝　苗羽

八	藥師	常光寺	仝
九	不動	庚申堂	仝
一〇	愛染	芦浦庵	仝
一一	觀音	馬木堂	仝
一二	地藏	岡ノ坊	安田村安田
一三	阿弥陀	栄光寺	仝
一四	地藏	清瀧山	仝

栄光寺ノ奥院ニシテ山麓ヨリ十八町怪巖壁立深樹鬱蒼幽邃閑雅ノ勝地タリ

一五	大師	大師堂	安田村木庄
一六	阿弥陀	極樂寺	草壁村片城

來迎山ト號ス弘仁六年弘法大師ノ開基ニシテ本尊ハ三國傳來ト云フ貞永元年萬治元年文化二年三回ノ火災ニ罹リ伽藍堂宇都テ灰燼ニ歸セリ後之ヲ再興ス大師自ラ掘レル所ノ阿伽井アリ

一七	藥師	一谷庵	仝　上村
一八	地藏	東山庵	仝
一九	藥師	上藥師	仝
二〇	藥師	下藥師	仝　下村
二一	不動	清見寺	仝

法界山ト號ス天平年間僧行基ノ開基ト云フ

二二	觀音	峰ノ庵	仝
二三	釋迦	本堂	仝　内海眞言宗結衆ノ會所ナリ
二四	觀音	安養寺	西村日方

摩尼山ト號ス寛文六年再建ス

二五	藥師	誓願寺	仝
二六	阿弥陀	阿弥陀寺	仝

影現山ト號ス元祿年間再興ス明治三十九年五月十日東宮殿下呉港ヨリ還啓ノ途次内海灣御假泊ノ際西村竹生ニ御上陸御散歩中本寺ニ入ラセラレ暫時御休憩ノ榮ヲ博セリ

二七	觀音	櫻ノ庵	仝	
二八	藥師	蒲野庵	三都村蒲野	
二九	大師	風穴庵	仝	神浦

堂ノ後方一尺餘ノ岳穴アリ四時風ヲ生シ盛夏ニハ最モ涼風ヲ送レリ

三〇	大日	正法寺	仝	吉野
三一	阿弥陀	誓願寺	二生村二面	妙見山ト號ス
三二	愛染	愛染寺	仝	室生
三三	大日	長勝寺	池田村池田	金室山ト號ス
三四	不動	不動堂	仝	金陵山ト號ス
三五	阿弥陀	保壽寺	仝	

元別當ヲ以テ長勝寺ニ合ス

三六	釋迦	釋迦堂	仝	

元高寶寺ト號ス

天文二年ノ棟札ヲ存ス

奉新建立。高寶寺一宇。右趣旨者。奉爲金輪聖王。天長地久。御願圓滿。特者大願主。大檀越。并奉加大願主源朝臣元安法名盛椿人等。現世穢無比樂。當來遊九品之蓮矣。別者庄中泰平。萬民快樂耳。並願人家能大工賀茂吉家。小江藤原家次。天文第二癸巳年十月十八日

延寶八年會座堂ト改稱シ池田結衆ノ會所トナリ目今明王寺ニ屬シ釋迦堂ト號ス抑此寺本堂ノ構造裝飾ハ頗ル古式ノ美術ニ適スルヲ以テ内務省告示特別保護ノ部ニ屬セラル

三七	不動	明王寺	仝	洞雲山ト號ス正寶中興復ス
三八	不動	光明寺	仝	隨雲山ト號ス元祿中再興ス
三九	地藏	地藏堂	仝	
四〇	觀音	保安寺	仝	蒲生 隨光山ト號ス

建治年間ノ古鐘及年暦不詳ノ古瓶(經緯共一尺古色蒼然)アリ弘法大師傳來ト云フ

四一	藥師	藥師堂	仝	
四二	觀音	瀧水寺	仝	池田太麻山ト號ス

虹ノ瀧又西ノ瀧ト稱ス蓋東ニ日向ノ瀧又東ノ瀧アルヲ以テナリ山麓ヨリ十八町嵓洞中ニ本尊ヲ安置ス嵓下涌泉アリ千古斷ヘス且眺望太佳ナリ

四三	阿弥陀	淨土寺	仝	中山
四四	觀音	湯舟庵	仝	

應永年間飽浦信胤ノ草創ト云フ按スルニ信胤ノ別莊ヲ移セシモノナラン(緣起ニ詳ナリ)庭下涌水アリ田九町餘歩ヲ養フニ足ル綠樹鬱鬱乾坤自ラ別ナルカ如シ

四五	地藏	地藏寺	仝	四明山ト號ス
四六	藥師	多聞寺	大鋸村肥土山	栂尾山ト號ス

初東林坊ト號セシモ文龜年間多聞寺ト改ム

四七	觀音	椙尾庵	仝	赤松園心ノ守本尊ト云フ
四八	大師	毘沙門堂	仝	
四九	地藏	萬願寺	淵崎村上庄	
五〇	大師	藥師堂	仝	
五一	觀音	觀音堂	仝	寶生院ニ合ス
五二	阿弥陀	寶幢坊	仝	淵崎 仝上
五三	不動	本覺寺	仝	上庄 喜多山ト號ス
五四	地藏	寶生院	仝	皇跡山吉祥寺ト號ス

應神天皇行宮ノ遺趾ナリ柏樹アリ周圍四十七尺高六十尺當時天皇ノ手栽セラルヽ所ト云是レ此山號アル所以ナリ抑本院ハ大覺寺派ノ内本山ニシテ地域ノ廣濶堂宇ノ壯麗ナル郡内第一ノ巨刹トス且古書畫ノ所藏頗ル多シ

五五	觀音	觀音堂	仝	淵崎
五六	大師	行者堂	仝	

五七	地藏	淨源坊	仝	
五八	觀音	西光寺	土庄町	王子山ト號ス

弘安年間僧增密ノ創建スル所

五九	地藏	天神山庵	仝	
六〇	阿弥陀	藤ノ庵	仝	鹿島
六一	辨財天	江洞庵	仝	柳
六二	阿弥陀	小瀬庵	仝	小瀬
六三	阿弥陀	大木戸庵	仝	大木戸
六四	觀音	觀音堂	仝	
六五	阿弥陀	光明庵	淵崎村淵崎	
六六	阿弥陀	阿弥陀堂	四海村伊喜末	
六七	釋迦	釋迦堂	仝	元別當瑞雲寺
六八	藥師	松林寺	仝	南面山ト號ス

天平十年僧行基ノ開山ニシテ初長現寺ト號セシモ文祿二年朝鮮國王ヨリ豐太閤ヘ贈リ來リシ猛虎風浪ノ爲メ漂着セシヲ當山ニテ療養セシメタルコトアリ依テ一時虎溪寺ト改メ後今ノ寺號ニ改ム猛虎ヲ療養セシ遺跡ハ虎濱又ハ虎屋敷等ノ名ヲ存ス緣起ニ詳ナリ

六九	藥師	藥師堂	仝	小江
七〇	阿彌陀	長勝寺	仝	長濱 曜榮山ト號ス

創立年月詳ナラス元祿年間再建ノ際赤穗ノ義士大石內藏助ノ舊宅ヲ購ヒ以テ修補セリト

七一	阿彌陀	阿彌陀堂	仝	瀧宮
七二	阿彌陀	瀧湖寺	大鐸村笠瀧	萬年山ト號ス

奥院アリ不動ヲ安置ス眺望太タ佳ナリ

七三	觀音	觀音堂	仝	小馬越
七四	觀音	圓瀾寺	仝	黑岩 千光山ト號ス

七五	不動	大聖寺	北浦村馬越	巨海山ト號ス
七六	不動	金剛寺	仝 屋形崎	北寶山ト號ス
七七	釋迦	歡喜寺	仝 見目	帝應山ト號ス

元豊島村ニアリテ寶治坊ト號セリ僧增辨ナルモノ此ニ移シ歡喜寺ト改號ス文祿年間ノ興復ナリト云フ

七八	觀音	雲石庵	仝 小海	
七九	藥師	藥師堂	大部村田井	
八〇	觀音	觀音寺	仝 大部	海潮山ト號ス

奥院アリ堀拔觀音ト號ス

八一	不動	四門瀧	仝 小部	

山麓ヨリ十七町此境亦怪嵒奇石或ハ洞ヲナシ或ハ門ヲ爲ス且添フルニ危樓棧亭ヲ以テス播備ノ海山皆盡ク一碑ノ下ニ來リ集ル

八二	藥師	吉田庵	福田村吉田	
八三	藥師	福田庵	仝 福田	
八四	觀音	雲海寺	仝	洞口山ト號ス
八五	阿彌陀	神宮寺	仝	元別當寺ヲ以テ雲海寺ニ合ス
八六	阿彌陀	當濱庵	安田村當濱	
八七	觀音	岩谷庵	仝 岩谷	
八八	地藏	橘庵	仝 橘	

香川郡

石清尾八幡宮　宮脇村ニアリ延喜十八年ノ創祀ニシテ貞治年間細川頼之之レヲ崇信シ祠宇ヲ修造ス生駒近規首府ヲ高松ニ定ムルニ當テ大ニ之ヲ增築シ且社領ヲ寄附シ高松ノ產土神トス後松平頼重封ニ就キ更ニ社領ヲ增附シ社殿ヲ修繕ス社地二千四百餘坪神庫中寶物多シ其最ナルモノハ細川頼之ノ制札應安四年ノ年號アルモノ及其寄附ニ係ル螺鈿菊花摸樣ノ馬鞍細川清氏ノ征矢松平氏累世寄附スル所ノ甲冑等トス毎年九月十五日大祭ヲ執行シ四月二日三日（近年五月トス）小祭アリ古來此小祭ヲ右馬

頭市ト云フ今ニ近郷ノ民相集テ農具ノ市立ヲ爲ス傳ヘ云フ右馬頭頼之細川清氏ヲ阿野郡高屋ノ城ニ伐チ此日ヲ以テ凱旋シ臨時祭ヲ行フニ歸因スト云フ

龜山　石清尾神社ノアル所ナリ東ハ宮脇村ニ面シ龜山又龜尾山ト云フ俗ニ傳フ此山一根百丈ノ蕃ヲ生シ下ニ靈龜アリ因テ龜山ト稱ス或ハ云フ往古龜山天皇ノ奉祀所アリシヲ以テナリト

行泉寺　天台宗同村ニアリ往古ハ東濱村森本宮（今槻本神社ト改稱ス）ノ別當ニシテ眞言宗タリシカ延寶四年今ノ宗ニ改ム

克軍寺　天台宗同村ニアリ本門壽院ト稱ス天長九年九月智證大師ノ草創ニシテ十七檀林ノ一ナリ初メ延壽院金剛寺ト號ス後今ノ寺號ニ改ム中古興廢詳ナラス天正年間火災ニ罹リ寛永八年十一月生駒高俊再興シ克軍寺ト號ス慶安四年松平頼重本堂及護摩堂ヲ建築シ德川氏歷代ノ靈牌ヲ安置シ寺領百石ヲ寄附ス

龜石　西濱村田ノ中ニアリ其狀龜ニ似タルヲ以テ云フ

西方寺　淨土宗同村ニアリ延寶元年創立境內及境外名士宿儒ノ墳墓多シ

靈源寺　禪宗栗林村ニアリ延寶四年六月高松藩主松平頼常草創ス當初ハ頗ル大寺ナリシモ近來廢頽僅ニ其名ヲ存スルノミ

稻荷神社　同村ニアリ寛保三年松平頼恭勅請ス今高松市天神前ニ奉祀スル中野天滿宮ハ往古此地ニ鎭座スト云フ

槻本神社　同村大字上ノ村字槻ノ上ニアリ古老ノ口碑ニ依レハ往古ヨリ笑原郷ニ鎭座シ頗ル大社（延喜式神名帳ニ正六位上天津高結槻木池神社（坐二讃岐國一）奉レ授二從五位下一）ナリシカ往古香東川暴漲ノ時祠宇流失シ僅ニ神體ヲ存セシヲ或森林中ニ一小祠ヲ建テ世人之ヲ森本神社ト稱セリ後石清尾八幡宮ノ境外末社ニ列セシカ明治十一年十月二十三日信徒ノ請願ニ依リ往古ノ如ク槻本神社ノ稱號ニ復シ獨立シテ準村社ニ列セリ

栗林公園　同村ニアリ元高松藩主松平頼重寛永年間之ヲ創設シ以テ別墅トス後第五世松平頼恭ノ時延寶年間ニ至リ始テ完成ス面積十六萬五千百十餘坪トス明治八年名東縣管轄中權令古賀定雄內務卿ニ稟議シ以テ公園トス高松老儒山田勝次栗林公園碑記アリ左ノ如シ

方今大政一新文明爲理開化是務或事創于絕域万里之外法出于先聖一成之後者苟有從於生民而便於事爲則有取焉於是乎百官勤職四民樂業天下殷々然日富昭運矣夫人有斯勞而有斯逸有斯苦而有斯樂有以凝則又有喜有以鬱則又有舒一張一弛以爲優佚之資且可以節宣氣體而除却疾病此西洋諸國所以置園囿游觀之地也歟我朝

府縣近者亦往々有公園之設公園者不獨有諸官與民共之之謂隨所使人時游觀節勞逸之處也高松南部坂田鄕栗林莊在爲展山面野規模宏闊頗稱勝景住區蓋爲藩侯松平氏別業昔在寛永年間藩祖英公嘗就先封生駒氏臣佐藤道益居趾所親築歷節惠二公而大備至穆公益加修治聽政之暇時從儲臣而遊殊恣林泉賞因選其勝各定之目或題之詩蓋有六十景云園舊有三門二向東一水外繞萬竹內圍有路可入曰鄰口是爲北門由是而進東南引水而瀦右曰潺湲池左曰芙蓉沼亭泓可鑑者爲西湖循湖而南有百花之圃有儲竹之岡有憂玉之亭今廢其西曰鹿鳴原其東曰睡龍潭潭東紆餘爲灣水波渺然小艇浮焉長橋架焉可以括一園勝槩者爲南湖其中有楓嶼杜鵑嶼皆因所植以得名又有天女島塔尖上聳各占景象湖水活流常盈故旱乾有餘五村諸田皆賴其利鯉鮒多殖近又移魚苗數万殆致於物之盛矣傑搆枕湖波光瀲灩檻者爲掬月亭今猶巍存秀色突兀與亭相對者爲飛來峯過其麓而南有噴泉瀉出石間琮琤有聲可矼而涉北過棧道得一溯曰玉溯又北有高峰獨立曰芙蓉峰有石如獻曰飛猿巖乱石峙列者曰會仙岩有亭可憩曰考槃曰棲鸞有堂可會賓設讌旁多櫻花因名曰留春之閣亦皆廢曰北湖曰涵翠池即南湖下流別爲派者池北有鳳尾搗鎖蕉蕨生蒼翠可愛此園之大致也蓋此莊侯家相傳且二百年矣後及藩世縣鞠爲茂草者又數年于茲矣今也官修廢而新之舉爲公園於是亭閣榜腐柱蠹因之傾陊者率行毀撤林木幹朽枝枯殆將顚仆者或加斬伐景趣豁然略復舊觀矣今茲明治八年三月修繕竣功逢官貴族下至士庶咸聽春秋佳日入園徜徉而縱游焉夫然後勞者以逸苦者以樂憂以喜鬱者以舒而更令游者自忘公與私嗚呼何其王道之蕩々乎顧游樂豈非治道之大者耶而與民不同樂則百姓爲之離散臺地園囿何與平治之事乎而與民借樂則周文之治弗之過也余深感政理之有由而興廢之有時且慶斯園之永與天地不壓矣因謹爲之記

上村城　同村大字上村ニアリ唐渡彈正之ニ居ル天正十三年四月喜岡城ニ於テ戰死ス

中村城　同村大字中村ニアリ吉田玄蕃之ニ居ル今ノ澁柿地藏ハ其墓所ナリト云フ

多賀神社　東濱村ニアリ創建年月詳ナラス仙石秀久之ヲ勸請スト

佐藤城　太田村ニアリ佐藤彌七郎居ル天正十一年勝賀城ニ於テ戰死ス

鹿ノ井　同村ニアリ大旱ト雖モ涸レス相傳フ往古大旱水泉皆竭キシ時鹿來テ角ヲ以テ之ヲ穿チ須臾ニシテ清泉湧出ストト土人ノ口碑アリ

光臨寺　眞宗同村ニアリ創立年月詳ナラス元天台宗ナリシカ大永年間今ノ宗ニ改ム

西法寺　眞宗同村ニアリ創立年月詳ナラス元天台宗ナリシカ明應年間今ノ宗ニ改ム

鶴尾神社　鷲田村大字坂田字北山裏ニアリ大同年中創建ス元慶三年鎮鶴ノ瑞アリ依テ鶴尾八幡宮ト稱ス仁和中國司菅原道眞之ヲ土井原ニ率祀ス（土井原ハ今ノ地ヨリ七八町東南ニアリ）故ニ此社ヲ土井ノ宮ト稱セリ元祿寶曆ノ間並ニ移轉シ天明五年今ノ地ニ移ス

紫雲山　宮脇村ヨリ鷲田村ニ連亘ス俗ニ傳フ天平中僧行基來テ此山ニ宿ス紫雲山上ニ現ル因テ名ツク又山下ニ隨願寺（今轉シテ高松市七十間町ニアリト云ヒシ寺アリ觀賢僧正幼時此寺ニ游ヒシニ紫雲其上ヲ覆フ是ヲ以テ勅使藤原重秀勸メテ出家セシム故ニ此名アリトス）レカ是ナルヲ知ラス

室山城　鷲田村ニアリ眞鍋權頭之ニ居ル後太田犬養之ニ代ル室山ハ即紫雲山ノ一部分ニシテ其遺趾今猶栗林公園背後ノ山頂ニ存セリ

觀興寺　眞言宗鷲田村ニアリ昌泰二年五月弘法大師五世法孫觀賢僧正草創ス

高善寺　眞宗同村大字勅使ニアリ明應二年三月創立ス

一宮城　一宮村ニアリ田村大宮司桑某之ニ居リ香西氏ニ屬ス

田村神社　同村ニアリ延喜式內讃岐二十四社ノ一トス往昔正一位ヲ授ケラレ國中ノ一宮トシテ正一位田村大明神ト稱セリ社傳ニ據レハ元明天皇和銅二年ノ勸請ナリト云フ中世神佛同一ノ說ヲ以テ社寺ヲ混淆セシヨリ社傍大寶院祭祀ヲ司レリ高松藩主松平頼重神主社僧兩部ノ制ヲ廢シ純然タル神社トス明治維新ノ後國幣中社ニ列セラレ神庫寶物中神代矛一本古矛十本古鏡一個傳空海筆弘安七年神號ノ額長祿四年細川勝元ノ壁畫等アリ

讃岐國一宮田村大社壁書事

一每日御供無退轉加增分共以已刻已前可備之若致無沙汰於當番之輩者就注進之交名可處罪科事

一社領沽却事賣人云買人云共可處罪科事

一神官等一跡相續之外於庶子等段歩不可讓之雖爲實子無器用者可伺之事

一供僧職一跡相續之仁躰外段歩不可讓別人縱雖爲弟子分無器用者可伺之事

一神事並諸講會於社頭勤行之次每夜之燈明自本社至末社無懈怠可致其沙汰若有無沙汰者就注進可處罪科事

一毎月上旬下旬當番之間兩官致別火精進潔齋不相交自餘之族而可令祗候社頭若有無法之義者就注進可處罪過事

一神子供僧等當番之時不去社頭可致掃除於懈怠之輩者不及注進可處罪科事

一供僧等各於坊舍拂持佛堂朝暮致勤行可抽國家安全之祈禱於不持戒之輩速可令退出社家事

一於步射頭役者任先例猿樂白拍子可勤之事

一每年三月十五日一切經會之舞兒兩官神官並供僧等爲奔走可雇之同於舞童伶人神事等者爲料所役二和尙可勤之至無沙汰之輩者改彼職可任別人事

一社頭內外於掃除者兩官神官並供僧等每月三度無懈怠可令勤行若於無沙汰之輩者交名可令注進事

一伐取社邊竹木事殊更兩官被官人等任雅意條頗招咎歟堅可禁制猶以有違亂之輩則可處罪過事

一神官供僧神子神人等可令停止博奕若於違亂之輩者可追放社家事

一當社法樂之千句田事神主權官一和尙致三方相論之間於寶前取御鬮之處各不取中之由社家奉行依注進彼料田爲無主之地可爲每年不闕千句遇歌料所之旨定置之上者聊立選而雖競望曾不可許容事

一奉初社頭至坊舍並社邊在家等日夜可致火難之用意聊於無沙汰之輩者可處罪科事

一於社邊不可放牛馬若有違亂之輩者忽可處罪過事

一朝暮之鐘懈怠云云所詮爲兩官定置之承仕可令勤之於無沙汰者可處罪過事

一於社內諸軍勢並甲乙人猿樂白拍子雖爲一夜不可寄宿事

一至神主職者任先規之法改席可用別盃事

一去嘉吉年中自改置社領以來於沽却買得之輩共以可處罪科事

一神主供僧各帶下知之上者惣官權官於彼等所職等聊致競望堅可處罪科事

一權官代事背先規云云所詮如往古可致其沙汰若有無沙汰之輩者爲社家奉行可致注進事

一閣社家奉行社領公事以下兩官供僧等就別人不可致訴訟若有違亂之族者不可及許容事

一就社領所役等事不伺之外不可相懸之事

一於社家社邊盜賊事住人不及是非雖爲甲乙人旅人有令許容之輩者可爲同罪之上者一切不可遁其咎事

一右壁書令安置寶前兩官供僧神官等堅可守法圖事

右守條々之旨不可有緩怠之儀去嘉吉三年安富安藝入道此次第雖申沙汰猶以御餘

數者也若自今以後有違犯之輩者守護代社家奉行致談合以交名令注進之時就咎之輕重可有成敗仍壁書如件

奉行安富筑後入道知　安
社家奉行安富山城守盛長
社家奉行林參河入道宗宣
社家奉行安富左京亮盛保

長祿四年十二月日

右京大夫源朝臣勝元

花井　一宮村田村神社ノ傍ニアリ神供水ト云ヘリ古人ノ歌ニ

春はさくら夏はあやめに秋はきく冬はみ雪の花泉哉

袂井　定水井　同社内ニアリ之ニ花井ヲ合セテ田村ノ三井ト云ヘリ

大寶院　眞言宗同村田村神社ノ傍ニアリ大寶年中創立ス故ニ名ツク元田村神社ノ別當タリシカ延寶中高松藩主松平氏田村神社ヲ唯一神祭トス往古ハ供僧大僧院大善坊南養坊西椿坊南坊道場寺等アリ皆大寶院ニ屬ス又別ニ彌勒院ト稱スル別當アリ其所屬ノ供僧ハ寶性坊寶光坊般若院行泉坊北坊南光坊等アリ大寶院ノ他ハ今皆亡ス

成合神社　同村大字成合字上所ニアリ勸請年月詳ナラサルモ慶長十三年八月八日再興ノ棟札アリ

櫻木神社　多肥村大字上多肥字宮本ニアリ和名抄ニ多肥郷ト云ヘル郷名アレハ蓋往古一郷ノ產土神ナラン然レ𪜈勸請年月詳ナラス社記ニ別當西蓮寺奉祀セシ由シ見ユ

法恩寺　眞宗同村ニアリ永正元年三月僧淨願開基ス

來光寺　眞宗同村ニアリ和銅元年草創田村神社ニ附屬シ天台宗ナリシカ寛正三年今ノ宗ニ改ム

佛生山町　戸數九百二十二人口四千六百三十九（明治四十年末現在）警察署郵便局等アリ第廿四ヲ製造スルモノ多シ

法然寺　淨土宗同町ニアリ建永二年僧法然寺ヲ那珂郡子松庄ニ建テ生福寺ト號ス後天正ノ亂兵火ニ罹リ堂閣灰燼シ僅ニ弥陀ノ像ヲ存シ之ヲ小庵ニ安置セシヲ寛文八年高松藩主松平頼重此地ニ移シ堂宇ヲ創建シ佛生山法然寺ト改稱シ幕府ニ請ヒ高三百石ノ朱印地ヲ寄附シ松平氏累世ノ兆域ヲ其境内ニ設ケ號シテ般若臺ト云フ寶

物中内務省告示ニ依リ紙本着色観音功德圖六曲屏三雙二曲屏一雙絹本着色十王像一幅紙本着色源氏初音ノ卷紅葉賀ノ卷八曲屏一雙ヲ國寶トセラル。

勝宮　同町ニアリ土人ノ口碑ニ依レハ治承二年平清盛命シテ香川郡淺野ニ池ヲ築カシメ阿波民部ヲシテ其事ヲ幹セシム然ルニ其堤防ヲ築ケハ隨テ潰ユ或人云フ人ヲ以テ生埋スレハ堤防又頽潰セスト偶一婦人ノ勝（チキリ機ナ織リシ時經糸ヲ卷クノ木也）ヲ携ヘ過クル者アリ捕ヘテ之ヲ生埋シ堤防終ニ成ル其後里中災アリ占者云フ獨ノ婦人祟ヲ爲スト乃チ祠ヲ立テ之ヲ祀ル此祠即是ナリ社記ニ古ハ平家池ノ中島ニアリシヲ治承中岡ノ上ニ移シ又東ノ山上ニ移シ尋テ今ノ地ニ移ストアリ

百相神社　同町大字百相字神宮寺ニアリ元百相郷船山（今船岡山ト云フ）ニアリテ船山神社ト稱ス近郷ノ大社ニシテ祭神ハ田村神社ニ同シ三代實錄ニ元慶五年從五位下ニ進メラルトアリ天正中兵火ニ罹リ別當神宮寺之ヲ寺中ニ遷ス因テ神宮寺大明神ト稱ス寛文中松平頼重佛生山ヲ營築セシヨリ氏子多ク勝宮ニ歸セリ維新ノ後今ノ社號ニ改ム

石清水八幡神社　大野村大字大野字宮本ニアリ勸請年月詳ナラス應安中細川詮春ガ男子生レシキ安產ヲ祈シ由ニテ寒川郡鴨部村ニテ社領ヲ寄附シ貞治二年細川頼之伊豫ノ河野氏ヲ討ツヤ勝利ヲ祈リ神園ノ竹ヲ伐リテ旗竿トシ凱旋ノ日祠宇ヲ修理ス天正十三年兵火ニ罹リシヲ慶長十八年重修ス

淺野八幡神社　淺野村字宮裡ニアリ勸請年月詳ナラス元字横岡ニアリテ大社タリ天正中火災ニ罹リ爾後頽廢セシヲ明治四年今ノ地ノ八王子神社ニ合祀ス

船岡山　淺野村ノ北部ニアリ其山ノ南部ヨリ石材ヲ產ス之ヲ船岡石ト云フ下ニ船岡池アリ此山ハ古ノ船山ニシテ船山神社ノ鎮座アリシ所ナリ

岡上神社　同村ニアリ勸請年月詳ナラス往古ハ平池ノ中嶋ニ鎮座セシカ治承年間今ノ地ニ移シ後又佛生山ニ遷宮シ別ニ其遺跡ニ勸請ス

晴明屋敷　川東村大字川東ニアリ昔安倍晴明此ニ來テ住セシ遺跡ナリト此地目今其遺跡ト見ルヘキモノナシ且晴明カ當國ニ住ミシ事疑ハシ但山佐城ノ圖ニモ晴明屋敷（山佐城ノ一部ハ其遺跡トセリ）アリ又天福寺記ニモ當寺ハ安倍氏ノ菩提寺ト記シ又其寺ノ附近ニ安倍ノ森ト云フアリ姑ク錄シテ後考ニ供ス

細川頼之墓　同村同大字字中村立善寺境内ニアリ全讃史ニ明德三年二月細川管領頼之薨ス京師享年六十四鹿永春院殿桂巖大禪定門井原之士被管領恩顧者相會于佛地院爲一七日追福又立墓表歲時拜之云右佛地院ハ即立善寺ノコトナリ墓ハ五輪塔

形ニシテ高サ約六尺許ナリ近世此墓ヲ發堀セントスルモノアリシカ中ヨリ太刀ノ埋レタルカ見エケレハ祟リヲ恐レ元ノ如ク塡メタリト云フ

立善寺　眞宗同村同大字字中村ニアリ智證大師ノ創建ニテ元天台宗ナリ細川頼之岡村ノ館ニ居リ此寺其鬼門ニ當ルヲ以テ應安元年修造ヲ加フ細川氏亡ル後寺亦衰頽セシカ天文年間ニ至リ今ノ宗ニ改ム天正年中兵火ニ罹リシモ本尊及什器僅ニ存ス

川東神社　同村大字川東下字清谷ニアリ勸請年月詳ナラス康安元年細川頼之淺野村ヨリ今ノ地ニ移ス天正中兵火ニ罹リシヲ慶長二年再建ス

天尾神社　同村大字川内原字鬼ケ城ニアリ天正八年ノ勸請ト云フ

箭造城　同村ニ在リ漆原勘右衛門勝重之レニ居ル細川勝元ニ仕ヘ屢戰功アリ

廣田　同村大字川東上ニアリ此地ハ今モ之ヲコウデント唱フルヲ以テ見レハ廣田ニハアラスシテ是レハ大寶令ノ所謂公田ノ遺跡ナルヘシ

新雨神社　同村大字川東下字山脇ニアリ相傳フ細川頼之神社ヲ岡ノ館ノ四隅ニ建テ以テ鎭守トス相距ル一各一里俗ニ四方權現ト稱ス此社ハ其艮位ニ當レリ（由佐村ニ池谷神社アリ之レ其坤位ニ當レリ池四村ニ五十猛神社アリ之レ其乾位ニ當レリ川東村ニ山神社アリ之レ其巽位ニ當レリ）

百々淵　安原下村最明寺ノ北ニアリ川流滙リテ淵トナルモノニシテ嵓石屏風ノ如ク立テリ其深サ知ルヘカラス古來大旱ノ時雨ヲ祈リテ驗アリト云フ相傳フ昔別子八郎カ射シ巨蛇ハ此淵ニ栖ミシトテ淵ノ名高シ此邊ヲ通俗鮎瀧（アユガキ）トイヘリ別ニ瀑布アルニ非ス水勢ノ急ナルヲ以テ瀧トイヘルナラン

靈洞神社　百々深淵ノ水底ニ勸請ス其年月不詳

最明寺　同村ニアリ大寶元年僧行基之ヲ創立シ如意輪寺ト號ス弘仁十二年僧空海之ヲ中興ス康元元年十一月北條時頼最明寺入道ト稱シ諸國ヲ巡リ文應元年此地ニ至リ此寺ヲ最明寺ト改稱ス時頼書翰數通寺寶トナレリ天正中兵火ニ罹リ慶長十九年再興シ明治八年又災アリ漸ク之ヲ修理ス

鳥居城　同村鮎瀧ニアリ河田但馬之ニ居ル河田肥前ノ裔ナリ肥前ハ應仁文明ノ間安原ノ長ニシテ土民大ニ服セリ

平尾神社　同村ニアリ天養元年吉廣兵庫頭勸請ス相傳フ兵庫頭ハ東谷ノ城ニ居リ文治元年源氏ニ應セシヤ此社ノ神官之レニ從フ偶佐藤嗣信ノ馬病ム神官之ヲ祈リ痊ユ時ニ軍中幣無クシテ祈リシ故義經ヨリ姓名ヲ賜ヒ佐藤幣無大夫ト云フ爾來其家世々今ニ至ルマテ佐藤幣無ト稱セリ又義經ノ賜フ所ノ大刀アリシモ中古紛失ス

ト云フ

專光寺　眞宗同村ニアリ天平八年三月ノ創立ニシテ天台宗ナリシカ天正中兵火ニ罹リ明應二年再建シ元祿中今ノ宗ニ改ム

西谷八幡神社　同村ニアリ建治年中字都宮某勸請ス天正年中兵火ニ罹リシヲ後之ヲ再興ス

天野神社　同村ニアリ仁壽三年九月村井民部勸請シ延享五年六月再興ス

八幡神社　同村ニアリ天德元年ノ勸請ト云フ

岩部八幡神社　安原上村大字安原上字岩部ニアリ寛治年中川田某崇信スル所文明十三年八月川田景安勸請ス後屢修理シ元和九年以來ノ棟札現存ス文明以降延寶ニ至ルマテ吉岡寺天福寺最明寺輪番ニ社務ニ從事セシカ延寶三年ニ池田氏其記ヲ主ル社頭鳴脚ノ大樹二株アリ

內塲城　同村ニアリ嘉應承安ノ間越後ニ藤澤入道ナルモノアリ威名傍國ニ振フ後此地ニ來リ此城ヲ築テ居ル其子新大夫道信文治元年二月源氏ニ屬シ屋嶋ニ戰死ス好廣城　同村ニアリ好廣兵庫頭之ニ居ル文治屋嶋ノ役源軍ニ屬シ功アリ

鑓江鑛泉　同上東村ニアリ此地峰巒四面ニ重疊シ淸溪其中間ヲ奔流ス鑛泉ノ湧出スルヤ唯一所ニシテ非ヲ設ケ之ヲ汲ミ煉シテ以テ浴湯ノ用ニ供ス土人ノ說ニ依レハ天平年間僧行基之ヲ發見シ病者ノ入浴ヲ勸メシヨリ里人始テ來リ浴ス弘仁年間僧空海來リテ此鑛泉ノ効驗ヲ說キシヨリ稍世間ニ知ラル此地從來人家數十戶軒ヲ並ヘ各戶鑛泉ヲ汲ミ來リ浴客ノ用ニ供セシカ近年別ニ浴室ヲ創建シ各戶ニ宿泊スル浴客此所ニ往來シ以テ疾病ヲ療養スルニ至ル此鑛泉ハ左ノ病症ニ効驗アリ

一慢性筋僂麻質私及筋强直慢性痛風　二各種神經病ノ僂麻質私ニ因スル者及痛風

三慢性皮膚病例ヘハ疥癬禿瘡瘙風濕疹乾癬挫瘡又ハ慢性潰瘍及膿疹慢性丹毒ノ類　四梅毒　五下腹充血全身多血肝臟腫大鉛水銀等ノ慢性中毒ニ飲用シテ効アリ六喉頭咽頭ノ慢性加答兒及氣管支加答兒ニ吸入シテ効アリ　七子宮及卵巢慢性加答兒　八月經不調　九慢性關節炎骨病創傷炎ノ遺殘癒痍

鑓岩　同村字鑓江ニアリ岩ハ奔泉中ニアリテ層々相重リ鑓ニ似タルヲ以テ此名アリ

白人神社　同村大字安原上東字樺川ニアリ此社ハ讃岐國官社考證ニモ見ユ全讃史ニ據レハ天正中尾形八兵衛ナルモノ鎭西八郎ノ靈ヲ祀ルト云フ

天福寺　眞言宗由佐村大字岡字西原ニアリ天平中僧行基之ヲ草創シ法相三論華嚴兼學ノ道場トス後僧空海之ヲ修營ス天福元年當時ノ國司橘公忠勸ヲ奉シ大ニ修構

シ號シテ天福寺ト云フ其後細川氏累世此寺ニ歸依シ長祿三年興復シ又大永中大ニ堂宇ヲ修理ス天正十二年十月長曾我部元親將ニ由佐城ヲ攻ントス其臣久竹左近此寺ヲ焚ケリ貞享四年重テ修造シ以テ今日ニ至レリ

右馬頭館跡　同村同大字ニアリ或ハ岡ノ館ト云フ土人此地ヲ呼テ行業（ユキナリ）ト云フ其岡藏人行業ナルモノ、居趾ニ建設セシヲ以テナリ是レ細川頼之ノ築ク所ニシテ四國ノ政ヲ聽キシ所ナリ鎮守ヲ四隅ニ置キ四方權現ト呼フ

冠纓神社　同村大字由佐字三ノ原ニアリ延文二年細川頼之石清水八幡ノ冠纓ヲ乞フテ勸請シ細川氏累世之ヲ崇信ス天文二十年再興ノ奉加帳今尚神庫ニ存ス

由佐城　同村ニアリ今同村土豪由佐氏ノ先弥次郎秀助之ヲ築キ細川氏ニ屬ス其家多ク古文書ヲ藏ス今其一二ヲ左ニ抄錄ス

因徒太田左近將監遠忠以下誅伐之時致軍忠之條殊以神妙也弥可抽忠勤之狀如件

貞和四年正月十日　　陸奥守花押

由佐弥次郎殿

安原鳥屋ヶ岡要害事京都御左右之間不可有陳畧候也仍城中警固於無沙汰之輩者交名載起請之詞可有注進候也仍執達如件

觀應二卯月廿五日　　左兵衛尉

由佐弥次郎殿

最初爲御方於安原城致警固之條殊以神妙仍執達如件

觀應二年七月七日　　陸奥守花押

由佐弥次郎殿

讃岐國井原庄內鮎瀧領家職事於安原城中依致軍忠沙汰落居候間所領申者也仍執達如件

いゝいなの七郎左衛門

秀氏　花押

由佐弥次郎殿

敗訴雖誅代事早馳參可致軍忠之狀如件

觀應二年九月五日　　御判

由佐弥次郎とのへ

率一族并井原庄名主庄官等蹈安原山鳥屋城追拂處々敵陣日夜致戰功云々殊神妙恩賞事嚴密可申沙汰也執達如件

[illegible]應二年十月二日　　由佐弥次郎殿

去ル二日讃岐國安原城合戰之刻致忠節云々尤以神妙弥可抽戰功之狀如件

貞治四年四月廿三日　　陸奥守　花押

[illegible]　　由佐弥次郎との

讃岐國井原内御守方半分之中所領置也守先例可致沙汰之狀如件

貞治五年十二月三十日　　右馬頭　花押

由佐又六殿

豫州事今度於鷹取城忠節之由注進候尤神妙候也謹言

永享四年三月十五日　　持元　花押

由佐四郎左衛門殿

妙光寺　眞宗同村字市谷ニアリ創立年月詳ナラス天正中兵火ニ罹リシヲ明治十二年八月再興ス

利劍寺　眞言宗同村大字由佐南門ニアリ嵯峨天皇ノ御宇僧空海草創スト云フ然レ𪜈其年月詳ナラス元屋嶋山上ニ創立シ南泉寺ト號ス其後衰頽セシヲ寶暦元年再建

シ文政二年二月今ノ寺號ニ改メ明治二十四年今ノ地ニ移ス

天目一神社　同村大字吉光ニアリ此神ハ神代ノ時鍛冶ノ祖ナルヲ以テ永祿中冶工吉光ナルモノ備州ヨリ此地ニ移住シ之ヲ祀リ氏神トス終ニ此地ヲ吉光ト稱セリ

池内城　池西村ニアリ十河十郎吉保ノ第三子孫五郎孝敬采地ヲ此ニ食ム曆應年間細川頼春ニ從ヒ豫州金谷ノ城ヲ攻ヲ功アリ其五世孫主殿助孝晴天正十一年十河城ヲ援ケ屢土佐ノ兵ヲ退ク

藤原盛兼墓　同村大字横井ニアリ碑面ニ井原莊司藤盛兼墓右傍ニ元曆二年二月十八日屋島戰死左傍ニ天保二年二月二日中山塵請官建之トアリ（今本村大字横井吉光池内等皆古ノ井原郷ニ屬ス）

諏訪神社　川岡村大字川部字諏訪ニアリ正曆五年南海賊起ル諏訪五郎光秀ナル者平惟時ニ從ヒ賊ヲ征シ遂ニ讃岐國香川郡河邊ニ止ル大治中ニ及ヒ諏訪少目光親諏訪神ヲ奉迎シ之ヲ祀ル天永中諏訪寺ヲ建テ諏訪神社ノ祭ヲ主ラシム後細川頼之神田ヲ寄附ス

長福寺　眞言宗同村同大字字諏訪ニアリ正和元年京都今出川ニ創立シ延享四年之ヲ泉涌寺内ニ移轉セシカ明治廿七年長福寺ト云フ古寺ヲ再興シ故アリ此地ニ遷セ

秋圓寺　眞宗同村同大字字中田井ニアリ往古ハ天台宗ニシテ寶體山龍嚴寺ト號ス中古退轉シ唯堂宇ノミヲ存ス明治六年九月之ヲ修理シ今ノ寺號ニ改ム

大龍院　天台宗同村同大字字松ニアリ明德三年三月創立文政十一年十月火災ニ罹リ記錄什器盡烏有ニ歸ス

八幡神社　同村ニアリ創立年月詳ナラス往古ハ横岡ト云ヘル所ニ鎮座シ一鄉ノ大社タリ天正年間兵火ニ罹リ爾來衰頽ス

敎法寺　眞宗圓座村大字上圓座ニアリ往古ハ天台宗ニシテ西蓮寺ト號セシカ八世ノ僧松圓應仁元年四月今ノ宗ニ改ム

圓座村　古昔菅ヲ以テ蒲團ヲ作リ圓座ト稱ス之ヲ造レルヨリ村名トナレリ慶長年間ニ至リ其製絶ユルモ松平頼重就封ノ後其子孫ヲシテ之ヲ作ラシメ年々幕府ニ貢獻ス讃岐圓座ノ名ハ庭訓往來諸國名物記等ニモ出ツ

正覺寺　眞言宗同村字井手上ニアリ天平中僧行基中間鄉ニ創建シ松慶寺ト號シ八幡宮及綱敷天滿宮両社ノ別當タリ天正中兵火ニ罹リケレハ支院ヲ岡ノ坊ノ遺跡ニ移シ再建ス寶永元年寺號ヲ今ノ文字ニ改ム

廣瀨神社　同村同大字圓座字本村ニアリ天治元年勅請シ元久五年再興ス

本蓮寺　本門法華宗同村ニアリ永祿二年阿野郡羽床下村（讃岐郡羽床村）ニ於テ羽床伊豆守ノ堂建立シ元祿十六年山崎某今ノ地ニ移ス境内舊高松藩主支族松平左近ノ墳墓アリ

天滿神社　檀紙村大字中間ニアリ仁和年間菅原道眞國司タリシ時屢中間鄉桑久利ノ家ニ游フ桑氏男ナク唯一女アリケレハ菅氏ノ族ヲ養ヒ嗣ト爲ス延喜元年道眞ノ太宰府ニ謫セラルヽヤ舟倶本郡笠居鄉ニ泊ス乃チ桑久利往テ謁セシニ道眞自カラ其像ヲ画キ之ヲ久利ニ贈リ爾後此祠ヲ建テ之ヲ祀ル今ノ祭神是ナリ

中間ノ梅　同村天滿神社境内ニアリ桑久利曾テ道眞ヲ筑紫ノ配所ニ訪フ道眞大ニ喜ヒ和歌ヲ賦ス曰ク思ひきや心うくしの果にきてむかしの人に又あはむとは是時道眞飛梅ノ實ヲ久利ニ贈リケレハ久利持歸リ之ヲ此ニ植シト云フ

六妻山　同村大字中間ノ西ニアリ又六目山トモカケリ西行ノ和歌アリ

かるもかく獨すふ猪もある物をむつめの鹿は何をなくらむ

川部八幡神社　川岡村大字川部字宮本ニアリ大治年中勅請シ治永年中松王兒傳父右馬允再興ス其後松王ノ裔小野權頭重ヲ修理セシカ天正中火災ニ罹リ後又修造ス

檀紙　古昔此村ニ於テ檀紙ヲ製セシニ依リ村名トナリシカ慶安中ニ至テ其製全タ絶ユ延喜式圓菅寮ノ條ニ讃岐國年料紙麻調進之トアリ當時既ニ當國ノ物産トシテ

御貫セシ者ト見ユ、

辨天神社　同村大字檀紙字藥王寺ニアリ祭神ハ崇德天皇ノ皇子重仁親王ノ御墓ナリト土人ノ口碑ニ傳フ

中間城　同村ニアリ中村市正光重之ニ居ル子孫生駒氏ニ仕ヘ征韓ノ役ニ戰死ス

弦打山　弦打村ノ東ニアリテ龜山ヨリ接續ス此村中頃鶴市ト稱セシカ今弦打ト改メリ古人和歌アリ

梓弓春てふ今朝は立ちかへり弦打山にかすみ棚引く　松山千首

弦打の山の端出る月影は狹峯の島の帆掛舟かな　聖寶僧正

弦打の山より出る月影は弓張とこそいふへかりけれ　宗祇法師

岩田神社　同村大字飯田字宮ノ窪ニアリ正應年中勸請シ飯田檀紙鶴市郷東四村ノ產土神トス應仁年間兵火ニ罹リシヲ天正以降之ヲ再興ス

飯田神社　同村同大字字田中ニアリ勸請年月詳ナラス土人ノ口碑ニ依レハ岩田神社ノ古跡ナルヲ以テ古宮ト稱セリト

大幕神社　同村同大字字大幕ニアリ此所往古ヨリ大幕ト稱ス地勢陵墓ノ形ヲ爲セリ盤大幕ハ王墓ノ轉リニシテ神祠王殺窟ノ古墳ノ由古老ノ口碑ニ存ス

根香山　上笠居村ノ西ニアリテ綾松山ノ一部ニ屬ス綾松山ハ五峰アリテ之ヲ五色ニ配當ス此山ハ即青峰ト云フ

佐料城　同村ニアリ香川東西阿野南北四郡ノ主香西左近將監資村世々之ニ居ル

藥師寺　天台宗同村字是竹ニアリ創立年月詳ナラス天正年間兵火ニ罹リシヲ文政中再興ス

勝賀山　中笠居村ノ西部ニ峙チリ背香西氏此山ニ據リ要城トス天正二年十月阿波三好長治三好越後守ヲシテ三千騎ヲ率ヒ來リ攻ムルモ三好氏敗績ス

道つれの人にもまけじ後れじとかつがの山をみつゝこゝろ行け　醍醐晃深

藤尾城　同村ニアリ此地ハ蓋八幡祠アリ頗ル要害ノ地ナルヲ以テ天正三年香西伊賀守祠ヲ山上ニ移シ此城ヲ築ケリ同五年城成リ佐料ヨリ移ル同十年長曾我部元親ト和ス同十一年元親此城ノ土功ヲ助ク同十三年仙石秀久此國ニ封セラルニ及ンテ遂ニ廢セリ

芝山　同村ニアリ陸ヨリ海中ヘ斗出シ樹木鬱然トシテ風景頗ル佳ナリ此山ノ東入家棚密漁農ヲ業トスルモノ多ク住ス之ヲ香西浦ト稱ス

宇佐神社　同村字香西ニアリ嘉祿年中香西左近將監資村藤尾原ニ勸請ス天正年中

香西伊賀守好清之ヲ字是竹ニ遷座シカ香西氏亡ヒ祭祀絶ヘントス乃チ慶長年中植松彦大夫舊地藤尾原ニ復遷ス明治十六年四月社殿及神庫焼失シ其後再ヒ營築ス

香西寺　眞言宗同村字平賀下ニ在リ天平中僧行基創立シ地藏院勝賀寺ト稱ス七堂伽藍所ノ一ナリ貞應元仁ノ際香西資村堂塔ヲ再興シ香西寺ト號ス後香西元資本津ノ里ニ移シ地藏寺ト號ス天正中災ニ罹リシヲ慶長中生駒近規修理シ高福寺ト改ム万治中又災ニ罹リ寛文九年松平頼重冷ノ地ニ移シ今ノ寺號ニ復ス

萬徳寺　眞言宗同村同字ニアリ慶長七年創立シ群福寺ト號ス菅原道眞國司タリシ時租稅ヲ免ス之ヲ寄附ス元祿中今ノ寺號ニ改ム

國清寺　浄土宗同村ニアリ往古ハ本郡安原村ニ在テ極樂寺ト稱セシカ延寶年中今ノ地ニ移シ今ノ寺號ニ改ム

根香寺　天台宗下笠居村字中山ノ山上ニアリ天長中智證大師ノ開基ニシテ十七檀林ノ一トス千石千貫ノ寺領ヲ有シ勅願所タリ建武以降兵火ニ罹リシヲ慶長中生駒一正修理シ延寶中松平頼重寺領ヲ寄附ス往昔保元中崇德上皇行幸アリ風景ヲ愛賞セラルト言フ

鎮西ケ崎　同村字新庄ニアリ菅原道眞鎮西ニ左遷ノ時舟ヲ此ニ泊ス後人因テ鎮西ケ崎ト云シカ今神在ケ崎ト稱ス又牛ノ鼻ト云フモ此邊ナリ或人云フ牛ノ鼻ト云フモ借字ニシテ憂之崎ノ義ナリ道眞左遷ノ時憂心アリシヨリ斯ク云ヘリト果シテ然ルヤ未タ知ルヘカラス

生島　同村ニアリ鑓田頗ル多シ又大根ノ名產地ナリ

高松市

高松市ハ香川縣廳ノ在ル所ニシテ全讃主要ノ地ナリ其位置ハ香川郡ノ北ニアリテ香東御坊岡川東西ニ介在シ西南ニ紫雲山ヲ負ヒ北方ハ瀬戸内海ニ面シ東方ハ廣濶ナル田野ヲ控シ東西二十四丁南北二十五丁面積百五十萬三千六百五十坪ニシテ戸數八千九百十三人口四萬千三百七（明治四十年末現在）市坊ノ數六十二トス古昔ハ篦原郷ノ一部ニ屬セシカ天正十八年生駒近規居城ヲ此地ニ新築シ地名ヲ高松ト改稱ス寛永十七年七月生駒氏封ヲ出羽ニ移スノ後同十九年四月松平頼重常陸下館ヨリ封ヲ當國ニ移シ藩府ヲ此ニ開キ明治四年廢藩置縣ニ至ルマテ繼承スルモノ十一世二百三十年

高松城　天正十八年豐前中津城主黑田如水ノ經營ヲ以テ之ヲ築キ生駒氏四世之ニ居リ寛永十九年ヨリ松平氏十一世之ニ居レリ廢藩ノ後陸軍省ノ所轄ニ歸シ一時大阪鎮臺第二分營ヲ置カレシカ無幾シテ之ヲ撤ス當時天守閣其他ノ建築物ヲ殿チ僅

ニ外郭ヲ存ス明治二十三年再舊高松藩主伯爵松平頼聰ノ所有ニ歸シ其藩祖源頼重ノ廟ヲ天守閣ノ遺趾ニ創建シ玉藻廟ト稱ス

高松港　本市ノ北端高松城址ノ背後ニアリ從前ノ堀川港ヲ埋メ新ニ防波堤ヲ北方海中ニ斗出スル長三百五十間幅五間乃至四間之レト相對シ東方ニ長二百七十五間幅二間ノ防波堤ヲ築ク港内面積八萬餘坪ニシテ干潮深サ平均十四尺堤外二十三三尺ニ下ラス機橋ヲ南岸ニ設ケ貨物船客上下出入ノ便ニ供ス本港ハ明治二十八年ヨリ時ノ市長赤松渡之ヲ計畫シ後任市長小田知周五年ヲ經テ終ニ之ヲ完成ス

王子社　西通町ニアリ元王子權現ト稱ス天文年間岡田丹後守清高之ヲ建ツ

愛宕社　西濱町ニアリ天文年間岡田丹後守之ヲ建ツ

見性寺　禪宗濱ノ丁ニアリ寛正中細川勝元大内郡東山（大川郡鶴祭村）ニ創立シ寶光寺ト號ス天文年間鵜足郡宇多津（綾歌郡宇多津町）ニ移シ南隆寺ト稱ス天正十八年生駒氏城ヲ此地ニ築キシ時今ノ所ニ移シ今ノ寺號ニ改ム細川氏ヨリ松平氏ニ至ルマテ各領主ヨリ寺領ヲ寄附ス元塔頭四宇アリ曰ク向陽庵曰ク海藏庵曰ク多福庵曰ク福壽庵ト云フ往年盡ク火災ニ罹リ烏有ニ歸セリ

弘憲寺　眞言宗同丁ニアリ天平年中僧行基鵜足郡（綾歌郡）ニ創立シ法勳寺ト稱ス延暦十三年正月弘法大師此寺ヲ讃留鑑王ノ塚側ニ移シ改テ眞言道場トス後此寺ヲ廢シ本尊鑑寶等悉ク島田寺ニ入ル天正中生駒近規宇多津（綾歌郡宇多津町）ニ居城シ屢島田寺ニ游ヒシヲ以テ主僧良純近規ヲ勸メ終ニ法勳寺ヲ再興セシム歴長八年二月十三日近規卒ス嗣子一正之ヲ此地ニ移シ今ノ寺號ニ改メ近規ノ遺骨ヲ埋葬ス其墓今猶存ス

日妙寺　日蓮宗同丁ニアリ初小笠原民部大輔阿波國ニ建立シ文明十七年大内郡引田郷（大川郡引田村）ニ移シ慶長十五年生駒正俊ノ命ニ依リ此地ニ移ル

蓮華寺　眞言宗同丁ニアリ文安元年建立ス

吉祥寺　眞言宗同丁ニアリ開基年月詳ナラス應永年中再營スト云フ

眞行寺　眞宗西濱町ニアリ曆應中僧賢性之ヲ今ノ高松港ノ西ニ創立シ法藏坊ト稱ス後今ノ寺號ニ改メ延寶四年此地ニ移ス

常福寺　眞宗同町ニアリ承平年間清水紀伊草創ス中古山田郡（木田郡）庵治村ニ移シ濱ノ坊ト稱セシカ後高松藩主松平頼重此地ニ移セリ

法泉寺　禪宗三番丁ニアリ生駒近規封ヲ當國ニ受ケ將ニ任ニ赴カントス豊臣秀吉近規ヲ召シテ曰ク我歸依僧大川長老今讃岐ニアリト聞ク汝封地ニ赴カハ宜シク面晤スヘシト是ニ於テ近規遍ク之ヲ搜索セシニ寒川郡志度浦（大川郡志度町）海藏庵ニ住セシヲ以ヲ

一寺ヲ鵜足郡宇多津ニ建テ之ニ住セシメ菩提所トス即此寺ナリ慶長三年生駒一正此地ニ移シ寺領ヲ寄附ス境内生駒一正及正俊ノ墓アリ文祿征韓ノ役生駒氏鐵蕉敎株ヲ賣シ歸リ之ヲ此寺ノ庭上ニ栽ユ今猶繁茂ス又此寺ノ梵鐘ハ生駒氏征韓ノ時陣鐘トシテ用ヒシカ凱旋ノ後之ヲ寄附スト云フ

東光寺　禪宗同丁ニアリ天正中十河存保建立シ其菩提所ト爲ス當寺ニ十河存保同存親及天正十四年十二月十二日存保存親ト共ニ豐後國利光川ニ於テ戰死セシ十河氏從士ノ靈牌今猶存ス

大本寺　本門法華宗同丁ニアリ寛永十五年僧日省之ヲ草創ス（日省ハ頗ル才學アリ四書自見點ヲ著ス又一切經ヲ象頭山ニ讀ム）

（鎮西ヲ遠設ス）此地ハ生駒氏ノ家臣西島八兵衛ノ宅趾ナリ松平頼重特ニ四脚門ヲ許可ス後大旱ノ時藩命ヲ受ケ雨ヲ祈リ屢其驗アリト云フ

福生寺　眞言宗同丁ニアリ往昔阿野郡福家村（綾歌郡山内村）ニアリテ來迎院ト云フ永正年間此地ニ移シ寛永五年仁和寺宮ヨリ令旨ヲ賜ヒ行德院ト改メシカ後又今ノ寺號ニ改ム

地藏寺　眞言宗同丁ニアリ慶長八年生駒一正建立ス當寺ニ生駒氏ノ老臣三野四郎左衛門ノ靈碑アリ四郎左衛門ハ寛永十九年四月三日生駒氏移封ノ後伊豫國ノ配所ニ死スト云フ

正覺寺　淨土宗同丁ニアリ天文二十三年草創ス

德成寺　眞宗同丁ニアリ慶長年間沙門利慶草創ス

善昌寺　日蓮宗同丁ニアリ開基詳ナラス慶長中木村某再營ス天文十一年ノ緣起今尙存セリ

本典寺　本門法華宗同丁ニアリ往古ハ三野郡（三豊郡）ニアリテ高瀨大坊ノ末院ナリシカ天正年間僧日慈此地ニ移シ今ノ宗ニ改ム

妙朝寺　日蓮宗同丁ニアリ慶長元年生駒氏ノ家臣小橋平左衛門建立ス

淨願寺　淨土宗五番丁ニアリ文明年間鵜足郡宇多津（綾歌郡宇多津町）ニ草創ス天正十八年生駒近規今ノ三番丁正覺寺ノ地ニ移ス正保中松平頼重之ヲ菩提所ト爲ス承應三年火災ニ罹リシモ其年八月之ヲ再興ス明暦元年十二月又火災ニ罹リケレハ翌二年此地ニ移シ萬治元年寺領百石ヲ寄附ス寛文元年頼重ノ父德川頼房薨セシ時其靈牌ヲ當寺ニ安置シ其追福ノ爲メ同六年寺領ヲ三百石ト爲ス塔頭稱名院養通院薗國院護念院等アリ今皆之ヲ廢ス又境内ニ松平氏ノ寢廟アリ（今ノ高松市立高等小學校所在ノ地是ナリ）乾英閣ト稱ス今猶其表門ヲ存セリ

龜井　龜井町ニアリ往昔田間ニ在リ稻田數十頃ニ灌漑ス土人ノ口碑ニ昔靈龜出テ遊フ故ニ龜泉ト呼フ元來高松ハ良水ニ乏シキヲ以テ高松藩祖松平頼重正保元年十二月工ヲ起シ此水ヲ引キ暗溝ヲ池中ニ設ケ各自ノ井戸ニ通シ以テ士民飲溉ノ用ニ供ス東北市街其澤ヲ蒙ルモノ十九町又西瓦町ニ大井戸ト稱スル一井アリ東南市街ノ飲溉ニ供ス是蓋龜井ノ不足ヲ補フ爲メ設ケシモノナラン

藤ノ森神社　外磨屋町ニアリ創建年月詳カナラス天正年間マテハ境内貳百餘歩アリテ藤蔓繁茂セリ故ニ藤ノ森ト名ツク又其下ニ清水アリト今本社ノ西下津某ノ宅中ニ此清水ノ跡尚存ス當時近傍人家ノ飲用ニ供セシナラン今此邊ノ小地名ヲ今井戸ト呼ヘリ

福善寺　眞宗北古馬場町ニアリ往古甲州某郡小比賀村ニ草創ス大永年間僧正了之ヲ當國香川郡坂田村（鷲田村）ニ移セシカ文祿三年生駒近規之ヲ同郡東濱ニ移シ寛永十六年九月又今ノ地ニ移ス先是文祿中豐臣秀吉僧敎如ヲ退ケ准如ヲ以テ本願寺ノ主ト爲ス當時住僧覺玄之ニ從ハス秀吉生駒近規ニ命シ覺玄ヲ獄ニ繫カシム覺玄窃ニ獄ヲ脫シ京師ニ赴キ敎如ニ謁シ其志ヲ述フ敎如授クルニ念珠及袈裟ヲ以テス既ニシテ秀吉薨去シケレハ覺玄當國ニ歸リ香川郡笠居郷芝山ノ麓ニ潛居ス後德川家康敎如ヲ以テ東本願寺ノ主ト爲スニ及ンテ敎如深ク覺玄ヲ德トス於是本多忠勝亦其志操ヲ感シ陣羽織一領ヲ贈リ今尚此寺ニ藏ス塔頭圓重寺安樂寺等アリシモ今皆末寺ヲ分離シ獨立ス

極樂寺　眞宗同町ニアリ初淨土宗ニシテ正覺寺ト號ス慶長三年今ノ宗ニ改メ福善寺ノ末寺ト爲リシカ後分離獨立ス

本覺寺　本門法華宗同町ニアリ慶長七年生駒氏ノ家臣佐藤掃部創立ス高松藩主松平頼豐武運長久ノ爲メ其實母長壽院彫刻スル所ノ鬼子母神ノ像ヲ預ケ置キシカ享保八年終ニ此像ヲ寄附シ堂宇ヲ建設ス明治元年八月松平氏支族左近頼該ノ靈牌ヲ安置ス

安養寺　眞宗福田町ニアリ寶治元年千葉某本尊ヲ負フテ關東ヨリ阿波國美馬郡ニ來リ一宇ヲ建立ス文安年中堂宇燒失セシカハ寛正中當國香川郡川內原（安原下村）ニ再興ス天正年間再ヒ兵火ニ罹リケレハ生駒氏ニ請ヒ之ヲ再建シ後元祿二年此地ニ移ス

興正寺別院　眞宗御坊町ニアリ當初勝法寺ト稱セシ寺アリシヲ天文年間京師興正寺證秀之ヲ當國香川郡篦原郷野方（高松市野方町）ニ移シ再興ス永祿中阿波ノ三好實休寺地及田園ヲ寄附ス今ノ御坊川其舊跡ナリ後實休泉州岸和田ノ役ニ戰死シケレハ十河存保之

ヲ三木郡池邊郷（木田郡平井村）四角寺原ニ移ス天正十七年十一月生駒近規寺領百五十石ヲ寄附シ同正俊之ヲ此地ニ移シ勝法寺ノ號ヲ廢シ興正寺別院ト爲ス寛文二年松平頼重香川郡福岡村（太田村）ニ於テ更ニ寺領百五十石ヲ寄附シ北隣別ニ一寺ヲ建立シ勝法寺ト號シ此別院ヲ守護セシム

勝法寺　眞宗同町ニアリ堀彦左衛門親政ナルモノ眞宗ニ歸依シ剃髮シテ京都本願寺ノ徒弟ト爲リ乘栄ト改名シ當寺ヲ草創ス寛文二年松平頼重之ヲ此地ニ移シ興正寺別院ヲ守護セシム

德法寺　眞宗同町ニアリ永祿六年草創シ寛文九年燒失シ翌年再興ス

西福寺　眞宗同町ニアリ永正年間香川郡坂田村（鴨田村）ニ創立シ後同郡福岡村ニ移リ又此地ニ移ル文政年中燒失シ天保十五年再興ス

願船坊　眞宗同町ニ在リ天文十九年三木郡池邊郷（木田郡平井村）ニ草創シ梅林山香蓮寺ト稱シ眞言宗ナリシカ其後頽廢シ勝法寺ニ歸依シ今ノ宗ニ改メ同寺ニ隸屬シ此地ニ移ル

無量壽院　眞言宗七十間町ニアリ大寶中僧行基ノ創建スル所ニシテ香川郡坂田村（鴨田村）室山ノ麓ニアリ紫雲山無量壽院隨願寺ト稱ス弘仁中弘法大師勅ヲ奉シ眞言ノ道場ト爲シ寶祚ノ長久ヲ祈ル所謂當國七談義所ノ一ナリ後天正十年兵火ニ罹リシ以來各地ニ移轉シ終ニ正保中此地ニ移ス

高善寺　眞宗東瓦町ニアリ嘉吉年間香川郡坂田村（鴨田村）ニ草創シ後此地ニ移ル

覺善寺　眞宗同町ニアリ永正元年伊豫國川江ニ草創シ覺善坊ト稱ス後此地ニ移ス

深妙寺　眞宗築地町ニアリ天正年中香川郡坂田村（鴨田村）ニ草創シ元和三年鶴屋町ニ移シ後此地ニ移ス

清光寺　片原町ニアリ開基詳ナラス初西福寺ト稱シ阿野郡甲知郷（綾歌郡府中村）ニアリ天正年中兵火ニ罹リ元和中此地ニ移ル

華下天滿宮　片原町ニアリ初眞言宗愛行院ト稱セシ一寺此所ニアリテ本社ハ即其境内ニアリ往昔菅原道眞當國ニ守タリシ時愛行院主僧增圭ナルモノ頗ル學識アリテ道眞ニ識ラル道眞歸京ノ時自畫ノ肖像ヲ贈リシヲ後增圭一社ヲ建テ之ヲ崇信ス今ノ社即是ナリ

中野天滿宮　天神前ニアリ土人之ヲ大天神ト稱ス往古ハ香川郡栗林村今ノ稻荷神社ノ地ニ勸請セシカ生駒一正此地ニ移ス松平頼重就封ノ後香西左近將監資村其佐料ノ城中ニ奉祀セシ菅公自畫ノ肖像ヲ得テ之ヲ當社ニ併祀シ且祠宇ヲ修理ス後松

平頼常特ニ此社ヲ尊信シ更ニ社殿ヲ莊嚴ニスト云フ元別當鶴林寺ヲ世キシモ維新後之ヲ廢ス

大護寺　律宗同所ニアリ松平頼豐常ニ大元明王ヲ崇信ス乃チ工人ニ命シ等身明王ノ像ヲ造ラシメ法華庵（初内町ニアリテ蔵六庵ト號ス後此地ニ移シ法華庵ト云フ）ニ安シ江戸湯島靈雲寺開山覺彦ノ弟子義天ヲ召シ大ニ此庵ヲ修理シ神光山大護寺ト號シ寺領百石ヲ寄附ス

實相寺　禪宗同所ニアリ寛永中生駒高俊三番丁今ノ東福寺ノ地ニ建立セシカ後此地ニ移ス松平頼重寺領七十石ヲ寄附ス生駒氏公族ノ墳墓アリ

慶昌寺　日蓮宗同所ニアリ松平頼重實母久昌院ノ菩提ヲ弔フ爲メ之ヲ創建シ寺領百三十石ヲ寄附ス當初ハ堂宇莊嚴ナリシカ今ハ頽廢シテ其狀況ヲ見ルコトヲ得ス

聰德院　眞宗同所ニアリ西興寺ト號ス松平頼重講堂トシ聰德庵ト號シ儒佛兩道ヲ講習セシム後一向宗永代院家地ト爲レ勝法寺ヲシテ之ヲ守ラシムルモ今ハ一寺トナレリ

綾歌郡

萬燈寺　天台宗端岡村ニアリ天平年間僧行基草創ス

國分寺　眞言宗同村大字國分ニアリ聖武天皇天平七年疫癘大ニ行ハル是ヲ以テ天下ニ令シ毎國釋迦牟尼佛ノ金像高サ一丈六尺ノモノ各一軀ヲ造リ大般若經一部ヲ書寫セシム同十一年詔シテ國分尼寺ヲ造ラシメ給フ孝謙天皇天平寶字四年尼寺ニ詔シ戒壇ヲ作リ國中ノ僧尼ヲシテ戒ヲ受ケシム此寺亦其一ナリ天正年間兵火ニ罹リ大半灰燼ニ付ス往昔ノ礎石今猶存ス慶長十四年生駒一正當寺ノ梵鐘ヲ徵シ高松ノ報時鐘ト爲ス當時左ノ書ヲ當寺ニ賜フ

爲國分寺鐘之代於在處免荒田一町永代令寄附候堂之修理可仕候也

慶長十四二月二日　　一正　花押

然ルニ故アリ更ニ當時ニ梵鐘ヲ返シ左ノ書面ヲ付セリ

覺

つきかね返し申候間今度一正公頻本復候樣ニきねん所仰也

三月十四日　　生　將監
　　佐　掃部

國分寺卷

明治三十四年三月內務省告示ニ依リ國寶ト定メラルヽハ當寺二王門ノ二王尊及木造千手觀音立像一軀トス

法華寺　眞言宗同村大字新居ニアリ菅原道眞國司タリシ時牡丹ヲ賞スル詩アリ一説ニ城ス創立年月詳カナラス或ハ聞フ國分寺ノ末寺ナリト

鷲山城　山内村ニアリ新名内膳之レニ居ル天正十一年長曾我部元親内膳ヲ殺シ部將入交藏人ヲシテ此城ニ居ラシメ近郡ヲ鎮撫セシム

鷲峯寺　天台宗同村大字柏原ニアリ天平勝寶年間鑑眞和尚創立ス天正年間兵火ニ罹リ寛文中再興ス

春日神社　同村大字新名字南原ニアリ弘仁年間ノ勅請ト云フ

字佐八幡神社　同村大字柏原字鷲ノ山ニアリ天安中ノ勅請ト云フ

福家城　同村大字福家ニアリ新名藤大夫資幸之ヲ築キ遂ニ福家ヲ以テ氏トス後裔福家七郎ナルモノアリ此時羽床伊豆守香西伊賀守ト隙アリ七郎其間ニ居リ能ク兩家ニ親ム香西氏之ヲ疑ヒ天正七年ノ春觀漁ニ托シ之ヲ舟中ニ殺シ其家竟ニ絶ス

長然寺　眞宗同村同字ニアリ永祿中創立ス

八幡神社　千疋村字上千疋東原ニアリ祭神ハ養老五年來朝ノ支那人賢文子介子固二人ノ彫刻ト云フ

梶川神社　同村同大字字梶川ニアリ大寶三年ノ勅請ト云フ

五社宮神社　陶村字宮前ニアリ仁和年間勅請ス

北宮八幡神社　同村字宮歌ニアリ元暦二年即文治元年ノ勅請ト云フ

長樂寺　眞宗同村字川北ニアリ明應五年建立ス

瀧宮天滿神社　瀧宮村ニアリ祭神ハ菅原道眞束帶ノ上衣ナリ道眞讃岐守タリシカ後筑紫ヘ左遷セラレシ時其船當國香川郡笠居村下居村ノ海濱ニ碇泊セシト聞クヤ當地龍燈院明治維新ノ際廢寺住僧空澄平雅俱楽久利ト與ニ之レニ赴キ其起居ヲ訪ヒシニ空澄ニ束帶ノ上衣ト自画ノ肖像トヲ賜フ道眞薨スルノ後天暦二年二月十五日空澄一社ヲ此地ニ建テ東帶ノ上衣ト自画ノ肖像トヲ安置セリ後康暦年間細川頼之祠宇ヲ再興シ社領ヲ寄附ス文化中高松藩主松平頼儀更ニ社殿ヲ大ニセリ明治六年ノ夏三野郡三豊郡ノ暴民蜂起セシカ其際放火シ祠宇盡ク烏有ニ歸セリ明治九年二月縣社ニ列セラル

瀧宮踊　往古ヨリ念佛踊ト稱シ毎年七月二十五日阿野鵜足那珂多度四郡今綾歌仲多度ノ二郡ト爲ル某々村ノ民盛粧來リ集リテ舞踊ヲ爲ス傳ヘ云フ菅原道眞國司タル時仁和四年大旱虐ヲ爲シ民大ニ憂苦ス道眞自ラ城山ノ社ニ詣シ甘雨大ニ至ル乃チ民庶歡呼其偉德ヲ頌シ舞踏ヲ爲セリ是ヲ濫觴トス或ハ云フ國人道眞ノ筑前大宰府ニ薨スルヲ聞キ此舞踊ヲ爲シ其靈魂ヲ慰スルニ始マレリトソ抑此踊ハ「ナッパウドウヤ」ト云フヲ曲